

[illegible]

専門	選択	物理工学演習	118	学修単位	1			1							高橋 徹 宇治野 秀晃 雑賀 平 洋, 佐々木 信雄 柴田 恭幸	
専門	選択	総合化学演習Ⅱ	119	学修単位	1			1							大岡 久 子, 工藤 まゆみ	
専門	選択	統計力学	127	学修単位	2	2									宇治野 秀晃	
専門	選択	生物工学特論	128	学修単位	2	2									大岡 久 子	
専門	選択	建設材料特論	130	学修単位	2	2									田中 英 紀	
専門	選択	線型代数学	150	学修単位	2			2							吉田 は ん, 碓永 久	
専門	選択	解析力学	152	学修単位	2	2									宇治野 秀晃	
専門	選択	環境防災特論	154	学修単位	2	2									森田 年	
専門	選択	Fundamental Mechanics	156	学修単位	2			2							渡邊 悠 貴	
専門	必修	連携教育インターンシップ	157	学修単位	2			2							森田 年 一	
専門	必修	連携教育特別研究Ⅰ	158	学修単位	3	1.5		1.5							森田 年	
専門	必修	インターンシップ	82	学修単位	1	1									森田 年 一	
専門	必修	企業論	83	学修単位	1	1									宮越 俊 一, 平社 信人	
専門	必修	環境工学実験	84	学修単位	1			1							森田 年 一	
専門	必修	環境工学特別研究Ⅰ	85	学修単位	3	1.5		1.5							森田 年 一	
専門	選択	ベクトル解析	86	学修単位	2	2									高橋 徹	
専門	選択	応用解析学	87	学修単位	2			2							谷口 正	
専門	選択	複素解析	88	学修単位	2	2									北田 健 策	
専門	選択	特殊関数	89	学修単位	2	2									神長 保 仁	
専門	選択	シミュレーション工学	90	学修単位	2	2									大墳 聡	
専門	選択	遺伝子工学特論	91	学修単位	2	2									大和田 恭 子	
専門	選択	地盤工学特論	92	学修単位	2	2									森田 年	
専門	選択	応用力学特論	93	学修単位	2			2							木村 清 和	
専門	選択	構造設計特論	94	学修単位	2			2							先村 律 雄	
専門	選択	有機化学特論Ⅲ	95	学修単位	2			2							友坂 秀 之	
専門	選択	環境工学特論	96	学修単位	2			2							堀尾 明 宏	
専門	選択	環境微生物	97	学修単位	2	2									谷村 嘉 恵	
専門	選択	生命科学特論	98	学修単位	2	2									宮越 俊	
専門	選択	都市計画特論	99	学修単位	2	2									鈴木 一 史	
一般	選択	日本文化論	75	学修単位	2					2					田貝 和 子	
一般	選択	身体動作学	76	学修単位	2								2		佐藤 孝 之	
一般	選択	科学英語A	77	学修単位	1					1					伊藤 文 彦	
一般	選択	科学英語B	78	学修単位	1								1		伊藤 文 彦	
一般	選択	近代西洋社会論	81	学修単位	2								2		宮川 剛	

専門	選択	遺伝子工学特論	129	学修単位	2					2			大和田 恭子	
専門	選択	数値解析特論	131	学修単位	2							2	雑賀 洋 平	
専門	選択	解析力学	151	学修単位	2					2			宇治野 秀晃	
専門	選択	環境防災特論	153	学修単位	2					2			森田 年 一	
専門	選択	Fundamental Mechanics	155	学修単位	2							2	渡邊 悠 貴	
専門	選択	特殊関数	59	学修単位	2					2			神長 保 仁	
専門	選択	シミュレーション工学	60	学修単位	2					2			大墳 聡	
専門	選択	統計力学	61	学修単位	2					2			宇治野 秀晃	
専門	選択	地盤工学特論	62	学修単位	2					2			森田 年 一	
専門	選択	構造設計特論	63	学修単位	2							2	先村 律 雄	
専門	選択	環境微生物	64	学修単位	2					2			谷村 嘉 恵	
専門	必修	技術者倫理	65	学修単位	2							2	田中 英 紀,市 村 智康 平社 信人	
専門	必修	総合工学	66	学修単位	2							2	櫻井 文 仁	
専門	必修	環境工学特別研究II	67	学修単位	11					5.5		5.5	森田 年 一	
専門	選択	物理化学特論Ⅲ	68	学修単位	2					2			辻 和秀	
専門	選択	生物工学特論	69	学修単位	2					2			大岡 久 子	
専門	選択	土木工学演習Ⅰ	70	学修単位	1					1			堀尾 明 宏,谷 村 嘉恵 宮里 直樹	
専門	選択	土木工学演習Ⅱ	71	学修単位	1					1			田中 英 紀,木 村 清和 森田 年一	
専門	選択	土木工学演習Ⅲ	72	学修単位	1					1			先村 律 雄,鈴 木 一史 永野 博之	
専門	選択	総合化学演習Ⅰ	73	学修単位	1					1			藤野 正 家,辻 和秀	
専門	選択	総合化学演習Ⅲ	74	学修単位	1					1			齋藤 雅 和	
専門	選択	建設材料特論	79	学修単位	2					2			田中 英 紀	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	国語表現演習 I	
科目基礎情報							
科目番号	121			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	1		
教科書/教材	「大学生のための日本語表現トレーニング 実践編」三省堂9784385363264						
担当教員	太田 たまき						
到達目標							
大学生相当の文章読解・作成能力を培うとともに、それらを実践的に応用し、学業や社会生活に生かすことができるレベルへの到達を目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的な文章の代表的構成方法を十分に理解できる。			論理的な文章の代表的構成方法を理解できる。		論理的な文章の代表的構成方法を理解できない。	
評価項目2	論理的な文章を読み、論旨を客観的に理解し、要約することが十分にできる。			論理的な文章を読み、論旨を客観的に理解し、要約することが十分にできる。		論理的な文章を読み、論旨を客観的に理解し、要約することができない。	
評価項目3	自己の考えを論理的・客観的に文章に表現することが十分にできる。			自己の考えを論理的・客観的に文章に表現することができる。		自己の考えを論理的・客観的に文章に表現することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	堅実な文章を「書く」に足る日本語表現能力の向上を目指す。一般的な読解や要約の力はもちろん、さまざまな文章を書く能力を養い、その場にあった表現や形で文章を作成する力を身につける。						
授業の進め方・方法	演習形式で行う。解説のあと、授業後半に応用・実践問題を課し、時間内に提出する。						
注意点	授業前半での講義をもとに、授業内課題を課します。課題の提出が評価の基準となりますので、出席・提出状況により単位取得が難しくなる場合があります。自主的な学習を心がけてください。						
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス			本授業の目標・方針を周知徹底するとともに、次回以降の授業概要を確認する。	
		2週	文章を読解する 1			「アカデミックリーディング」の基礎を理解することができる。	
		3週	文章を読解する 2			「アカデミックリーディング」を実践することができる。	
		4週	文章を要約する 1			文章の要約法を学び、文章の大意をすばやく把握することができる。	
		5週	文章を要約する 2			文書の要約法を学び、レポートや論文の作成に活用することができる。	
		6週	インターネットや図書館の利用法			インターネットや図書館を活用し、必要な情報を収集することができる。	
		7週	堅実なレポートの書き方 1			主観文と客観文の違いやレポートの定義を理解し、それぞれにふさわしい書き分けをすることができる。	
	8週	堅実なレポートの書き方 2			「レポート」の定義やルールを理解し、自力で構成の練り上げや情報収集などの下準備ができる。		
	2ndQ	9週	堅実なレポートの書き方 3			「レポート」の定義やルールを理解し、自力で構成の練り上げや情報収集などの下準備ができる。	
		10週	いろいろな文章			インターンシップや就職活動などに必要な文章を書き分けることができる。	
		11週	堅実なレポートの書き方 4			レポートの評価基準を理解し、高評価を得られるレポートを作成することができる。	
		12週	堅実なレポートの書き方 5			レポートの評価基準を理解し、高評価を得られるレポートを作成することができる。	
		13週	ディベートの技法			ディベートの技法をもとに、多角的なものの見方を身につけ議論を深めていくことができる。	
		14週	小論文を作成する 1			小論文の在り方を理解し、ふさわしい構成を組み立てることができる。	
		15週	小論文を作成する 2			規定時間内に小論文を完成させることができる。	
		16週					
評価割合							
	授業内課題	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	国語表現演習Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	122		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		1		
教科書/教材	大学生のための日本語表現トレーニング 実践編：福島健伸（他）：三省堂：9784385363264						
担当教員	田貝 和子						
到達目標							
☐ 自分自身あるいは人のことについて具体的に話すことができる。 ☐ 自己分析ができ、エントリーシート等に反映することができる。 ☐ メール、手紙等の書式とマナーを理解し表現することができる。 ☐ パワーポイント等で効果的な視覚資料を作成することができる。 ☐ 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		自己分析ができ、エントリーシート等に反映することが十分にできる。		自己分析ができ、エントリーシート等に反映することができる。		自己分析ができ、エントリーシート等に反映することができない。	
評価項目2		メール、手紙等の書式とマナーを理解し表現することが十分にできる。		メール、手紙等の書式とマナーを理解し表現することができる。		メール、手紙等の書式とマナーを理解し表現することができない。	
評価項目3		効果的な視覚資料を作成し、効果的なプレゼンテーションを行うことが十分にできる。		効果的な視覚資料を作成し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。		効果的な視覚資料を作成し、効果的なプレゼンテーションを行うことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		生活上必要不可欠な日本語の知識と表現力、実用的な文章表現、また口頭表現の向上を目指す。					
授業の進め方・方法		演習形式で行う。教科書のトレーニングシートを用いた作業、あるいは、発表を行う。					
注意点		毎回授業時間内に何かしらの文章を書いてもらい評価の対象とします。このため欠席をしないようにしてください。教科書の該当ページが無い場合は、減点します。教科書は新品を購入してください。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		授業の概要を述べ、意義と目的について説明する。		
		2週	口頭表現		印象の良い話し方を身につける。		
		3週	紹介・説明 1		自分のことを具体的に話す。		
		4週	紹介・説明 2		自分のことを具体的に話す。		
		5週	自己 P R		効果的な面接のコツを学ぶ。		
		6週	自己分析		エントリーシートを作成する。		
		7週	お伺い・依頼		段取りを考え適切なタイミングでやりとりする。		
		8週	書式・依頼		依頼メールの基本を身につける。		
	4thQ	9週	敬語・伝言		電話対応マナーを身につける。		
		10週	相手への配慮		上手な意見交換の方法を身につける。		
		11週	視覚資料		効果的なスライドを作成する。		
		12週	レジュメ・アウトライン 1		効果的なプレゼンテーションを行う。		
		13週	レジュメ・アウトライン 2		効果的なプレゼンテーションを行う。		
		14週	レジュメ・アウトライン 3		効果的なプレゼンテーションを行う。		
		15週	レジュメ・アウトライン 4		効果的なプレゼンテーションを行う。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	20	0	0	60	100
基礎的能力	0	20	20	0	0	60	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	英語演習A	
科目基礎情報							
科目番号	123			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	1		
教科書/教材	Reading Fusion 1、Andrew E. Bennet 著 (南雲堂)						
担当教員	板谷 洋一郎						
到達目標							
大学生レベルの総合的な英語力を身につけることができる ある程度の長さの英文を読んで、内容が理解できる 本文で取り上げられている文法事項が理解できる 英語音声聞いて、内容が理解できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	本文を読んで、内容をよく理解することができる。		本文を読んで、内容をある程度理解することができる。		本文を読んで、内容を理解することができない。		
評価項目2	テキストで取り上げられている文法事項がよく理解できる。		テキストで取り上げられている文法事項がある程度理解できる。		テキストで取り上げられている文法事項が理解できない。		
評価項目3	英語音声聞いて、英文の内容をよく理解することができる。		英語音声聞いて、英文の内容をある程度理解することができる。		英語音声聞いて、英文の内容を理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	語彙、読解、リスニング、文法をカバーするテキストを用いて、総合的な英語力の向上を目指す。様々なテーマについて、自らの意見発信につながる練習をする。						
授業の進め方・方法	テキストの読解中心の活動及びリスニング中心の活動を交互に行う。随時プリントを配布する。						
注意点	授業に積極的に取り組み、自らの英語力向上に努めること。授業時間外に、予習・復習をしっかりと行うこと。紙辞書または電子辞書を持参すること（スマートフォンは禁止）。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス・Unit1 Music and the Mind Part1 (演習課題自習)		本文の内容が理解できる、短い発表ができる、語彙が理解できる		
		2週	Unit1 Music and the Mind Part2 (演習課題自習)		音声を聞いて内容が理解できる、関係詞が理解できる		
		3週	Unit2 Body Language across Cultures Part1 (演習課題自習)		本文の内容が理解できる、短い発表ができる、語彙が理解できる		
		4週	Unit2 Body Language across Cultures Part2 (演習課題自習)		音声を聞いて内容が理解できる、受動態が理解できる		
		5週	Unit3 Turning Waste into Wealth Part1 (講義・演習 [遠隔])		本文の内容が理解できる、短い発表ができる、語彙が理解できる		
		6週	Unit3 Turning Waste into Wealth Part2 (講義・演習 [遠隔])		音声を聞いて内容が理解できる、相関接続詞 (not only A, but also B) が理解できる		
		7週	Unit4 The Search for Other Worlds Part1 (講義・演習 [遠隔])		本文の内容が理解できる、短い発表ができる、語彙が理解できる		
		8週	Unit4 The Search for Other Worlds Part2 (講義・演習 [遠隔])		音声を聞いて内容が理解できる、such as + 動名詞が理解できる		
	2ndQ	9週	Unit5 Crowdsourcing Part1 (講義・演習 [遠隔])		本文の内容が理解できる、短い発表ができる、語彙が理解できる		
		10週	Unit5 Crowdsourcing Part2 (講義・演習 [遠隔])		音声を聞いて内容が理解できる、現在完了が理解できる		
		11週	Unit6 Urban Landmarks Part1 (講義・演習 [遠隔])		本文の内容が理解できる、短い発表ができる、語彙が理解できる		
		12週	Unit6 Urban Landmarks Part2 (講義・演習 [通常])		音声を聞いて内容が理解できる、比較級が理解できる		
		13週	Unit7 Food Safety Part1 (講義・演習 [通常])		本文の内容が理解できる、短い発表ができる、語彙が理解できる		
		14週	Unit7 Food Safety Part2 (講義・演習 [通常])		音声を聞いて内容が理解できる、despite / in spite of が理解できる		
		15週	プレゼンテーション (講義・演習 [通常])		既習学習事項が理解でき、長めの発表ができる		
		16週	前期定期試験		既習学習事項が理解でき、その応用ができる		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	英語演習B	
科目基礎情報							
科目番号	124			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	1		
教科書/教材	Reading Fusion 1、Andrew E. Bennet 著 (南雲堂)						
担当教員	板谷 洋一郎						
到達目標							
大学生レベルの総合的な英語力を身につけることができる ある程度の長さの英文を読んで、内容が理解できる 本文で取り上げられている文法事項が理解できる 英語音声聞いて、内容が理解できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	本文を読んで、内容をよく理解することができる。			本文を読んで、内容をある程度理解することができる。		本文を読んで、内容を理解することができない。	
評価項目2	テキストで取り上げられている文法事項がよく理解できる。			テキストで取り上げられている文法事項がある程度理解できる。		テキストで取り上げられている文法事項が理解できない。	
評価項目3	英語音声聞いて、英文の内容をよく理解することができる。			英語音声聞いて、英文の内容をある程度理解することができる。		英語音声聞いて、英文の内容を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	語彙、読解、リスニング、文法をカバーするテキストを用いて、総合的な英語力の向上を目指す。様々なテーマについて、自らの意見発信につながる練習をする。						
授業の進め方・方法	テキストの読解中心の活動及びリスニング中心の活動を交互に行う。随時プリントを配布する。						
注意点	授業に積極的に取り組み、自らの英語力向上に努めること。授業時間外に、予習・復習をしっかりと行うこと。紙辞書または電子辞書を持参すること（スマートフォンは禁止）。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Unit8 Spending a Fortune Part1		本文の内容が理解できる、短い発表ができる、語彙が理解できる		
		2週	Unit8 Spending a Fortune Part2		音声を聞いて内容が理解できる、主語と動詞の一致が理解できる		
		3週	Unit9 Wonders of the Deep Part1		本文の内容が理解できる、短い発表ができる、語彙が理解できる		
		4週	Unit9 Wonders of the Deep Part2		音声を聞いて内容が理解できる、語句の並列構造が理解できる		
		5週	Unit10 Product Placement Part1		本文の内容が理解できる、短い発表ができる、語彙が理解できる		
		6週	Unit10 Product Placement Part2		音声を聞いて内容が理解できる、直説法と仮定法が理解できる		
		7週	Unit11 White-color Crime Part1		本文の内容が理解できる、短い発表ができる、語彙が理解できる		
		8週	Unit11 White-color Crime Part2		音声を聞いて内容が理解できる、過去完了が理解できる		
	4thQ	9週	Unit12 Working Disabled Part1		本文の内容が理解できる、短い発表ができる、語彙が理解できる		
		10週	Unit12 Working Disabled Part2		音声を聞いて内容が理解できる、分詞の用法が理解できる		
		11週	Unit13 Pet Therapy Part1		本文の内容が理解できる、短い発表ができる、語彙が理解できる		
		12週	Unit13 Pet Therapy Part2		音声を聞いて内容が理解できる、so…that 構文が理解できる		
		13週	Unit15 Breaking the Poverty Cycle Part1		本文の内容が理解できる、短い発表ができる、語彙が理解できる		
		14週	Unit15 Breaking the Poverty Cycle Part2		音声を聞いて内容が理解できる、前置詞句が理解できる		
		15週	プレゼンテーション		既習学習事項が理解でき、長めの発表ができる		
		16週	後期定期試験		既習学習事項が理解でき、その応用ができる		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	実用英語A	
科目基礎情報							
科目番号	125		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		1		
教科書/教材	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test, Quick Exercises for the TOEIC L&R Test 500: Listening, Social Outlook						
担当教員	横山 孝一						
到達目標							
☐ TOEICの基本単語が理解できる ☐ TOEICのリスニング内容を理解できる ☐ 文法事項を踏まえ国内の英字新聞を理解できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
語彙の知識	TOEICの基本単語を十分に理解している		TOEICの基本単語をある程度理解している		TOEICの基本単語の理解が乏しい		
リスニング内容	リスニング内容を十分に理解している		リスニング内容をある程度理解している		リスニング内容を全く理解していない		
英文の文法事項	英文の文法事項を十分に理解している		英文の文法事項をある程度理解している		英文の文法事項を全く理解していない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	TOEICの基本単語を1500語習得し、TOEICのリスニング内容を実践的に学び、文法事項を踏まえ国内の英字新聞を理解し、以上を応用して発信力を養う。						
授業の進め方・方法	『The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test』を毎回54語覚えてきてもらい、毎回小テストを行なう。答え合わせと発音練習の後、『Quick Exercises for the TOEIC L&R Test 500: Listening』の1回分のテストを行ない、解説。ペアで会話練習をした後、『Social Outlook』の新聞記事を読解し、応用力をつける。						
注意点	『The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test』を毎回54語覚えてくる。初回から小テストを実施するので、勉強してくること。専攻科は TOEIC Testを最低400点以上取ることを課しているので、この授業を通して早めに対策すること。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業概要、Chapter 1			Travel関連の英語を理解する	
		2週	Chapter 1			Office関連の英語を理解する	
		3週	Chapter 2			Cooking関連の英語を理解する	
		4週	Chapter 2			Recreation関連の英語を理解する	
		5週	Chapter 3			Office Life関連の英語を理解する	
		6週	Chapter 3			Travel関連の英語を理解する	
		7週	Chapter 4			Job Interview関連の英語を理解する	
		8週	中間試験			総復習	
	2ndQ	9週	Chapter 4			Leisure関連の英語を理解する	
		10週	Chapter 5			Job関連の英語を理解する	
		11週	Chapter 5			Supermarket関連の英語を理解する	
		12週	Chapter 6			Office関連の英語を理解する	
		13週	Chapter 6			Daily Life関連の英語を理解する	
		14週	Chapter 7			Money関連の英語を理解する	
		15週	Chapter 7			Business関連の英語を理解する	
		16週	定期試験			総復習	
評価割合							
	試験					小テスト他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
	80	0	0	0	0	20	100
	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	実用英語B	
科目基礎情報							
科目番号	126			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	1		
教科書/教材	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test, Quick Exercises for the TOEIC L&R Test 500: Listening, Social Outlook						
担当教員	横山 孝一						
到達目標							
☐ TOEICの基本単語が理解できる ☐ TOEICのリスニング内容を理解できる ☐ 文法事項を踏まえ国内の英字新聞を理解できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
語彙の知識	TOEICの基本単語を十分に理解している			TOEICの基本単語をある程度理解している		TOEICの基本単語の理解が乏しい	
リスニング内容	リスニング内容を十分に理解している			リスニング内容をある程度理解している		リスニング内容を全く理解していない	
英文の文法事項	英文の文法事項を十分に理解している			英文の文法事項をある程度理解している		英文の文法事項を全く理解していない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	TOEICの基本単語を1500語習得し、TOEICのリスニング内容を実践的に学び、文法事項を踏まえ国内の英字新聞を理解し、以上を応用して発信力を養う。						
授業の進め方・方法	『The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test』を毎回54語覚えてきてもらい、毎回小テストを行なう。答え合わせと発音練習の後、『Quick Exercises for the TOEIC L&R Test 500: Listening』の1回分のテストを行ない、解説。ペアで会話練習をした後、『Social Outlook』の新聞記事を読解し、応用力をつける。						
注意点	『The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test』を毎回54語覚えてくる。初回から小テストを実施するので、勉強してくること。専攻科は TOEIC Testを最低400点以上取ることを課しているので、この授業を通して早めに対策すること。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	Chapter 8			Travel関連の英語を理解する	
		2週	Chapter 8			Shopping関連の英語を理解する	
		3週	Chapter 9			Business関連の英語を理解する	
		4週	Chapter 9			Restaurant関連の英語を理解する	
		5週	Chapter 10			Office関連の英語を理解する	
		6週	Chapter 10			Hotel関連の英語を理解する	
		7週	Chapter 11			Recreation関連の英語を理解する	
		8週	中間試験			総復習	
	4thQ	9週	Chapter 11			Office Environment関連の英語を理解する	
		10週	Chapter 12			Sightseeing関連の英語を理解する	
		11週	Chapter 12			Restaurant関連の英語を理解する	
		12週	Chapter 13			Advertising関連の英語を理解する	
		13週	Chapter 13			Sports関連の英語を理解する	
		14週	Chapter 14			Business world関連の英語を理解する	
		15週	Chapter 14			Education関連の英語を理解する	
		16週	定期試験			総復習	
評価割合							
	試験					小テスト他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
	80	0	0	0	0	20	100
	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	経済思想
科目基礎情報						
科目番号	80		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	なし（講義に応じて参考文献を例示します）					
担当教員	林 凌					
到達目標						
◇経済思想における代表的概念の意味とその歴史的形成過程を理解することによって、現代社会において生じている経済的問題について分析を行えるようになる。 ◇現代社会における経済システムのメカニズムについて理解し、今後の展望を行うことが出来るようになる。 ◇日本特長的な経済・経営思想の流れとその諸帰結を理解することによって、現代日本社会において生じている様々な問題やその源泉を把握することが出来るようになる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	経済思想における代表的な概念の意味について、その歴史的経緯も含め十分に理解し、読書などを通してさらに理解を深めることが出来る。		経済思想における代表的な概念の意味について理解することが出来る。		経済思想における代表的な概念の意味について理解出来ていない。	
評価項目2	現代社会を考察するツールとして経済思想の諸概念を用い、現実生じている問題に対し分析を加えることができる。		現代社会を考察するツールとして経済思想の諸概念を用いることができる。		現代社会を考察するにあたって、経済思想の諸概念を用いることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	・講義や参考文献の講読を通じて、経済思想の基本的な知識を身につける。 ・講義の内容に関係する資料や参考図書を読み込み、少人数での議論などを通じて、経済思想やそれにまつわる応用問題について、多様な観点から考察し、学習内容の理解を深める。 ・授業内容についてのワークシートやレポート課題の作成を通じて、学習内容の定着を図るとともに、自らの見解を論理的に表現する訓練を行う。					
授業の進め方・方法	原則講義形式で行う。講義の内容や文献・資料の講読にもとづいたグループでの議論なども実施する。 最終評価はワークシートとレポート課題の合算で行う。					
注意点	参考書は以下の通り（授業中に別途参考文献を提示します） ナイアル・キシティニー、2018、『若い読者のための経済学史』すばる舎。 中村隆之、2018、『はじめての経済思想史 アダム・スミスから現代まで』講談社。 安倍悦生、2010、『経営史』日本経済新聞出版社。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンスー経済思想を学ぶ意義		高専生が「経済思想」を学ぶことについて、どのような意味があるのかを知ることが出来る。	
		2週	「経済」とは何か		一般に社会で語られる「経済」という概念が、そもそもどのようなものなのかを原論的に理解することが出来る。	
		3週	「貨幣」とは何か		経済思想において重要な分析枠組みである「貨幣」概念がどのような意味を託され形成されてきたのかを理解することが出来る。	
		4週	「市場」とは何か		経済思想において重要な分析枠組みである「市場」概念がどのような意味を託され形成されてきたのかを理解することが出来る。	
		5週	「資本主義」とは何か		現代社会の主要な体制であるとされる「資本主義」が、どのような歴史的経緯のもと生まれたものなのかを理解することが出来る。	
		6週	「社会主義」とは何か		1990年代以降急激に退潮した「社会主義」が、どのような歴史的経緯の中で要請されたものなのかを理解することが出来る。	
		7週	「新自由主義」とは何か		現代社会でしばしば批判的に述べられる本概念が、歴史的にどのような形で形成されてきたのかを理解することが出来る。	
		8週	社会科学における再現性		自然科学と社会科学の間にある本質的違いと、それに対応しようとした経済思想の流れについて理解することが出来る。	
	4thQ	9週	企業の変遷		現代の企業がどのような歴史的経緯のもと現れたのかを理解することが出来る。	
		10週	フォーディズムとポストフォーディズム		「フォーディズム」体制と「ポストフォーディズム」体制の違いを理解することが出来る。	
		11週	イノベーションのジレンマ		近年の大企業によるベンチャー企業の相次ぐ買収が、なぜ起きているのかを理論的に理解することが出来る。	
		12週	日本における経済学・経営学の導入過程		日本における経済・経営学の導入過程を理解し、欧米のそれとの差異とその影響を理解することが出来る。	
		13週	日本的経営①その歴史的定着過程		今もおお支配的な「日本的経営」が、どのような歴史的経緯のもと日本に定着したのかを理解することが出来る。	

		14週	日本的経営②現代におけるその問題	今もなお支配的な「日本的経営」が現在抱えている問題点を理解し、その対策について検討することが出来る。				
		15週	日本における「流通革命」の諸相	現在の日本における流通業、特に小売業が、戦後どのような経済・経営思想のもと発展を遂げたのかを理解することが出来る。				
		16週						
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	授業中の課題	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	80	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	80	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	水理学特論	
科目基礎情報							
科目番号	100		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	日野幹雄：明解水理学，丸善株式会社（ISBN978-4-621-02778-3）						
担当教員	永野 博之						
到達目標							
土木事業の中には，河川・海岸・港湾・水力発電・上下水道・灌漑などの水に関する事業がきわめて多い．これら事業の計画・設計・施工にあたっては，水の基本性質，流れの状態，流れが土木構造物（堰・ダム・橋など）に及ぼす影響などに関する知識・技術などが重要となる．このような水の運動を力学的に取り扱う学問である水理学に関する本科で身につけた基礎と応用能力を確実なものにするとともに，水の流れの内部に生じている現象や諸量の分布状態などのより詳細な情報に関する学問である流体力学の基礎能力を養成する．							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科で勉学した水理学の発展的内容として，主に水を対象とした流体力学の基礎理論に関する講義を行う．						
授業の進め方・方法	講義形式による座学						
注意点	レポートを全て提出することは成績評価を行う条件であり，未提出のレポートがある場合は，総合成績を0点とする．						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	流体の物理的性質(1)		・ 流体の物理的性質（密度，粘性，応力）を理解できる． ・ 流体を連続体として認識することができる．		
		2週	流体の物理的性質(2)		圧縮性と非圧縮性，表面張力と毛細現象を理解できる．		
		3週	流体の定量化と次元解析		レーリーの方法与バッキンガムのn定理を理解できる．		
		4週	流体運動の表現		・ ラグランジュ表示とオイラー表示の概念を理解できる． ・ 実質微分のラグランジュ表示とオイラー表示を理解できる．		
		5週	連続式		圧縮性流体と非圧縮性流体の連続式を理解できる．		
		6週	非粘性流体の運動方程式		オイラーの運動方程式を理解できる．		
		7週	粘性流体の応力の表現		粘性流体の応力の表現を理解できる．		
		8週	粘性流体の運動方程式		ナビア・ストークスの運動方程式の構成を理解できる．		
	4thQ	9週	流体の変形と回転		・ 流体要素の伸縮・ずれ・回転の表現を理解できる． ・ 渦度を理解できる．		
		10週	速度ポテンシャルと渦なし流れ，流れ関数		・ 速度ポテンシャル，渦なし流れを理解できる． ・ 流れ関数を理解できる．		
		11週	非定常流れに対するベルヌーイの定理		・ 非定常流れに対するベルヌーイの定理を理解できる． ・ 非定常の場合のベルヌーイの定理の例を理解できる．		
		12週	非定常流れに対する運動量保存則		非定常流れに対する運動量保存則を理解できる．		
		13週	運動量保存則の応用		運動量保存則を応用した抗力の評価法を理解できる．		
		14週	開水路の非定常流(1)		開水路の非定常流の基礎式（連続式・運動方程式）を理解できる．		
		15週	開水路の非定常流(2)		・ キネマティック・ウェーブを理解できる． ・ ダイナミック・ウェーブを理解できる． ・ クライツ・セドンの法則を理解できる．		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	土木計画特論	
科目基礎情報							
科目番号	101			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	先村 律雄						
到達目標							
O R 手法の考え方、方法について理解する。 各手法がもつ課題について考える							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	各計画手法を実問題に適用できる			各計画手法をの計算をおこなうことができる		各手法の原理を理解できない	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	社会基盤計画においては、都市活動の実態を踏まえた計量的なアプローチが求められており、アカウンタビリティの必要性、市民参加の高まり等により、その重要性は高まっている。本講義では、その基礎となる最適化手法を学習する。具体的には、線形計画、割り当て問題、輸送問題の考え方・展開ができることである。						
授業の進め方・方法	ゼミナール方式である。 本講義では、鉄筋コンクリート関連分野において実務経験を有する教員がその経験を活かし、土木計画について授業をおこなう。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		土木計画の位置付け等		
		2週	線形計画法（１）		シンプレックス法（１）		
		3週	線形計画法（２）		シンプレックス法（２）		
		4週	線形計画法（３）		演習（１）		
		5週	線形計画法（４）		演習（２）		
		6週	線形計画法（５）		演習（３）まとめ		
		7週	輸送問題（１）		近似解計算		
		8週	輸送問題（２）		修正配分法		
	4thQ	9週	輸送問題（３）		演習		
		10週	割当問題（１）		最大化問題と最小化問題		
		11週	割当問題（２）		演習		
		12週	割当問題（３）		まとめ		
		13週	ネットワーク（１）		線形計画演習とプレゼンテーション		
		14週	ネットワーク（２）		演習とプレゼンテーション		
		15週	ネットワーク（３）		まとめ		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	40	0	0	0	60	100
基礎的能力	0	20	0	0	0	30	50
専門的能力	0	20	0	0	0	30	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	構造物デザイン特論		
科目基礎情報								
科目番号	102		科目区分		専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2			
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専1			
開設期	前期		週時間数		2			
教科書/教材	教科書：考え方がよくわかる設計実務 鉄筋コンクリート構造物の設計, 大成建設株式会社土木本部土木設計部編, インデックス出版							
担当教員	井上 和真							
到達目標								
☐ 鉄筋コンクリートの基本的特性、設計の流れを理解する。 ☐ 許容応力度設計法、限界状態設計などの設計法や構造細目などを理解できる。 ☐ RC構造物の構造解析におけるモデル化、断面力の集計ができる。 ☐ RC構造物の曲げ応力度照査、せん断応力度照査を理解できる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	RC構造物の設計条件、設計手法、構造細目を十分に理解できる		RC構造物の設計条件、設計手法、構造細目を理解できる		RC構造物の設計条件、設計手法、構造細目を十分に理解できない			
評価項目2	RC構造物のモデル化を十分に理解できる		RC構造物のモデル化を理解できる		RC構造物のモデル化を理解できない			
評価項目3	曲げモーメント、せん断力に対して、RC構造物の照査を十分に理解し、設計に活用できる。		曲げモーメント、せん断力に対して、RC構造物の照査を理解し、設計に活用できる。		曲げモーメント、せん断力に対して、RC構造物の照査を理解できず、設計に活用できない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	鉄筋コンクリート構造物の設計について学習する。鉄筋コンクリート構造物の設計演習およびプレゼンテーションを通じて、実務における設計体系を理解することが大切である。							
授業の進め方・方法	実務との関連を強く意識して、授業を行う。授業内容により、PCを用いた構造解析, プロジェクトを使用する場合がある。							
注意点	授業内容と実務で行われている設計・施工との関連を意識して授業に臨むこと。授業に臨むにあたり必要となる自学自習を充分に行うこと。また、構造力学、土質力学、コンクリート構造工学、CADなど土木工学に関連する基礎知識を応用して授業を行う。よって、授業開始前に、これらの科目の復習することが望ましい。							
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	ガイダンス、鉄筋コンクリートの基本事項、構造の詳細と設計の流れ			RC構造物の基本事項や、設計の流れが理解できる		
		2週	許容応力度設計法、限界状態設計法、耐久性設計などの各種設計手法、構造細目、配筋図の書き方			各種設計法や構造細目、配筋図の書き方のルールがわかる		
		3週	構造物設計演習（1）：設計条件の整理			RC構造物の設計条件の整理ができる		
		4週	構造物設計演習（2）：構造物の安定性の検討			RC構造物の構造解析結果の安定計算を理解できる		
		5週	構造物設計演習（3）：構造解析1 構造モデルの作成			RC部材の構造解析へのモデル化が理解できる		
		6週	構造物設計演習（4）：構造解析2 構造計算			RC部材の構造解析の基本を理解できる		
		7週	構造物設計演習（5）：構造解析3 断面力の集計			RC部材の構造解析結果の断面力の集計方法を理解できる		
	2ndQ	8週	構造物設計演習（5）：応力度照査1 曲げ応力度照査			RC部材の曲げ応力度照査の方法を理解できる		
		9週	構造物設計演習（6）：応力度照査2 せん断応力度照査			RC部材のせん断応力度照査の方法を理解できる		
		10週	構造物設計演習（7）：応力度照査3 せん断補強鉄筋量の検討			RC部材のせん断補強鉄筋量の算定ができる		
		11週	構造物設計演習（8）：構造計設計算書作成1			ワープロソフトや表計算ソフトを活用して、構造設計計算書の作成ができる		
		12週	構造物設計演習（9）：構造計設計算書作成2			ワープロソフトや表計算ソフトを活用して、構造設計計算書の作成ができる		
		13週	プレゼンテーション1：課題発表の準備			プレゼンテーションソフトを活用して、構造物のプレゼができる		
		14週	プレゼンテーション2：課題発表の準備			プレゼンテーションソフトを活用して、構造物のプレゼができる		
		15週	プレゼンテーション3：課題発表会			レポート提出		
16週								
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	30	0	0	0	70	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	0	30	0	0	0	70	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	高分子化学特論	
科目基礎情報							
科目番号	103			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	参考書：ベーシックマスター 高分子化学：西久保忠臣：オーム社 参考書：新高分子化学序論：伊勢典夫 (ほか：化学同人						
担当教員	出口 米和						
到達目標							
高分子の基礎として高分子の分類を理解する 高分子の物性と構造の関係を理解する 機能性高分子と特徴を理解する							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	高分子の基礎として高分子の分類を理解し説明することができる。			高分子の基礎として高分子の分類を理解できる。		高分子の基礎として高分子の分類を理解できない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目の総授業時間数は22.5時間である。 高分子と低分子化合物の違いについて理解する。次に、高分子の一次構造，二次構造，高次構造について理解し，それぞれの特徴を理解する。 高分子が持つ物性と構造の関係を理解し，現在利用されている高分子の特徴について学ぶ。						
授業の進め方・方法	座学						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	概要				
		2週	高分子化学の基礎（1）				
		3週	高分子化学の基礎（2）				
		4週	高分子化学の基礎（3）				
		5週	高分子化学の基礎（4）				
		6週	高分子の物性（1）				
		7週	高分子の物性（2）				
		8週	高分子の物性（3）				
	4thQ	9週	高分子の物性（4）				
		10週	無機高分子，機能性高分子（1）				
		11週	無機高分子，機能性高分子（2）				
		12週	無機高分子，機能性高分子（3）				
		13週	無機高分子，機能性高分子（4）				
		14週	無機高分子，機能性高分子（5）				
		15週	まとめ				
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	無機化学特論Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	104		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	配布プリント						
担当教員	平 靖之						
到達目標							
☐ 無機材料の結晶構造，欠陥構造，不定比性について理解できる。 ☐ 電子・イオン伝導材料の基礎と応用について理解できる。 ☐ 誘電・圧電材料の基礎と応用について理解できる。 ☐ 磁性材料の基礎と応用について理解できる。 ☐ 触媒材料の基礎と応用について理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		ペロブスカイト型酸化物の構造を十分に説明できる。		ペロブスカイト型酸化物の構造を説明できる。		ペロブスカイト型酸化物の構造を説明できない。	
評価項目2		ペロブスカイト型酸化物の物性を十分に説明できる。		ペロブスカイト型酸化物の物性を説明できる。		ペロブスカイト型酸化物の物性を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	ペロブスカイト型化合物およびペロブスカイト関連化合物は，構成元素と結晶構造の多様性により，強誘電性・導電性・超伝導性・イオン伝導性・触媒機能・磁性・エネルギー変換能など，多岐にわたる機能の宝庫となっている。そこでこれらの物質群に注目し，固体化学の観点から無機材料の基礎と応用を学ぶ。						
授業の進め方・方法	座学						
注意点							
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	組成と結晶構造（1）		ペロブスカイト型構造を理解できる。		
		2週	組成と結晶構造（2）		理想的なペロブスカイト型構造からのずれを理解できる。		
		3週	不定比性と欠陥構造（1）		ペロブスカイト構造の特徴と組成変動を理解できる。		
		4週	不定比性と欠陥構造（2）		代表的なペロブスカイト型酸化物の酸素不定比性と欠陥平衡を理解できる。		
		5週	電子物性（1）		ペロブスカイト型酸化物のバンド構造を理解できる。		
		6週	電子物性（2）		ペロブスカイト型酸化物の電気的性質を理解できる。		
		7週	イオン伝導性（1）		ペロブスカイト型酸化物の酸化物イオン伝導性を理解できる。		
	8週	イオン伝導性（2）		ペロブスカイト型酸化物のプロトン伝導性を理解できる。			
	4thQ	9週	超伝導性（1）		複合銅酸化物高温超伝導体の組成と構造を理解できる。		
		10週	超伝導性（2）		複合銅酸化物高温超伝導体の電子状態を説明できる。		
		11週	強誘電性（1）		強誘電性を理解するための物質の対称性と群論を説明できる。		
		12週	強誘電性（2）		圧電性，焦電性，強誘電性を説明できる。		
		13週	磁性（1）		ペロブスカイト型酸化物の磁気構造を説明できる。		
		14週	磁性（2）		ペロブスカイト型酸化物の二重項間相互作用を説明できる。		
		15週	触媒		自動車用排ガス浄化触媒について説明できる。		
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	工業数学演習 I	
科目基礎情報							
科目番号	105			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	1		
教科書/教材	特に指定しない. 必要に応じてプリント等を配る.						
担当教員	碓氷 久,谷口 正,清水 理佳,吉田 はん,大嶋 一人,荒川 達也,神長 保仁,北田 健策						
到達目標							
☐ 1変数と2変数の微分積分の基本と応用問題が解け、理解できる。 ☐ 線形代数の基本と応用問題が解け、理解できる。 ☐ さまざまな微分方程式が解け、理解できる。 ☐ フーリエ変換、ラプラス変換とそれを使った微分方程式と偏微分方程式が理解できる。 ☐ ベクトル解析におけるベクトル関数、ベクトル場、線積分、面積分などが理解できる。 ☐ 複素関数論における正則関数、コーシーの積分定理、留数定理を理解できる。 ☐ 確率統計の基本と応用問題が理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	積分を的確に応用して面積、体積を正確に求めることができる。		積分を応用して面積、体積を求めることができる。		積分を応用して面積、体積を求めることができない。		
評価項目2	複雑な線積分、面積分ができる。		線積分、面積分ができる。		線積分、面積分ができない。		
評価項目3	固有値、固有ベクトルの定義を理解し応用することができる。		固有値、固有ベクトルを求めることができる。		固有値、固有ベクトルを求めることができない。		
評価項目4	いろいろな微分方程式を解くことができる。		線形微分方程式を解くことができる。		線形微分方程式を解くことができない。		
評価項目5	留数定理を十分理解し、自主的に応用できる。		留数定理を理解し、その応用ができる。		留数定理を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	微分積分学、線型代数学、微分方程式、ベクトル解析、確率統計、複素関数、応用解析学、など数学全般における演習など。						
授業の進め方・方法	講義に即した演習問題を解かせる一方、時間の関係で講義では触れることが出来ない内容に関しても触れる機会を与える。微分積分学、線型代数学、微分方程式、ベクトル解析、確率統計、複素関数、応用解析学、など数学全般ができるようにする。						
注意点	数学は工学を勉強するうえで不可欠なものであるので、自分の研究課題にどう生かせるかなどを考えながら授業に臨むとよい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	基礎数学		漸化式		
		2週	基礎数学		数学的帰納法		
		3週	微分積分		極限、連続性、微分可能性、微分積分の応用		
		4週	微分積分		数列と級数、テーラー展開		
		5週	微分方程式		1 階常微分方程式 2 階線形微分方程式		
		6週	微分方程式		定数係数線形微分方程式 連立微分方程式		
		7週	線形代数		行列、行列式、固有値、行列の対角化と2次形式		
		8週	線形代数		複素行列、ジョルダンの標準形		
	4thQ	9週	応用解析		フーリエ級数、フーリエ変換		
		10週	応用解析		偏微分方程式と境界値問題		
		11週	ベクトル解析		抽象的なベクトル算法、スカラー積、ベクトル積とベクトル代数		
		12週	ベクトル解析		勾配、回転、発散、ラプラシアン		
		13週	複素解析		複素微分、正則関数		
		14週	複素解析		複素積分、留数定理		
		15週	確率統計		離散的確率、確率過程、連続的確率、確率密度関数、平均と分散		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	量子力学 I	
科目基礎情報							
科目番号	106			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	基礎量子力学/猪木慶治・川合光 ISBN: 978-4-06-153240-3						
担当教員	塚原 規志						
到達目標							
1. 量子力学と古典力学の違いを理解できる。 2. 波動関数に対する十分な理解ができる。 3. 重ね合わせの原理に対する十分な理解ができる。 4. 連続固有値に対して、特に粒子の位置に対しての確率解釈を正しく行うことができる。 5. 重ね合わせ状態における確率解釈を、特に離散固有値の場合に正しく行うことができる。 6. 簡単な場合につきシュレディンガー方程式をたてることができる。 7. 1次元の簡単なポテンシャルに対するシュレディンガー方程式を解くことができる。 8. 1次元調和振動子の生成、消滅演算子による理解ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1		1次元の束縛状態について十分理解している。	1次元の束縛状態について理解している。		1次元の束縛状態について理解していない。		
評価項目2		1次元の散乱問題について十分理解している。	1次元の散乱問題について理解している。		1次元の散乱問題について理解していない。		
評価項目3		調和振動子について十分理解している。	調和振動子について理解している。		調和振動子について理解していない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1. 量子力学が考案されるまでの歴史、状況等に関して簡単に学ぶ。 2. 波動関数とその重ね合わせの原理および確率解釈について学ぶ。 3. 量子力学に特有な古典物理量に対応する演算子と量子化について学ぶ。 4. 演算子の固有値と測定値の関係について学ぶ。 5. 1次元のいくつかの簡単な場合についてシュレディンガー方程式のたて方とその解の作り方を学ぶ。 6. 1次元の例としてトンネル効果を扱う。 7. 最後に1次元調和振動子について学ぶ。						
授業の進め方・方法							
注意点	1. 講義時に関連する計算練習問題、課題を提示します。該当箇所の講義を受講後、すみやかに自力で解くよう努力する習慣づけが必要です。 2. 量子力学の枠組みは線形代数を基礎としています。行列とベクトルに独特な意味を持たせたものとなっています。しかしながら、通常の量子力学では、扱う対象が通常の連続量である位置と運動量であるため、線形代数としての構造が見えにくいという難点があります。本講義でも、連続量を扱うため、微分、積分を使いますが、微分積分に惑わされることなく、本質的な枠組みも意識できるようにしてください。 3. 量子力学の理論は、演算子、状態ベクトル、確率解釈等独特な概念に基づいて成り立っています。それらに慣れるためには十分な自学自習の時間の確保が必要です。						
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	講義の概要、古典論の限界と量子論の誕生		講義のポイントが理解できる		
		2週	光と電子の二重性		ミクロの世界の原理が通常世界の原理と異なり、二重性によって生じる現象が理解できる		
		3週	シュレーディンガー方程式1		波動関数、およびそれがみたすシュレーディンガー方程式を理解できる		
		4週	物理量の期待値、不確定性原理、古典的極限		物理量の期待値、不確定性原理、古典的極限を理解できる。		
		5週	1次元の問題-定常状態、井戸型ポテンシャル1		定常状態での波動関数をシュレーディンガー方程式から導ける		
		6週	1次元の問題-井戸型ポテンシャル2		ポテンシャル井戸によって束縛された波動関数の振る舞いを理解できる		
		7週	1次元の問題-調和振動子		シュレーディンガー方程式を直接解くことによって、量子力学的な調和振動子を理解できる		
	8週	問題演習およびその解説		基本的な問題を解くことができる。			
	2ndQ	9週	1次元の問題-反射と透過1		粒子がポテンシャル障壁に入射したときの振る舞いを理解できる		
		10週	1次元の問題-反射と透過2、トンネル効果		粒子がポテンシャルの山に入射したときの振る舞いを理解でき、その典型例であるトンネル効果を理解できる		
		11週	量子力学の一般的性質1		量子力学を記述するためのハミルトン形式での力学を理解できる		
		12週	量子力学の一般的性質2		量子力学を記述する描像、正準量子化		
		13週	量子力学の一般的性質3		内積、直交、エルミート演算子、完全性関係		
		14週	調和振動子：生成消滅演算子		生成消滅演算子の意味を理解し、調和振動子系の問題を解くことができる。		
		15週	問題演習およびその解説		基本的な問題を解くことができる。		
16週							
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計

総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	8 0	0	0	0	0	2 0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	量子力学Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	107			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	基礎量子力学：猪木慶治、川合 光：講談社：9784061532403						
担当教員	柴田 恭幸						
到達目標							
水素原子、スピン、摂動論について学習し、次のことをできるようにする。 ☐ 角運動量とその固有値、固有関数の性質を理解できる。 ☐ 球面調和関数と方向量子化について理解できる。 ☐ 中心力場における動径波動関数がみたす方程式が理解できる。 ☐ 水素原子のエネルギー固有関数とエネルギー固有値の性質が理解できる。 ☐ 一般の角運動量のもつ性質を理解できる。 ☐ スピンと統計の関係が理解できる。 ☐ 縮退のない定常状態の摂動論を用いて典型的な問題を解くことができる。 ☐ 縮退のある定常状態の摂動論を用いて典型的な問題を解くことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	極座標系のシュレーディンガー方程式を十分に理解している。		極座標系のシュレーディンガー方程式を理解している。		極座標系のシュレーディンガー方程式が理解できていない。		
評価項目2	一般の角運動量の持つ性質を十分に理解している。		一般の角運動量の持つ性質を理解している。		一般の角運動量の持つ性質を理解できていない。		
評価項目3	縮退のない定常状態の摂動論を用いて典型的な問題を解くことが出来る。		縮退のない定常状態の摂動論を用いた1次摂動と2次摂動の基本計算ができる。		縮退のない定常状態の摂動論を用いた1次摂動と2次摂動の基本計算ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	量子力学I に引き続き、量子力学の基本的考え方を学ぶ。 本授業は中心力場におけるシュレーディンガー方程式の考え方、角運動量とスピンの考え方、応用上重要な摂動論に関して学習する。						
授業の進め方・方法	座学等						
注意点	量子力学I が多少理解不足でもついていけるように配慮しますが、量子力学I を受講したことは仮定します。 また、線形代数関連の講義のいずれかの履修を推奨します。 量子力学は特殊関数とも関係するので合わせて選択すると理解が深まると思います。 材料系・物質系・物理系の人にとって量子力学は大切な素養の一つです。そういう分野に関心のある人は積極的に選択して下さい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	中心力場の問題 1		極座標によるシュレーディンガー方程式、動径変数と角度変数による変数分離		
		2週	中心力場の問題 2		軌道角運動量演算子とルジャンドルの多項式		
		3週	中心力場の問題 3		球面調和関数		
		4週	中心力場の問題 4		動径シュレーディンガー方程式		
		5週	中心力場の問題 5		水素原子のシュレーディンガー方程式		
		6週	中心力場の問題 6		水素原子のエネルギー準位と波動関数		
		7週	角運動量とスピン 1		一般の角運動量と昇降演算子		
		8週	角運動量とスピン 2		一般の角運動量の固有値、固有関数		
	4thQ	9週	角運動量とスピン 3		電子のスピン、粒子の同等性		
		10週	角運動量とスピン 4		スピンの行列表示		
		11週	角運動量とスピン 5		角運動量の合成		
		12週	近似法 1		定常状態の摂動論(縮退なし) 1		
		13週	近似法 2		定常状態の摂動論(縮退なし) 2		
		14週	近似法 3		定常状態の摂動論(縮退あり) 1		
		15週	近似法 4		定常状態の摂動論(縮退あり) 2		
		16週	定期試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	情報基礎論	
科目基礎情報							
科目番号	108			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	情報基礎論テキスト：大豆生田 利章						
担当教員	崔 雄						
到達目標							
☐ Linux の基礎操作ができる。 ☐ emacs と日本語入力ができる。 ☐ DTP入門（日本語LaTeX）ができる。 ☐ 作図入門（GNUPLLOT）ができる。 ☐ プログラミング入門（Java Applet）ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	プログラミング入門（Java Applet）が説明できる。			プログラミング入門（Java Applet）が理解できる。		プログラミング入門（Java Applet）が理解できない。	
評価項目2	Linux の基礎操作が説明できる。			Linux の基礎操作が理解できる。		Linux の基礎操作が理解できない。	
評価項目3	DTP入門（日本語LaTeX）が説明できる。			DTP入門（日本語LaTeX）が理解できる。		DTP入門（日本語LaTeX）が理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	工学各分野において技術者・研究者に求められる計算機活用の基礎的能力と情報整理を実習を通して身に付ける。						
授業の進め方・方法	IT教育研究センター（図書館端末室）を使用した実習が中心となる						
注意点	パソコンの基本的な操作（マウス移動、クリック、キーボード入力）を知っていることが望ましいが、詳細な知識は不要である。 学習の進捗状況により、演習の順序や内容が変更されることがある。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		ログイン・ログアウト、各種設定		
		2週	emacs		emacs の操作および日本語入力		
		3週	Linuxの基本操作 (1)		ファイル操作		
		4週	Linuxの基本操作 (2)		ディレクトリ操作、シェルの機能		
		5週	グラフ作成		GNUPLLOTの基本操作		
		6週	Java Applet入門 (1)		プログラミング入門		
		7週	Java Applet入門 (2)		マウス操作の利用		
		8週	Java Applet入門 (3)		重ね書き		
	2ndQ	9週	Java Applet入門 (4)		時間に関する処理		
		10週	LaTeX (1)		LaTeXの基本的な使い方		
		11週	LaTeX (2)		LaTeXにおける数式の記述方法		
		12週	LaTeX (3)		LaTeXへの画像の組込み		
		13週	LaTeX (4)		LaTeXを用いた文書作成の総合的演習		
		14週	ウェブページ作成入門		簡単なウェブページの作成		
		15週	ITCと自然災害				
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	20	0	0	0	0	80	100
基礎的能力	10	0	0	0	0	40	50
専門的能力	5	0	0	0	0	40	45
分野横断的能力	5	0	0	0	0	0	5

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	エネルギー材料特論	
科目基礎情報							
科目番号	110		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	特に定めない						
担当教員	山内 啓						
到達目標							
○高温酸化 □高温材料に必要な耐酸化特性について説明できる □原子価制御・欠陥反応式について説明できる □酸化皮膜にかかる応力要因について説明できる ○火力発電 □火力発電の原理・しくみについて説明できる □各種環境と必要な材料特性について理解できる ○原子力発電 □原子力発電の原理・しくみについて説明できる □各種環境と必要な材料特性について理解できる ○燃料電池 □燃料電池の原理について説明できる □各種環境と必要な材料特性について理解できる ○エネルギー変換メディア □各種新開発メディアの原理について説明できる □各種環境と必要な材料特性について理解できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	簡単な欠陥反応式を取り扱うことができ、高温酸化の原理について説明できる		高温酸化の原理について説明できる		高温酸化の原理について説明できない		
評価項目2	耐環境性材料特性について理解し、火力発電、原子力発電の原理・しくみについて説明できる		火力発電、原子力発電の原理・しくみについて説明できる		火力発電、原子力発電の原理・しくみについて説明できない		
評価項目3	必要な材料特性について理解し、燃料電池の原理について説明できる		燃料電池の原理について説明できる		燃料電池の原理について説明できない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	各種エネルギー変換プロセスの原理を学び、それらに必要な金属・セラミックスなどのエネルギー材料について理解を深めるとともに、それらの環境で必要な特性について学ぶ。						
授業の進め方・方法	授業の最初の10分から20分程度、輪番でテーマに沿った口頭説明・プレゼンテーションを学生に課す。さらに、その内容について、クラス内で質疑・議論することで、個人が調べた内容をクラス内の履修者全体で共有する。このような能動的学習活動を取り入れた授業を行う。プレゼンテーション・質疑などの内容についても評価の対象とする。 概論的な内容もあるため、時間外に自ら基礎的な知識の確認、習得などを行う必要がある。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンスと金属・セラミックス材料概論		授業の概要・これまでの知識の確認をおこなう		
		2週	金属・セラミックス材料概論		金属の高温酸化・高温腐食について説明できる		
		3週	金属・セラミックス材料概論		金属の高温酸化・高温腐食について説明できる		
		4週	金属・セラミックス材料概論		金属の高温酸化・高温腐食について説明できる		
		5週	金属・セラミックス材料概論		金属の高温酸化・高温腐食について説明できる		
		6週	火力発電の仕組みと必要材料特性		火力発電の仕組みを説明できる		
		7週	火力発電の仕組みと必要材料特性		様々な部材の必要材料特性について説明できる		
		8週	火力発電の仕組みと必要材料特性		様々な部材の必要材料特性について説明できる		
	4thQ	9週	廃棄物発電の仕組みと必要材料特性		様々な部材の必要材料特性について説明できる		
		10週	廃棄物発電の仕組みと必要材料特性		様々な部材の必要材料特性について説明できる		
		11週	原子力発電の仕組みと必要材料特性		原子力発電の仕組みを説明できる		
		12週	原子力発電の仕組みと必要材料特性		様々な部材の必要材料特性について説明できる		
		13週	燃料電池の仕組みと必要材料特性		燃料電池の仕組みを説明できる。様々な部材の必要材料特性について説明できる		
		14週	エネルギーメディア変換材料		様々なエネルギーメディアについて理解する		
		15週	エネルギーメディア変換材料		様々なエネルギーメディアについて理解する		
		16週	試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	材料学特論	
科目基礎情報							
科目番号	111			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	機械・金属材料学／実教出版 を教科書として指定 但し、機械材料学（丸善 荘司他）を代替としてかまわない						
担当教員	山内 啓						
到達目標							
☐ 金属の機械的性質の概要を説明できる。 ☐ 炭素鋼の熱処理の目的・方法などを説明できる。 ☐ 金属の結晶構造や充填率の違いを説明できる。 ☐ X線回折について基礎事項を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	金属の結晶構造や組織の違いによる機械的性質の発現について説明できる			金属の特徴的な機械的性質を説明できる		金属の特徴的な機械的性質を説明できない	
評価項目2	欲しい機械的性質に応じて炭素鋼の熱処理を選択することができる			炭素鋼の熱処理の目的・方法を説明できる		炭素鋼の熱処理の目的・方法を説明できない	
評価項目3	結晶構造の違いによるX線回折について説明できる			材料のX線回折について説明できる		材料のX線回折について説明できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	金属の機械的性質、転位と強化機構、破壊の概要、合金と熱処理、相変態などについて専門用語を説明しながら講義する。						
授業の進め方・方法	講義形式；適宜パワーポイントの使用、プリント配布						
注意点	出身学科により、基礎的な知識が異なるのでわからないワードについては適宜質問を受け付ける						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	概要・金属の基礎的な知識		基礎的な知識を確認できる		
		2週	結晶構造・欠陥		金属の代表的な結晶構造を説明できる		
		3週	状態図		状態図を理解する		
		4週	状態図2		状態図から金属組織の推定		
		5週	状態図3		てこの法則を理解する		
		6週	鉄鋼材料		鉄鋼材料を説明できる		
		7週	鉄鋼材料の熱処理		熱処理の目的・方法を説明できる		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	変形・転位		S-Sカーブについて説明できる		
		10週	変形・転位(2)		転位を理解する		
		11週	変形・転位(3)		変形挙動を転位を使って説明できる		
		12週	金属の強化機構		金属の強化方法を説明できる		
		13週	疲労・クリープ		金属の疲労について説明できる		
		14週	X線回折		ブラッグの式 消滅則を説明できる		
		15週	非鉄金属材料		非鉄金属材料の特徴を理解する		
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	数値解析特論	
科目基礎情報							
科目番号	112			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	数値計算法第2版新装版 三井田 淳郎, 須田 宇宙 著: 森北出版、参考書: C&FORTRANによる数値解析の基礎: 川崎 晴久: 共立出版						
担当教員	雑賀 洋平						
到達目標							
☐ 丸め誤差, 打ち切り誤差, 桁落ちについて理解できる。 ☐ 数値解析アルゴリズムについて理解できる。 ☐ 得意とする言語をもちいてプログラムが書けて実行できる。 具体的には, 2分法, ニュートン法による非線形方程式の数値解法, ガウスの消去法, ガウスジョルダン法, LU分解による連立一次方程式の数値解法, 台形則, シンプソン則による数値積分法, オイラー法, ルンゲ・クッタ法による微分方程式の数値解法) ☐ 簡単な情報処理の問題に対して, 上記の数値解析アルゴリズムを組み合わせることで問題解決ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	丸め誤差, 打ち切り誤差, 桁落ちについて理解でき、利用できる。			☐ 丸め誤差, 打ち切り誤差, 桁落ちについて理解できる。		☐ 丸め誤差, 打ち切り誤差, 桁落ちについて理解できない。	
評価項目2	数値解析アルゴリズムについて理解でき、得意とする言語をもちいてプログラムが書けて実行できる。			数値解析アルゴリズムについて理解できる。		数値解析アルゴリズムについて理解できない。	
評価項目3	簡単な情報処理の問題に対して, 上記の数値解析アルゴリズムを組み合わせることで問題解決ができる。			簡単な情報処理の問題に対して, 上記の数値解析アルゴリズムを組み合わせることで利用できる。		簡単な情報処理の問題に対して, 上記の数値解析アルゴリズムを組み合わせることで利用できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	☐ 丸め誤差, 打ち切り誤差, 桁落ちについて理解できる。 ☐ 数値解析アルゴリズムについて理解できる。 ☐ 得意とする言語をもちいてプログラムが書けて実行できる。 具体的には, 2分法, ニュートン法による非線形方程式の数値解法, ガウスの消去法, ガウスジョルダン法, LU分解による連立一次方程式の数値解法, 台形則, シンプソン則による数値積分法, オイラー法, ルンゲ・クッタ法による微分方程式の数値解法) ☐ 簡単な情報処理の問題に対して, 上記の数値解析アルゴリズムを組み合わせることで問題解決ができる。						
授業の進め方・方法	座学、実習						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		概要説明、コンピュータのスキルについての調査		
		2週	非線形方程式の数値解法 1		二分法、ニュートン法の説明と実習		
		3週	連立方程式の数値解法 1		ガウスの消去法、ガウス・ジョルダン法、LU分解を利用した連立方程式の解法の説明		
		4週	連立方程式の数値解法 2		実習 1、ガウスの消去法、ガウス・ジョルダン法		
		5週	連立方程式の数値解法 3		実習 2 : LU分解による連立方程式の解法		
		6週	最小二乗法と補間 1		最小二乗法の説明と実習		
		7週	最小二乗法と補間 2		ラグランジュ補間の説明と実習		
		8週	数値積分 1		台形法、ニュートン・コーツの数値積分法の説明		
	4thQ	9週	数値積分 2		実習		
		10週	微分方程式の数値解法 1		オイラー法、ルンゲ・クッタ法の説明		
		11週	微分方程式の数値解法 2		実習		
		12週	総合演習 1		グループ分け、課題設定		
		13週	総合演習 2		課題遂行 1		
		14週	総合演習 3		課題遂行 2		
		15週	総合演習 4		課題遂行 3、報告書作成、発表		
		16週	試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	0	0	0	0	30	80
分野横断的能力	0	0	0	0	0	20	20

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	物理化学特論 I	
科目基礎情報							
科目番号	113			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	藤野 正家						
到達目標							
化学は反応・変化、結合、構造、性質（物性、機能）といった物質の4つの特徴を扱う学問である。本授業では、最初に反応・変化の推進力となるエネルギーについて学ぶ。次いで、結合と構造を律している電子と光の相互作用によって現れる性質、および、反応の活性化エネルギーを制御できる電極反応について学ぶ。 (1) 反応・変化の推進力と状態の変化を説明できる。 (2) 光と電子の相互作用を説明できる。 (3) 電気化学反応を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	反応・変化の推進力と状態の変化を詳細に説明できる。		反応・変化の推進力と状態の変化を説明できる。		反応・変化の推進力と状態の変化を説明できない。		
評価項目2	光と電子の相互作用を詳細に説明できる。		光と電子の相互作用を説明できる。		光と電子の相互作用を説明できない。		
評価項目3	電気化学反応を詳細に説明できる。		電気化学反応を説明できる。		電気化学反応を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	化学は反応・変化、結合、構造、性質（物性、機能）といった物質の4つの特徴を扱う学問である。本授業では、最初に反応・変化の推進力となるエネルギーについて学ぶ。次いで、結合と構造を律している電子と光の相互作用によって現れる性質、および、反応の活性化エネルギーを制御できる電極反応について学ぶ。 この科目は、企業で機能性有機物質の研究開発に携わっていた教員が、その経験を活かし、物性化学について授業を行うものである。						
授業の進め方・方法	座学 板書による講義を中心に授業を進める。 節目節目でレポート課題を課す。 必要に応じてプロジェクターを使用し、視覚的な理解を促す。 授業内容は「授業計画」を参照。						
注意点	本科で学んだ物理化学と無機化学をよく復習しておくこと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	熱力学（1）		気体の可逆等温膨張、不可逆等温膨張にともなう仕事・熱を計算できる。		
		2週	熱力学（2）		気体の可逆断熱膨張にともなう仕事と温度を計算できる。		
		3週	熱力学（3）		ジュール・トムソン効果を説明できる。 エンタルピーの温度依存性を説明できる。		
		4週	相平衡		ギブスエネルギーと化学ポテンシャルについて説明できる。 水の蒸発にともなうギブスエネルギー変化を計算できる。		
		5週	相図（1）		三重点とクラペイロン・クラウジウスの式について説明できる。		
		6週	相図（2）		与えられた条件からアンモニアの相図を描ける。		
		7週	化学平衡		与えられた条件から炭酸カルシウムの解離圧または解離温度を計算できる。		
		8週	光と電子の相互作用（1）		古典理論に基づいて光の屈折・吸収を説明できる。		
	2ndQ	9週	光と電子の相互作用（2）		古典理論に基づいて光の散乱を説明できる。		
		10週	光と電子の相互作用（3）		量子理論に基づいて光の放射・吸収を説明できる。		
		11週	光と電子の相互作用（4）		金属の光学的性質について説明できる。		
		12週	電荷移動相互作用（1）		電荷移動錯体の波動関数を理解し、その光吸収について説明できる。		
		13週	電荷移動相互作用（2）		ベネシー・ヒルデブランドの式を理解し、電荷移動錯体のモル吸光係数と平衡定数の求め方を説明できる。		
		14週	電気化学反応（1）		Tafel式を理解し、過電圧と反応速度の関係を説明できる。		
		15週	電気化学反応（2）		混成電位について説明できる。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	物理化学特論Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	114			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	参考書：現代物理化学：寺嶋正秀・馬場正昭・松本吉泰：化学同人 参考書：物理化学（下）：マッカーリ・サイモン：東京化学同人 参考書：はじめての化学反応論：土屋荘次：岩波書店 参考書：エンジニアのための物理化学：Yates・Johnson：東京化学同人						
担当教員	辻 和秀						
到達目標							
反応速度および化学反応論の初歩に関して理解できる。 反応機構から、反応速度式が書ける 化学反応の本質を、化学反応速度論と反応ダイナミクスの点から概観し、理解できる。 化学反応を量子化学的な視点と統計力学的な視点でとらえられる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	反応速度および化学反応論の初歩に関して充分理解できる。			反応速度および化学反応論の初歩に関して理解できる。		反応速度および化学反応論の初歩に関して理解できない。	
評価項目2	複雑な反応機構から、性格に反応速度式が書ける			反応機構から、反応速度式が書ける		反応機構から、反応速度式が書けない	
評価項目3	化学反応の本質を、化学反応速度論と反応ダイナミクスの点から正確に概観し、充分理解できる。			化学反応の本質を、化学反応速度論と反応ダイナミクスの点から概観し、理解できる。		化学反応の本質を、化学反応速度論と反応ダイナミクスの点から概観できず、また理解できない。	
評価項目4	化学反応を量子化学的な視点と統計力学的な視点で正確にとらえられる。			化学反応を量子化学的な視点と統計力学的な視点でとらえられる。		化学反応を量子化学的な視点と統計力学的な視点でとらえられない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	化学反応で反応物や生成物の濃度がどのように変化するか、という観点で化学反応をとらえる反応速度論と化学反応において、分子がどのように衝突し反応物へと変化するか、という観点で化学反応をとらえる反応動力学の基礎を学ぶ。						
授業の進め方・方法	講義中心の授業であるが、演習を交えながら進める。						
注意点	授業内容の背景にある、量子化学や数学、物理の内容を準備学習として復習すること。また、宿題に取り組み、授業の内容を復習すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	量子化学の復習1		量子力学の特徴を理解する		
		2週	量子化学の復習2		分子の回転・振動エネルギーについて理解する		
		3週	統計力学入門1		統計力学の基礎を理解し、ボルツマン分布を理解する		
		4週	統計力学入門2		分配関数を理解し、等分配則を理解する		
		5週	統計力学入門3		統計力学的エントロピーを理解する		
		6週	統計力学入門4		化学平衡の分子論的な意味を理解する		
		7週	反応速度論1		反応速度式および逐次反応について理解する		
		8週	反応速度論2		定常状態近似を理解し、リンデマン機構について理解する		
	4thQ	9週	反応速度論3		連鎖反応の速度論、および爆発反応の速度論を理解する		
		10週	反応速度論4		燃焼反応や光化学反応の速度論を理解する		
		11週	反応ダイナミクス1		気体分子運動論と反応速度、溶液中の拡散律速反応について理解する		
		12週	反応ダイナミクス2		遷移状態理論について理解する		
		13週	反応ダイナミクス3		ポテンシャルエネルギー曲面について理解する		
		14週	反応ダイナミクス4		反応ダイナミクスについて理解する		
		15週	電子移動反応		電子移動反応の理論を理解する		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	有機化学特論 I	
科目基礎情報							
科目番号	115		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	本科の有機化学系の科目で使用した教科書を引き続き使用する						
担当教員	中島 敏						
到達目標							
この授業を履修することにより、有機化合物の構造と反応性の基礎的理解を深め、以下のことができるようになることが目標である。 ・代表的な反応に関して、その反応機構が説明できる。 ・電子論に立脚し、構造と反応性の関係が予測できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	初見の反応であっても、生成物が与えられたとき、反応機構を適切に推測し、説明できる。		授業で扱った代表的な反応について、反応機構を書き、説明することができる。		反応機構の書き方がわからない。		
評価項目2	初見の反応であっても、その基質の構造から推測して、反応物の構造、反応性等について、適切に推測することができる。		授業で扱った代表的な反応について、反応物の構造、反応性等について、適切に説明することができる。		反応の生成物の予測、および、反応性の予測が全くできない。		
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	有機化学は生命科学、材料化学といった広範囲にわたる物質科学の基礎的な役割を果たす。有機化学的なものの考え方を知り、有機化合物の構造や性質、あるいは反応性等に関する基礎的知識を身につけることが、新たな世紀の重要な課題である環境問題、エネルギー問題等の解決にも必要不可欠であると思われる。 有機化学は、多少覚えなければいけない部分はあるにしても、反応物と試薬の組み合わせを覚える暗記の学問ではない。自発的に起きる変化にはすべて理由がある。反応機構についても解説するから、なぜそのような反応が起きるのか、位置選択性や立体選択性を示すのかを理解するように心掛けてほしい。 本講義では、2年「基礎有機化学」、3年「有機化学I」、4年「有機化学II」にひきつづき、該当科目で使用してきた教科書に沿って学ぶ。そのほか、教科書の範囲としてはすでに履修済みである部分についても、適宜詳細な反応機構の解説を行い、復習する予定である。 主な参考書は、以下の通り。 参考書：マクマリー 有機化学概説：John McMurry：東京化学同人：978-4807905881 参考書：マクマリー有機化学(上)(中)(下)：John McMurry：東京化学同人：978-4807906116 参考書：ポルハルト・ショアー現代有機化学(上)(下)：K.Peter C. Vollhardt, Neil E. Schore：化学同人：978-4759809633 参考書：ジョーンズ有機化学(上)(下)：Jr.,Maitland Jones：東京化学同人：978-4807906314 参考書：モリソン・ボイド 有機化学(上)(中)(下)：Robert T. Morrison, Robert N. Boyd：東京化学同人：978-4807904013 「マクマリー有機化学概説」は、コンパクトにまとめられており初学者にとって要点をつかむには便利な本であるが、詳しい解説が少ないという難点もある。より深く学習するためには、（背伸びをするのではなく）必要に応じて「マクマリー有機化学」（上・中・下）や、「ポルハルト・ショアー現代有機化学」（上・下）（合成好きな人向きという評判）、「ジョーンズ 有機化学」（上・下）（反応機構の詳しさに定評）、「モリソン・ボイド 有機化学」（上・中・下）（詳しいという定評）、ソロモン、クラム、バイン、マーチなどの中から選ぶとよい。 なお、専攻科卒業後に大学院進学を考えている者で具体的な目標が定まっている者は、進学目標とする大学で使用している教科書を選択するとよい。						
授業の進め方・方法	専攻科の少人数授業の特性を生かし、一方的な知識の伝達だけの場とならないよう、講義形式で反応の紹介を行うとともに、ディスカッション形式を取り入れる。 また、前回までの授業内容に関した内容、および課題として調べるように指示した内容について、小テストを授業冒頭に行う。これにより、知識や考え方の定着を図る（第2週目以降、13回 × 各5%）。ただし、諸事情により小テストを行えない場合は、その分の割合を、期末試験に上乗せして評価することがある。なお、期末試験時には、総合的な問題を出題する予定である。						
注意点	暗記ではなく理解するように心掛けること。 授業中に判らないところがでてきた場合にはそのまま放置せず、発言、質問するなど、確認しながら進めること。 予習、復習を十分に行うこと。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	求核置換反応 溶媒効果 脱離基の効果				
		2週	求核置換反応 S _N i機構				
		3週	三員環における求核反応 オキシラン環 シクロプロパン環 ハロニウムイオン マーキュリニウムイオン				
		4週	隣接基効果				

		5週	脱離反応 同位体効果 骨格転位 E1-E2-E1CB	
		6週	脱離反応 カルボカチオンを中間体とする転位反応	
		7週	速度論的支配と熱力学的支配	
		8週	酸触媒と塩基触媒の比較 ホルマール化 エステル化と加水分解	
	2ndQ	9週	芳香族求電子反応	
		10週	芳香族求核置換反応 活性化基 ジアソニウム塩 ベンザイン機構	
		11週	転位反応と中間体 カルボカチオン イソシアナート	
		12週	正電荷をもつ酸素上への転位 クメン法 バエヤービリガー反応	
		13週	その他の転位	
		14週	ペリ環状反応	
		15週	定期試験	
		16週		

評価割合							
	期末試験	小テスト					合計
総合評価割合	35	65	0	0	0	0	100
基礎的能力	35	65	0	0	0	0	100

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	有機化学特論Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	116			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	ブルース 有機化学 (下) , 第7版 : Paula Y. Bruice 著 大船泰史・香月昴・西郷和彦・富岡清 監訳 : 化学同人						
担当教員	友坂 秀之						
到達目標							
☐ カルボニル化合物の一般的性質について理解することができる。 ☐ カルボニルα置換反応について理解することができる。 ☐ カルボニル縮合反応について理解することができる。 ☐ アミンの一般的な合成や反応などについて理解することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	具体例を挙げ、カルボニル化合物の一般的な性質を説明できる。			カルボニル化合物の一般的な性質を理解できる。		左記に達していない。	
評価項目2	具体例を挙げ、カルボニルα置換反応を説明できる。			カルボニルα置換反応を説明できる。		左記に達していない。	
評価項目3	具体例を挙げ、カルボニル縮合反応を説明できる。			カルボニル縮合反応を説明できる。		左記に達していない。	
評価項目4	具体例を挙げ、アミンの一般的な合成や反応などを説明できる。			アミンの一般的な合成や反応などを説明できる。		左記に達していない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目の総授業時間数は22.5時間である。 これまでに、有機化学では、おもに有機化合物の性質、合成、および反応などについて学んでいる。このようなこれまでの有機化学をもとに、炭素と炭素との新たな結合の形成および官能基の有機化学について、基礎的な知識を得るとともに理解を深める。						
授業の進め方・方法	授業計画を参照のこと。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	カルボニル化合物の予習		カルボニル化合物の基礎について説明できる。		
		2週	カルボニルα置換反応		カルボニルのα水素原子の酸性度を理解できる。		
		3週	カルボニルα置換反応		ケト-エノール互変異性を理解できる。		
		4週	カルボニルα置換反応		カルボニルのαハロゲン化を理解できる。		
		5週	カルボニルα置換反応		マロン酸エステル合成とアセト酢酸エステル合成を理解できる。		
		6週	カルボニルα置換反応		ケトン、エステル、およびニトリルの直接アルキル化を理解できる。		
		7週	カルボニル縮合反応		アルドール反応を理解できる。		
		8週	カルボニル縮合反応		混合アルドール反応と分子内アルドール反応を理解できる。		
	2ndQ	9週	カルボニル縮合反応		C l a i s e n縮合を理解できる。		
		10週	カルボニル縮合反応		混合C l a i s e n縮合と分子内C l a i s e n縮合を理解できる。		
		11週	カルボニル縮合反応		M i c h a e l反応、S t o r kエナミン反応、およびR o b i n s o n環形成反応を理解できる。		
		12週	アミン		基礎的性質を理解できる。		
		13週	アミン		合成 (還元) を理解できる。		
		14週	アミン		合成 (H o f m a n n転位とC u r t i u s転位) を理解できる。		
		15週	アミン まとめ		反応を理解できる。 課題問題の解答を作成できる。		
		16週					
評価割合							
		試験		レポート		合計	
総合評価割合		70		30		100	
基礎的能力		0		0		0	
専門的能力		70		30		100	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	無機化学特論 I	
科目基礎情報							
科目番号	117		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	教科書：第4版 無機化学 [上] [下]：シュライバー著 田中、平尾、北川 訳：東京科学同人 参考書：基礎無機化学[第3版]：コットン・ウィルキンソン・ガウス著：培風館						
担当教員	太田 道也						
到達目標							
近年では、有機化合物の特性と金属原子の特性をハイブリッドさせるという新しい展開がみられ学部レベルにも一般化されてきている。本科目ではそうした新しい基礎無機化学を学ぶ。 ☐ 分子軌道の考えに基づいて化学結合と反応性について理解できる。 ☐ 錯体の結合状態と結晶構造を理解できる。 ☐ 対称性と点群によって物質の安定性や物性予測を理解できる。 ☐ 電子移動と酸化還元反応の化学や有機金属化合物などについて分子軌道の考えに基づいて理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	錯体の結合状態と結晶構造について理解して十分に説明できる。		錯体の結合状態と結晶構造について理解して説明できる。		錯体の結合状態と結晶構造について理解して説明できない。		
評価項目2	対称性と点群と物性との関係について理解して十分に説明できる。		対称性と点群と物性との関係について理解して説明できる。		対称性と点群と物性との関係について理解して説明できない。		
評価項目3	分子軌道法に基づいた化学結合と電子配置、エネルギー状態の関係について理解して十分に説明できる。		分子軌道法に基づいた化学結合と電子配置、エネルギー状態の関係について理解して説明できる。		分子軌道法に基づいた化学結合と電子配置、エネルギー状態の関係について理解して説明できない。		
評価項目4	電気化学反応と電解工業や電池反応と発電、エネルギー貯蔵問題、エネルギー問題、環境問題について理解して十分に説明できる。		電気化学反応と電解工業や電池反応と発電、エネルギー貯蔵問題、エネルギー問題、環境問題について理解して説明できる。		電気化学反応と電解工業や電池反応と発電、エネルギー貯蔵問題、エネルギー問題、環境問題について理解して説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	無機化合物は量子論的な化学結合の考えにもとづいて結合論や化学反応論を学ぶ。また結晶構造やX線回折による構造解析、点群標記と結晶構造との関係、熱化学的取り扱いでの結晶構造などを学ぶ。物性や化学反応が構造や結合における電子状態に左右されることを分子軌道の考えに基づいて学ぶ。						
授業の進め方・方法	座学						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバスに基づく本授業の内容と予定の説明と無機化学の基礎について復習		酸・塩基、酸化・還元、共有結合とイオン結合、結晶系などを総括的に説明できる。		
		2週	化学結合（1）		分子間相互作用の種類とミクロ及びマクロな構造の形成および物性との関係について説明できる。		
		3週	化学結合（2）		原子化結合（VB）理論から考える等核二原子分子と異核二原子分子の化学結合を説明できる。		
		4週	化学結合（3）		VB理論から考える多原子分子の化学結合と立体構造、VSEPR理論と分子力場について説明できる。		
		5週	化学結合（4）		分子軌道（MO）理論から考える二原子分子、多原子分子とVB論の違いについて説明できる。		
		6週	結晶構造（1）		分子の対称性と点群、結晶における対称性と群論について説明できる。		
		7週	結晶構造（2）		軌道の対称性とMO論について説明できる。		
		8週	結晶構造（3）		結晶・非結晶とX線回折法を用いた結晶構造の解析法について説明できる。		
	2ndQ	9週	X線結晶学		Braggの式と結晶構造解析について説明できる。		
		10週	錯体化学（1）		d金属錯体の構造と対称性について説明できる。		
		11週	錯体化学（2）		結晶場理論から考える配位子場分裂と中心金属原子の電子配置について説明できる。		
		12週	錯体化学（3）		磁気測定または電子協名吸収測定に基づく中心金属ない電子配置について説明できる。		
		13週	錯体化学（4）		配位化学とヤーンテラー歪み、軌道の重なりから考える配位子場理論と構造について説明できる。		
		14週	錯体化学（5）		有機金属化合物および錯体の電子状態と電子スペクトルについて説明できる。		
		15週	電気化学工業		電気化学反応と電解工業・電池・エネルギー貯蔵材料について説明できる。		
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	0	0	0	0	80
専門的能力	10	10	0	0	0	0	20

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	物理工学演習	
科目基礎情報							
科目番号	118			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	1		
教科書/教材	演習 大学院入試問題 [物理学] I <第2版> 姫野俊一 著 (サイエンス社)						
担当教員	高橋 徹,宇治野 秀晃,雑賀 洋平,佐々木 信雄,柴田 恭幸						
到達目標							
☐ 大学院入試で過去に出題された問題の解法を理解し, 保存則に関する標準レベルの問題を解くことができる. ☐ 大学院入試で過去に出題された問題の解法を理解し, 剛体に関する標準レベル問題を解くことができる. ☐ 大学院入試で過去に出題された問題の解法を理解し, 熱力学第一法則に関する標準レベルの問題を解くことができる. ☐ 大学院入試で過去に出題された問題の解法を理解し, 熱力学第二法則に関する標準レベルの問題を解くことができる.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	保存則に関する応用レベルの問題を解くことができる.			保存則に関する標準レベルの問題を解くことができる.		保存則に関する標準レベルの問題を解くことができない.	
評価項目2	剛体に関する応用レベル問題を解くことができる			剛体に関する標準レベル問題を解くことができる		剛体に関する標準レベル問題を解くことができない	
評価項目3	熱力学に関する応用レベルの問題を解くことができる			熱力学に関する標準レベルの問題を解くことができる		熱力学に関する標準レベルの問題を解くことができない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	理工系の大学院入試を強く意識した内容の演習を行なう。内容は、力学と熱力学を主なものとする。複数の教官が交代で担当し、各回の学習内容はその回の担当教官が決定する。進行予定その他は初回に告知される。						
授業の進め方・方法	座学						
注意点	各回ごとにその回の担当教員が独立して成績評価を行う。次ページの予定表はあくまで予定であり、実際の進行及び評価基準の設定は各担当教員ごとに独自に発表される。掲示等に注意して欲しい。各担当教員が算出した点数は分担回数を重みとした加重平均をし、100点満点による総合点とする。各回の内容に関する質問はその回の担当教員に行うこと。全般的な成績処理に関することは代表教員まで問い合わせてください。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	力学		連成振動, 2体問題		
		2週	力学		重力, 連成振動		
		3週	力学		惑星の運動, 重力		
		4週	力学		天体の運動		
		5週	力学		回転運動, 天体の運動, 衝突		
		6週	力学		回転体上の運動, 衝突, 慣性力		
		7週	力学		剛体の束縛運動, 落下運動		
		8週	力学		剛体の運動(1)		
	4thQ	9週	力学		剛体の運動(2)		
		10週	熱力学		熱サイクル		
		11週	熱力学		ファンデルワールスの状態方程式		
		12週	熱力学		JT効果, 熱サイクル, 光子気体		
		13週	熱力学		ショットキー比熱, 気体分子運動		
		14週	熱力学		熱力学の諸問題(1)		
		15週	熱力学		熱力学の諸問題(2)		
		16週					
評価割合							
	レポート課題	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	50
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	総合化学演習Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	119		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		1		
教科書/教材	参考書：ブルース有機化学（上、下）：東京化学同人 参考書：ヴォート生化学（上、下）：東京化学同人 プリント等を適宜、配布する。						
担当教員	大岡 久子,工藤 まゆみ						
到達目標							
☐ 基本的な生体分子の構造とその機能を説明できる。 ☐ 基本的な代謝の機構を説明できる。 ☐ 基本的な有機化合物の合成法を説明できる。 ☐ 各種官能基が関与する反応の機構や生成物を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	基本的な生体分子の構造とその機能を十分に理解し、説明できる。		基本的な生体分子の構造とその機能を説明できる。		基本的な生体分子の構造とその機能を説明できない。		
評価項目2	基本的な代謝の機構を十分に理解し、説明できる。		基本的な代謝の機構を説明できる。		基本的な代謝の機構を説明できない。		
評価項目3	基本的な有機化合物の合成法を十分に理解し、説明できる。		基本的な有機化合物の合成法を説明できる。		基本的な有機化合物の合成法を説明できない。		
評価項目4	各種官能基が関与する反応の機構や生成物を十分に理解し、説明できる。		各種官能基が関与する反応の機構や生成物を説明できる。		各種官能基が関与する反応の機構や生成物を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	分子生物学、生化学、生物工学、有機化学に関する演習を行う。 第1回～第8回 生体分子の構造と機能、代謝 第9回～第15回 有機化合物の合成法、イオン反応を中心とした各種官能基の関与する有機反応						
授業の進め方・方法	講義および演習・解説						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	分子生物学・生化学・生物工学演習（1） 生物の最小単位である細胞についての演習 生物分野全体に関する演習		生物の最小単位である細胞について説明できる		
		2週	分子生物学・生化学・生物工学演習（2） アミノ酸・ペプチドに関する演習 （構造，機能，代謝に関する演習）		アミノ酸・ペプチドについて説明できる 小テストで80点以上をとる		
		3週	分子生物学・生化学・生物工学演習（3） タンパク質・酵素，脂質に関する演習 （構造，機能，代謝に関する演習）		タンパク質・酵素について説明できる 脂質について説明できる		
		4週	分子生物学・生化学・生物工学演習（4） 糖に関する演習 （構造，機能，代謝に関する演習）		糖について説明できる		
		5週	分子生物学・生化学・生物工学演習（5） セントラルドグマに関する演習		セントラルドグマに関する事象について説明できる		
		6週	分子生物学・生化学・生物工学演習（6） タンパク質工学に関する演習 （合成方法，解析方法などを含む）		タンパク質工学や解析方法について事例を挙げて説明できる		
		7週	分子生物学・生化学・生物工学演習（7） 遺伝子工学に関する演習 （塩基配列解析法，PCRなどを含む）		遺伝子工学に関する技術について事例を挙げて説明できる		
		8週	分子生物学・生化学・生物工学演習（8） 微生物工学に関する演習 （微生物の利用，免疫機構に関する内容を含む）		微生物工学について事例を挙げて説明できる		
	4thQ	9週	有機化学演習（1）		有機化合物の酸性度と塩基性度について説明できる		
		10週	有機化学演習（2）		アルケンへの求電子付加反応について説明できる		
		11週	有機化学演習（3）		芳香族求電子置換反応について説明できる		
		12週	有機化学演習（4）		飽和炭素における求核置換反応について説明できる		
		13週	有機化学演習（5）		脱離反応について説明できる		
		14週	有機化学演習（6）		エノラートの反応（アルドール反応）について説明できる		
		15週	有機化学演習（7）		小テスト		
		16週					
評価割合							
		演習	小テスト		発表等	合計	
総合評価割合		65	25		10	100	
第1～8回（生化学）		30	10		10	50	

第9－15回（有機化学）	35	15	0	50
--------------	----	----	---	----

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	統計力学
科目基礎情報					
科目番号	127	科目区分		専門 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科	環境工学専攻	対象学年		専1	
開設期	前期	週時間数		2	
教科書/教材	教科書は特に指定しない。この講義に合わせた自作問題集をウェブサイトから配布する。				
担当教員	宇治野 秀晃				
到達目標					
☐ 熱力学の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。 ☐ 小正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。 ☐ 正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。 ☐ 量子統計力学の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。 ☐ イジング模型に関する解析の容易な例題を取り扱うことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
熱力学の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。	熱力学の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。		熱力学の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができない。		熱力学の基本的な枠組みを理解し、熱力学の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことが出来る。基本的な問題を取り扱うことができない。
小正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。	小正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。		小正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができる。		小正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができない。
正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。	正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。		正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができる。		正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができない。
量子統計力学の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。	量子統計力学の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。		量子統計力学の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができる。		量子統計力学の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができる。
イジング模型に関する解析の容易な例題を取り扱うことができる。	イジング模型に関する解析の容易な例題を取り扱うことができる。		イジング模型に関する解析の容易な例題を取り扱うことがほほできる。		イジング模型に関する解析の容易な例題を取り扱うことができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	我々の身の回りにあるものは、非常に多数の原子や分子が集まってできている。これらの原子や分子の個々の運動を規定するミクロな情報から、我々の目に見える物体が示す、非常に多数の原子や分子の集団的な振る舞いを与えるマクロな情報を引き出す理論体系が統計力学である。本講義では、取り扱いが比較的容易な例題に親しみながら、平衡状態に対する統計力学の理論体系を概観する。				
授業の進め方・方法	座学				
注意点	統計力学は熱力学といっしょになってまとめた理論体系を形作っています。初回講義で熱力学の最小限の知識について、まとめて解説しますが、EJ出身の皆さんは共通専門科目の応用物理II、MK出身の皆さんは専門科目の熱力学、物理化学で学んだ熱力学について、事前によく復習しておくとういでしょう。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	熱力学ミニマム	・内部エネルギーとエントロピー 統計力学問題集 ・自由エネルギー（自作教材） ・マクスウェルの関係式 ・ゴムひもの熱力学	
		2週	古典統計力学	・等重率の原理 統計力学問題集 ・小正準集団（自作教材） ・理想気体	
		3週	古典統計力学	・2準位系 ・ゴム弾性 ・正準集団	
		4週	古典統計力学	・分配関数 ・ギブスのパラドックス ・理想気体	
		5週	古典統計力学	・2準位系 ・大正準集団	
		6週	古典統計力学	・理想気体 ・Langmuirの等温吸着式	
		7週	量子統計力学	・黒体輻射	
		8週	古典統計力学の総復習	・第6週までの内容のテストゼミ（模擬試験＋問題解説）	
	2ndQ	9週	量子統計力学	・ボース統計 ・フェルミ統計	
		10週	量子統計力学	・理想ボース気体 ・理想フェルミ気体	
		11週	量子統計力学	・格子比熱	
		12週	量子統計力学	・電子比熱	
		13週	強相関係の統計力学－イジング模型	・1次元イジング模型の厳密解	

		14週	強相関系の統計力学－イジング模型	・ イジング模型の平均場近似 ・ 相転移 ・ 臨界指数
		15週	量子統計力学とイジング模型の総復習	・ 第7週以降の内容のテストゼミ（模擬試験＋問題解説）
		16週	定期試験	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	生物工学特論	
科目基礎情報							
科目番号	128			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	参考書：生物化学工学：海野肇ほか著：講談社サイエンティフィック 参考書：酵素－科学と工学－：堀越弘毅ほか著：講談社サイエンティフィック 参考書：バイオプロセス工学：海野肇ほか著：講談社サイエンティフィック 参考書：バイオケミカルエンジニアリング：佐田栄三・砂本順三編：丸善 参考書：基礎から学ぶ生物化学工学演習：日本生物工学会編：コロナ社						
担当教員	大岡 久子						
到達目標							
☐ 生物が有する機能を有効に利用する手段，問題点などを説明できる。 ☐ バイオリアクターやバイオセパレーションについて説明できる。 ☐ 酵素や微生物の特性と工学的利用について説明できる。 ☐ 細胞培養技術や植物育種について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	生体触媒，固定化生体触媒について説明できる			生体触媒，固定化生体触媒について理解できる		生体触媒，固定化生体触媒について理解できない	
評価項目2	プロテインエンジニアリングについて説明できる			プロテインエンジニアリングについて理解できる		プロテインエンジニアリングについて理解できない	
評価項目3	微生物などの生物利用について説明できる			微生物などの生物利用について理解できる		微生物などの生物利用について理解できない	
評価項目4	反応器としてのバイオリアクターやバイオセパレーションの方法について説明できる			反応器としてのバイオリアクターやバイオセパレーションの方法について理解できる		反応器としてのバイオリアクターやバイオセパレーションの方法について理解できない	
評価項目5	細胞培養技術の利用や植物バイオテクノロジーについて説明できる			細胞培養技術の利用や植物バイオテクノロジーについて理解できる		細胞培養技術の利用や植物バイオテクノロジーについて理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目の総授業時間数は22.5時間である。 酵素，バイオリアクター，バイオセパレーション，生物プロセスの計測と制御などに関する理解を通じて，技術的課題に対応する能力を修得する。 酵素反応，微生物反応などの利用方法や問題点などを理解する。細胞工学の応用について理解する。						
授業の進め方・方法	講義，演習，解説						
注意点	分からないことは質問する						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	生物工学とは 化学工学の基礎 生物化学の基礎		化学工学と生物化学の基礎的内容が理解できる		
		2週	酵素の利用（1） 酵素の概要と特徴（反応性，特異性，反応速度，阻害剤など）		酵素反応の特徴を理解できる		
		3週	酵素の利用（2） 酵素の固定化（担体結合法，架橋法，包括法）		酵素の固定化について理解できる		
		4週	プロテインエンジニアリング（1） タンパク質の人工合成		タンパク質の人工合成について理解できる		
		5週	プロテインエンジニアリング（2） タンパク質のデザイン		タンパク質のデザインについて理解できる		
		6週	微生物などの利用（1） 微生物の特性 微生物における反応速度論		微生物の特性や反応速度論について理解できる		
		7週	微生物などの利用（2） 微生物の利用		微生物の工学的利用について理解できる		
		8週	確認テスト				
	2ndQ	9週	バイオリアクター（1）		バイオリアクターの概要について説明できる		
		10週	バイオリアクター（2）		反応器，培養槽としてのバイオリアクターについて説明できる		
		11週	バイオリアクター（3） バイオセパレーション（1）		バイオリアクターの設計について理解できる バイオセパレーションの概要について説明できる		
		12週	バイオセパレーション（2）		バイオセパレーションの単位操作について理解できる		
		13週	生物工学の応用（1）		生物工学の応用について説明できる		
		14週	生物工学の応用（2）		細胞培養技術の利用について説明できる		
		15週	生物工学の応用（3）		植物細胞工学と植物育種について理解できる		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	10	0	10	100
基礎的能力	30	0	0	5	0	5	40

專門的能力	50	0	0	5	0	5	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	建設材料特論	
科目基礎情報							
科目番号	130			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	コンクリート構造工学、弾塑性力学、コクリート技術の要点						
担当教員	田中 英紀						
到達目標							
建設材料として主に利用されるコンクリートおよび鋼材の材料特性を理解し、両者を用いた鉄筋コンクリート部材の力学特性を設計手法と併せて習得する。さらに、鉄筋コンクリート部材の経時劣化を評価できる解析または、数学モデルを理解し、ライフサイクルコストを考慮した耐久性・耐荷性設計の基本を身に着ける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	コンクリートと鋼材の基本る気迫特性を理解する。			構成則を理解できる。		基本力学特性が理解できない。	
評価項目2	コンクリートの劣化原因とその解析モデルが理解できる、			塩害、中性化の予測する数学モデルが理解できる、		経時劣化を予測するモデルが理解できない。	
評価項目3	最新の補修・補強の定義が理解でき、主な施工方法が理解できる。			補修・補強の定義と施工方法が理解できる。		補修および補強の意図が理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	コンクリートと鋼材の基本力学特性を復習し、鉄筋コンクリート部材耐力、塩害、中性化、アルカリ骨材反応を中心とした経時劣化現象を概説し、その数学モデルを利用して劣化予測を理解する。さらに、これらの劣化に対する補修および補強工法を説明し、環境負荷低減技術と併せて実務の基礎を理解する。						
授業の進め方・方法	講義形式で、隔年開講する。						
注意点	評価は、定期末試験のみで行う。 コンクリート工学およびコンクリート構造学を履修していること。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 概要			講義の概要、建設材料の特性	
		2週	2. 材料特性 1			応力－ひずみ関係、ポアソン比、弾性係数等の復習を行う。	
		3週	3. 材料特性 2			公称応力－公称ひずみ、真応力－真ひずみ、一般化弾性テンソル、弾性と塑性、降伏関数	
		4週	4. ひび割れ			主応力とモールの応力円、曲げひび割れとせん断ひび割れ	
		5週	5. 部材に耐力			曲げ耐力とせん断耐力、軸力と曲げの相互作用	
		6週	6. 耐久性 1			水和熱による温度応力、ひび割れ指数、非定常熱伝導解析、ひび割れ低減技術	
		7週	7. 耐久性2			凍害と塩害、腐食のメカニズム、塩化物イオンの浸透予測解析、対策	
		8週	8. 耐久性 3			アルカリ骨材反応、硫化水素による劣化、対策	
	2ndQ	9週	9. 耐久性 4			コンクリートと鋼材の疲労、S－N曲線、線形累積損傷、損傷力学	
		10週	10. 劣化診断技術			非破壊試験、反発硬度法、コア採取、SEM、弾性法、電磁波レーダー法	
		11週	11. 補修と補強 1			補修と補強の定義、各種補修工法	
		12週	12. 補修と補強 2			各種補強工法、ライフサイクル	
		13週	13. 環境との調和 1			環境負荷低減技術その 1	
		14週	14. 環境との調和 2			環境負荷低減技術その 2	
		15週	15. 総まとめ			建設材料の特性の総まとめ	
		16週	16. 定期試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	0	20
専門的能力	80	0	0	0	0	0	80
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	線型代数学	
科目基礎情報							
科目番号	150			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	はじめて学ぶベクトル空間：碓氷 久 他：大日本図書：978-4-477-03049-4						
担当教員	吉田 はん,碓氷 久						
到達目標							
ベクトル空間，行列について学習し次のことをできるようにする ☐ ベクトル空間、線形写像とその表現行列について理解できる。 ☐ 内積空間に関する計算ができる。 ☐ 複素数ベクトル空間に関する計算ができる。 ☐ 2次，3次のJordan 標準形を求めることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	ベクトル空間、線形写像とその表現行列について良く理解できる。		ベクトル空間、線形写像とその表現行列について理解できる。		ベクトル空間、線形写像とその表現行列について理解できない。		
評価項目2	内積空間に関する計算ができる。		内積空間に関する簡単な計算ができる。		内積空間に関する計算ができない。		
評価項目3	複素数ベクトル空間に関する計算ができる。		複素数ベクトル空間に関する簡単な計算ができる。		複素数ベクトル空間に関する計算ができない。		
評価項目4	2次，3次のJordan 標準形を求めることができる。		2次のJordan 標準形を求めることができる。		2次，3次のJordan 標準形を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	線形代数は理工学において基礎であり様々な形で応用されています。この講義では線形代数の基本的な概念の理解と計算力の習得を目標とします。						
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	線形とは何か		線形とは何かがわかる		
		2週	ベクトル空間		数ベクトル空間について理解できる		
		3週	ベクトル空間		基底とは何か理解できる		
		4週	線形写像		線形写像とは何か理解できる		
		5週	線形写像とその表現行列		線形写像とその表現行列について理解できる		
		6週	線形写像とその表現行列		線形写像の基底に関する表現行列を求めることができる		
		7週	内積空間		内積空間について理解できる		
		8週	内積空間		正規直交基底を求めることができる		
	4thQ	9週	複素数ベクトル空間		複素数ベクトル空間について理解できる		
		10週	複素数ベクトル空間		複素数ベクトル空間の内積について理解できる		
		11週	複素数ベクトル空間		エルミート行列、ユニタリ行列とは何かがわかる		
		12週	複素数ベクトル空間		エルミート行列をユニタリ行列で対角化できる		
		13週	ジョルダン標準形		ジョルダン標準形について理解できる		
		14週	ジョルダン標準形		2次行列のジョルダン標準形を求めることができる		
		15週	ジョルダン標準形		3次行列のジョルダン標準形を求めることができる		
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	解析力学
科目基礎情報						
科目番号	152		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書は特に指定しない。自作の問題集をウェブサイトから配布する。					
担当教員	宇治野 秀晃					
到達目標						
☐ Euler-Lagrange方程式を用いて、古典力学の典型的な問題を解くことができる。 ☐ 正準形式の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。 ☐ Hamilton-Jacobi方程式を用いて、基本的な問題を解くことができる。 ☐ 古典力学と量子力学の対応関係を理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
Euler-Lagrange方程式を用いて、古典力学の典型的な問題を解くことができる。	Euler-Lagrange方程式を用いて、古典力学の典型的な問題を解くことができる。		Euler-Lagrange方程式を用いて、それほど難しくはない古典力学の典型的な問題を解くことができる。		Euler-Lagrange方程式を用いて、古典力学のそれほど難しくはない典型的な問題を解くことができない。	
正準形式の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。	正準形式の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。		正準形式の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができる。		正準形式の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができない。	
Hamilton-Jacobi方程式を用いて、基本的な問題を解くことができる。	Hamilton-Jacobi方程式を用いて、基本的な問題を解くことができる。		Hamilton-Jacobi方程式を用いて、それほど難しくはない基本的な問題を解くことができる。		Hamilton-Jacobi方程式を用いて、それほど難しくはない基本的な問題を解くことができる。	
古典力学と量子力学の対応関係を理解できる。	古典力学と量子力学の対応関係を、複数の観点から十分に理解できる。		古典力学と量子力学の対応関係を理解できる。		古典力学と量子力学の対応関係を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本科目の総授業時間数は22.5時間である。古典力学の基礎方程式である質点に対するNewtonの運動方程式は、選んだ座標に応じて運動方程式の形が変わるため、大変に煩わしい。その煩雑さを解消し、万能で一般的な処方箋を提供するLagrange形式をまず解説し、Machが「思考の経済」と絶賛したその実用上の利点を様々な例題を通じて実感させる。続いてLagrange形式よりもさらに大きな変数変換の自由度を与えるHamilton形式について解説し、運動方程式の表現の一つであるHamilton-Jacobi方程式を導く。量子力学の基礎方程式であるSchroedinger方程式が、古典極限でHamilton-Jacobi方程式に帰着することを見ることで、量子力学が古典力学の拡張理論であることを理解する。					
授業の進め方・方法	座学					
注意点	【事前に行う準備学習】微積分を用いる基礎的な力学(例えば本校学科3年応用物理Iでカバーされるような)、多変数関数に対するものも含む微積分(偏微分、重積分)、線形代数(特に行列の対角化、2次形式の標準化)、簡単な微分方程式の解法に関する知識を前提としますから、事前に復習をしておくことと良いでしょう。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	最小作用の原理とLagrangian		・一般化座標とLagrangian 解析力学問題集 ・Euler-Lagrange方程式 (自作教材) 1 ・点変換とEuler-Lagrange方程式の不変性	
		2週	最小作用の原理とLagrangian		・自由粒子とLagrangian ・自由粒子と平面極座標	
		3週	L=K-U型のLagrangianを持つ系		・保存力とEuler-Lagrange方程式 解析力学問題集 ・2重振り子	
		4週	L=K-U型のLagrangianを持つ系		・フーコーの振り子 ・電磁場中の荷電粒子のLagrangian	
		5週	保存量と対称性		・循環座標 ・拘束条件とLagrange未定乗数法 ・Lagrangianの不定性 ・ネーターの定理 ・空間の一様性と運動量の保存	
		6週	正準形式		・正準方程式 解析力学問題集 ・最小作用の原理と正準方程式	
		7週	正準形式		・正準変換と母関数	
		8週	Lagrange形式の総復習		・第5週までの内容についてのテストゼミ (模擬試験 + 問題解説)	
	2ndQ	9週	正準形式		・調和振動子の正準形式による扱い 解析力学問題集 ・エネルギーに共役な正準変数としての時間	
		10週	Hamilton-Jacobi方程式		・時間発展と正準変換 解析力学問題集 ・Hamilton-Jacobi方程式	
		11週	Hamilton-Jacobi方程式		・Hamilton-Jacobi方程式の完全解と正準方程式の一般解	
		12週	Hamilton-Jacobi方程式		・簡単な例題	
		13週	量子力学の古典極限		・Schroedinger方程式の古典極限	
		14週	量子力学の古典極限		・量子力学における最小作用の原理	
		15週	正準形式以降の総復習		・第6週以降の内容についてのテストゼミ (模擬試験 + 問題解説)	
		16週	定期試験			

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	環境防災特論	
科目基礎情報							
科目番号	154			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書 防災工学第2版 石井一郎編著 森北出版 4-627-45172-8						
担当教員	森田 年一						
到達目標							
☐ 地震・火山噴火等の地殻活動について、そのメカニズムを説明できる。 ☐ 津波・風水害・雪害の発生メカニズムと被害概要について説明できる。 ☐ 各種の地盤災害について、発生メカニズムと対策方法について説明できる。 ☐ 放射能汚染等の環境災害が住民生活に及ぼす影響とそれらの対策について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	地震・火山噴火等の地殻活動について、そのメカニズムを十分に説明できる。		地震・火山噴火等の地殻活動について、そのメカニズムを説明できる。		地震・火山噴火等の地殻活動について、そのメカニズムを説明できない。		
評価項目2	津波・風水害・雪害の発生メカニズムと被害概要について十分に説明できる。		津波・風水害・雪害の発生メカニズムと被害概要について説明できる。		津波・風水害・雪害の発生メカニズムと被害概要について説明できない。		
評価項目3	各種の地盤災害について、発生メカニズムと対策方法について十分に説明できる。		各種の地盤災害について、発生メカニズムと対策方法について説明できる。		各種の地盤災害について、発生メカニズムと対策方法について説明できない。		
評価項目4	放射能汚染等の環境災害が住民生活に及ぼす影響とそれらの対策について十分に説明できる。		放射能汚染等の環境災害が住民生活に及ぼす影響とそれらの対策について説明できる。		放射能汚染等の環境災害が住民生活に及ぼす影響とそれらの対策について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	地震、火山噴火、津波、気象災害、地盤災害、環境災害について学習する。実際に発生している各種の災害を意識して学習に取り組むことが大切である。本授業科目は、行政機関において防災工学に関する実務経験を有している教員が、その実務経験を活かし、地震動、気象災害、地盤災害等について講義形式で授業を行うものである。						
授業の進め方・方法	実際に発生している各種の災害を強く意識して授業を行う。授業内容により、プロジェクトを使用する場合がある。						
注意点	授業内容と実際に発生している各種の災害との関連を意識して授業に臨むこと。授業に臨むにあたり必要となる自学自習を充分に行うこと。本科目は隔年開講科目であり、西暦奇数年度は開講しない。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	総論（１） 災害の発生要因		災害の発生要因について説明できる。		
		2週	総論（２） 管理瑕疵責任		管理瑕疵責任について説明できる。		
		3週	地震（１） 地震波		地震波について説明できる。		
		4週	地震（２） プレートによる地震		プレートによる地震について説明できる。		
		5週	火山噴火（１） 火山噴火のメカニズム		火山噴火のメカニズムについて説明できる。		
		6週	火山噴火（２） 火山噴火の予知		火山噴火の予知について説明できる。		
		7週	津波 津波の発生メカニズム		津波の発生メカニズムについて説明できる。		
		8週	気象災害 風害・水害・雪害		風害・水害・雪害について説明できる。		
	2ndQ	9週	地盤災害（１） 地殻の構成と地質		地殻の構成と地質について説明できる。		
		10週	地盤災害（２） 斜面崩壊		斜面崩壊について説明できる。		
		11週	地盤災害（３） 侵食		侵食について説明できる。		
		12週	地盤災害（４） 地盤沈下		地盤沈下について説明できる。		
		13週	環境災害（１） 酸性雨		酸性雨について説明できる。		
		14週	環境災害（２） 地球の温暖化		地球の温暖化について説明できる。		
		15週	環境災害（３） 放射能汚染		放射能汚染について説明できる。		
		16週	前期定期試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	Fundamental Mechanics	
科目基礎情報							
科目番号	156			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	参考書 : An Introduction to Modern Cosmology : Andrew Liddle : Wiley : 978-1118502143						
担当教員	渡邊 悠貴						
到達目標							
☐ 英語による宇宙論（大学3、4年レベル）の講義を聞き取ることができる。 ☐ フリードマン方程式の解法を英語で説明できる。 ☐ 簡単な宇宙モデルを英語で説明できる。 ☐ 英語を用いて宇宙論に関する質問や受け答えができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	宇宙論の基礎的な概念や簡単な宇宙モデルを、英語を通じた教育により理解でき、自分の言葉で正しく表現できる。			宇宙論の基礎的な概念や簡単な宇宙モデルを、英語を通じた教育により理解できる。		宇宙論の基礎的な概念や簡単な宇宙モデルを、英語を通じた教育により全く理解できない。	
評価項目2	宇宙論の基礎的な問題を解く際に、英語を用いて正しく表現できる。			宇宙論の基礎的な問題を解く際に、英語を用いてある程度表現できる。		宇宙論の基礎的な問題を解くことができない。また、英語を用いて全く表現できない。	
評価項目3	英語を用いて質問したり、適切に受け答えすることができる。			英語を用いて質問したり、受け答えすることがある程度できる。		英語を用いて質問したり、受け答えすることが全くできない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	宇宙空間の膨張や宇宙の構成物質である星、銀河、可視光、電波、宇宙線、ダークマター、ダークエネルギーなど現代宇宙論の基礎的な事項を、観測データと物理法則に基づいて講義する。						
授業の進め方・方法	スライドと板書により講義を進める。理解度・定着度を測るため、毎回確認テストを行う。各人の研究内容や物理学についての英語によるプレゼンテーションも課すことがある。						
注意点	当たり前のことですが、英語を使ってみなければ英語力は上達しません。講義中は積極的に英語で質問し、「人前で英語を話すこと」に対する抵抗感を減らす努力をしましょう。AEの学生の受講も推奨します。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	Observational Overview				
		2週	Newtonian Gravity, Friedmann Equation				
		3週	Geometry of the Universe				
		4週	Simple Cosmological Models				
		5週	Observational Parameters				
		6週	Cosmological Constant, Dark Energy				
		7週	Age of the Universe				
		8週	Density of the Universe, Dark Matter				
	4thQ	9週	Cosmic Microwave Background				
		10週	Early Universe				
		11週	Big Bang Nucleosynthesis				
		12週	Inflationary Universe				
		13週	Cosmic Structures				
		14週	General Relativistic Cosmology				
		15週	Summary				
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	0	0	80	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	30	30
専門的能力	0	20	0	0	0	30	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	20	20

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	連携教育インターンシップ	
科目基礎情報							
科目番号	157			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	森田 年一						
到達目標							
☐ 社会の中で技術者が経験する実務上の問題点，課題の内容や対応のしくみを理解できる。 ☐ 技術を役立て，企業，機関として運営していくためのしくみ，方策，価値観等を理解できる。 ☐ 幅広く一般的な技術者として社会常識も備えて，課題解決に向けた対処ができる。 ☐ 自らの経験を適切に報告し、質疑応答ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	社会の中で技術者が経験する実務上の問題点，課題の内容や対応のしくみを十分に理解できる。			社会の中で技術者が経験する実務上の問題点，課題の内容や対応のしくみを理解できる。		社会の中で技術者が経験する実務上の問題点，課題の内容や対応のしくみを理解できない。	
評価項目2	技術を役立て，企業，機関として運営していくためのしくみ，方策，価値観等を十分に理解できる。			技術を役立て，企業，機関として運営していくためのしくみ，方策，価値観等を理解できる。		技術を役立て，企業，機関として運営していくためのしくみ，方策，価値観等を理解できない。	
評価項目3	幅広く一般的な技術者として社会常識も備えて，課題解決に向けた対処が充分にできる。			幅広く一般的な技術者として社会常識も備えて，課題解決に向けた対処ができる。		幅広く一般的な技術者として社会常識を備えられず，課題解決に向けた対処ができない。	
評価項目4	自らの経験を適切に報告し、充分に質疑応答ができる。			自らの経験を適切に報告し、質疑応答ができる。		自らの経験を適切に報告できず、質疑応答ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	実習先は、原則として日本国内の企業、官公庁、大学等である。学生本人が、実習先に一定期間（2週間）就業し、実習先担当者の指導を受けながら、実務を通して工学を学ぶこととなる。						
授業の進め方・方法	実習先の指定するテーマに関する就業体験を実習先の指導のもとで実施する。 インターンシップ日誌、インターンシップ報告書を提出する。						
注意点	実習先は、各学生から提出された実習先希望票に基づいて、各学生の希望をできるだけ受け入れながら選定を行うが、教育効果や受け入れ先の意向等を考慮して、学生本人の希望とは異なる実習先に決定せざるを得ない場合もある。 実習終了後に開催される全学生参加のインターンシップ報告会において、自らの就業体験について発表を行い、質疑応答を行うことが単位認定要件である。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	実習先の指定するテーマ		実習先の指定するテーマに関する就業体験を実習先の指導のもとで実施する。 インターンシップ日誌、インターンシップ報告書を提出する。		
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	100	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	連携教育特別研究 I	
科目基礎情報							
科目番号	158			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	学修単位: 3		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	通年			週時間数	1.5		
教科書/教材	各担当教員の指示による。						
担当教員	森田 年一						
到達目標							
☐研究課題および、その基礎となっている背景を体系的に正しく理解できる。 ☐研究課題の遂行に必要な実験的手法、解析的手法、数値的手法、資料・文献調査などの方法を理解し運用できる。 ☐得られたデータをまとめ、解析することができ、結果について合理的な説明ができる。 ☐研究課題に関わる英語の文献を読むことができる。 ☐研究発表会などの場で、自分の研究内容およびその結果を、相手に分かりやすく話すことができる。 ☐報告書などの作成において、その構成や文章表現が適切にできる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	研究課題および、その基礎となっている背景を体系的に、十分に正しく理解できる。			研究課題および、その基礎となっている背景を体系的に正しく理解できる。		研究課題および、その基礎となっている背景を体系的に正しく理解できない。	
評価項目2	研究課題の遂行に必要な実験的手法、解析的手法、数値的手法、資料・文献調査などの方法を十分に理解し運用できる。			研究課題の遂行に必要な実験的手法、解析的手法、数値的手法、資料・文献調査などの方法を理解し運用できる。		研究課題の遂行に必要な実験的手法、解析的手法、数値的手法、資料・文献調査などの方法を理解できず運用できない。	
評価項目3	得られたデータをまとめ、解析することができ、結果について合理的な説明が充分にできる。			得られたデータをまとめ、解析することができ、結果について合理的な説明ができる。		得られたデータをまとめ、解析することができず、結果について合理的な説明ができない。	
評価項目4	研究課題に関わる英語の文献を読むことが充分にできる。			研究課題に関わる英語の文献を読むことができる。		研究課題に関わる英語の文献を読むことができない。	
評価項目5	研究発表会などの場で、自分の研究内容およびその結果を、相手に分かりやすく話すことが充分にできる。			研究発表会などの場で、自分の研究内容およびその結果を、相手に分かりやすく話すことができる。		研究発表会などの場で、自分の研究内容およびその結果を、相手に分かりやすく話すことができない。	
評価項目6	報告書などの作成において、その構成や文章表現が、充分、適切にできる。			報告書などの作成において、その構成や文章表現が適切にできる。		報告書などの作成において、その構成や文章表現が適切にできない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目の総授業時間数は101.25時間である。建設工学、都市工学、衛生工学、物質工学、工業化学、材料工学、生物化学、化学、生物学など環境工学に関する特別研究である。						
授業の進め方・方法	正副担当教員の指導の下、上記の分野およびその関連分野に関わる研究課題を、実験的手法、解析的、数値的手法、あるいは、調査、討論などによって解明する。						
注意点	研究成果は年度末に行われる特別研究I発表会で報告しなければならない。なお、特別研究I発表会にあたっては、特別研究I発表会講演予稿集を作成することとなる。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	環境工学専攻 特別研究I 課題：担当教員／副担当教員の計画にしたがって、テーマごとに行なわれる。			研究成果は、年度末に行われる特別研究I発表会で報告する。特別研究I発表会にあたり、特別研究I発表会講演予稿集を作成する。また、担当教員（正・副）の指導のもと、随時レポート等の報告を行う。	
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					

		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	10	0	0	0	90	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	10	0	0	0	90	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	インターンシップ	
科目基礎情報							
科目番号	82		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		1		
教科書/教材							
担当教員	森田 年一						
到達目標							
☐ 社会の中で技術者が経験する実務上の問題点，課題の内容や対応のしくみを理解できる。 ☐ 技術を役立て，企業，機関として運営していくためのしくみ，方策，価値観等を理解できる。 ☐ 幅広く一般的な技術者として社会常識も備えて，課題解決に向けた対処ができる。 ☐ 自らの経験を適切に報告し、質疑応答ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	社会の中で技術者が経験する実務上の問題点，課題の内容や対応のしくみを十分に理解できる。		社会の中で技術者が経験する実務上の問題点，課題の内容や対応のしくみを理解できる。		社会の中で技術者が経験する実務上の問題点，課題の内容や対応のしくみを理解できない。		
評価項目2	技術を役立て，企業，機関として運営していくためのしくみ，方策，価値観等を十分に理解できる。		技術を役立て，企業，機関として運営していくためのしくみ，方策，価値観等を理解できる。		技術を役立て，企業，機関として運営していくためのしくみ，方策，価値観等を理解できない。		
評価項目3	幅広く一般的な技術者として社会常識も備えて，課題解決に向けた対処が充分にできる。		幅広く一般的な技術者として社会常識も備えて，課題解決に向けた対処ができる。		幅広く一般的な技術者として社会常識を備えられず，課題解決に向けた対処ができない。		
評価項目4	自らの経験を適切に報告し、充分に質疑応答ができる。		自らの経験を適切に報告し、質疑応答ができる。		自らの経験を適切に報告できず、質疑応答ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	実習先は、原則として日本国内の企業、官公庁、大学等である。学生本人が、実習先に一定期間（2週間）就業し、実習先担当者の指導を受けながら、実務を通して工学を学ぶこととなる。						
授業の進め方・方法	実習先の指定するテーマに関する就業体験を実習先の指導のもとで実施する。 インターンシップ日誌、インターンシップ報告書を提出する。						
注意点	実習先は、各学生から提出された実習先希望票に基づいて、各学生の希望をできるだけ受け入れながら選定を行うが、教育効果や受け入れ先の意向等を考慮して、学生本人の希望とは異なる実習先に決定せざるを得ない場合もある。 実習終了後に開催される全学生参加のインターンシップ報告会において、自らの就業体験について発表を行い、質疑応答を行うことが単位認定要件である。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	実習先の指定するテーマ		実習先の指定するテーマに関する就業体験を実習先の指導のもとで実施する。 インターンシップ日誌、インターンシップ報告書を提出する。		
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	100	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	企業論	
科目基礎情報							
科目番号	83		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		1		
教科書/教材	特に定めず、講師が用意するスライド等を用いる。						
担当教員	宮越 俊一,平社 信人						
到達目標							
企業活動とはどういったことかについて、その基本的な考え方を学習し、今後のキャリア形成の一助とすることを授業の狙いとしている。企業経営や研究開発における管理・運営の経験を有する学内外の講師から、様々な観点に基づく授業を受け、企業人としてのものの考え方や取り組み姿勢、思考態度を知ることを通じ、将来の研究・開発技術者としての視点を育むことを目標としている。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	企業における社会的貢献と責任を具体的に説明できる。		企業における社会的貢献と責任を理解できる。		企業における社会的貢献と責任を理解できない。		
評価項目2	企業活動が国内外で他社(他者)とどのような関係性を持つかを理解しそれに備えることができる。		企業活動が国内外で他社(他者)とどのような関係性を持つかを理解できる。		企業活動が国内外で他社(他者)とどのような関係性を持つかを理解できない。		
評価項目3	コミュニケーション能力や主体性等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解し、その備えることができる。		コミュニケーション能力や主体性等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解できる。		コミュニケーション能力や主体性等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	企業の社会的役割と企業活動の概要、ものづくりと製品化に向けた企業努力、人材の育成、エンジニアのあるべき姿、学生時代に何を学ぶべきか等について、企業経営・運営経験者からなる学内外の講師がそれぞれの観点から講義する。						
授業の進め方・方法	企業経営者など4名の非常勤講師、企業経験のある2名の本校教員によるオムニバス形式の授業として実施する。パワーポイントによる授業を軸とするが、時によりグループワークなど学生自らが参加、課題に取り組むことにより、より理解と定着を図る。						
注意点	企業関係者による授業が多いので、資料が配布されないことが多いが、講師の話にしっかりと耳を傾け、グループワークにも積極的に参加して主体的に取り組んでほしい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス および 企業における研究開発職について(1)(宮越)				
		2週	企業経営概論(木村)				
		3週	企業におけるビジネスモデルについて 企業における各種指標の重要性とその活用(鈴木)				
		4週	企業における研究開発から製品化まで(平社)				
		5週	企業、特に開発や製造の現場において重要なこと(高岡)(課題解決の実習を含む)				
		6週	経営指針と人材育成によって「人を大切にする経営」を実践する(山岸)				
		7週	企業における研究開発について(2)(宮越)(グループワークを含む)				
		8週	まとめ(宮越)				
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	環境工学実験
科目基礎情報						
科目番号	84		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	1		
教科書/教材						
担当教員	森田 年一					
到達目標						
☐ 環境工学に関わる基本的な知識や理解に基づいて実験課題に取り組むことができる。 ☐ 工学の各種実験手法を身に付けることができる。 ☐ 実験計画（デザイン）からデータの解析、検討、考察、レポート作成にいたる一連の過程が理解できる。 ☐ 取り組んだ実験をレポートにまとめることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	環境工学に関わる基本的な知識や理解に基づいて実験課題に取り組むことが充分にできる。		環境工学に関わる基本的な知識や理解に基づいて実験課題に取り組むことができる。		環境工学に関わる基本的な知識や理解に基づいて実験課題に取り組むことができない。	
評価項目2	工学の各種実験手法を身に付けることが充分にできる。		工学の各種実験手法を身に付けることができる。		工学の各種実験手法を身に付けることができない。	
評価項目3	実験計画（デザイン）からデータの解析、検討、考察、レポート作成にいたる一連の過程が充分に理解できる。		実験計画（デザイン）からデータの解析、検討、考察、レポート作成にいたる一連の過程が理解できる。		実験計画（デザイン）からデータの解析、検討、考察、レポート作成にいたる一連の過程が理解できない。	
評価項目4	取り組んだ実験を適切にレポートにまとめることができる。		取り組んだ実験をレポートにまとめることができる。		取り組んだ実験をレポートにまとめることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本科目の総授業時間数は33.75時間である。物質工学系では物理化学、有機化学、無機化学、固体物性化学、生化学・遺伝子工学などを背景とした基礎工学実験を行い、環境都市工学系では、衛生工学、都市・交通計画、建設材料工学、土質工学、耐震工学、構造工学等を背景とした基礎工学実験を行うが、環境生物系の実験では合同で行う場合がある。					
授業の進め方・方法	各担当教員の指導のもとで、実験、データのまとめをおこなう。環境工学専攻のうち、主として物質工学系の実験を行う班と環境工学系の実験を行う班の2～3班に分けて実施する。実験の班分け、日程等は担当教員の指示による。実験終了後、レポートを担当教員に提出する。レポート作成に当たっては必要に応じて、担当教員よりレポート作成法、文書表現などの指導が行われる。					
注意点	レポートの提出期限は厳守すること。実験日程等の詳細については追って連絡する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス（第1回のみ） 物質工学系、環境都市工学系合同実験		ガイダンス：実験日程の説明、実験上の注意、レポートについて 実験：・食品の微生物検査及びDNAによる検定（宮越） 食品の製造や環境・衛生管理に関わる企業現場などで実際に用いられる、微生物検査や食品の鑑定について実験・実習を通じてその原理と技術を理解し、課題解決できる能力を身に付ける。	
		2週	物質工学系実験主題		・熱容量比の決定（辻） ・植物組織培養：植物ホルモンの影響とプロトプラスト（大岡） ・結晶粒子群の画像解析による品質評価：晶析操作による結晶粒子群の創製と画像解析による粒子群品質評価（出口、工藤(翔)） ・X線回折法を用いたセラミックス材料の評価（平） ・熱硬化性樹脂の合成と性能評価（出口） ・有機材料の分光学的解析（田村） 工場見学・実習を2回実施し、日ごろ学習している内容と現場での体験を照らし合わせて、諸問題について考察する機会を設ける。	
		3週	環境都市工学系実験主題		・活性汚泥試験（宮里） ・加圧浮上分離実験（宮里） ・繊維補強コンクリートの性状実験（田中） ・I C Pによる水質分析（谷村） ・土の締固め試験（森田） ・レイノルズ実験装置による層流・乱流判定（永野） ・開水路漸変流の水面形状（永野） ・座屈（木村（清））	
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				

		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	100	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	環境工学特別研究I	
科目基礎情報							
科目番号	85			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	学修単位: 3		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	通年			週時間数	1.5		
教科書/教材	各担当教員の指示による。						
担当教員	森田 年一						
到達目標							
☐ 研究課題および、その基礎となっている背景を体系的に正しく理解できる。 ☐ 研究課題の遂行に必要な実験的手法、解析的手法、数値的手法、資料・文献調査などの方法を理解し運用できる。 ☐ 得られたデータをまとめ、解析することができ、結果について合理的な説明ができる。 ☐ 研究課題に関わる英語の文献を読むことができる。 ☐ 研究発表会などの場で、自分の研究内容およびその結果を、相手に分かりやすく話すことができる。 ☐ 報告書などの作成において、その構成や文章表現が適切にできる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	研究課題および、その基礎となっている背景を体系的に、十分に正しく理解できる。		研究課題および、その基礎となっている背景を体系的に正しく理解できる。		研究課題および、その基礎となっている背景を体系的に正しく理解できない。		
評価項目2	研究課題の遂行に必要な実験的手法、解析的手法、数値的手法、資料・文献調査などの方法を十分に理解し運用できる。		研究課題の遂行に必要な実験的手法、解析的手法、数値的手法、資料・文献調査などの方法を理解し運用できる。		研究課題の遂行に必要な実験的手法、解析的手法、数値的手法、資料・文献調査などの方法を理解できず運用できない。		
評価項目3	得られたデータをまとめ、解析することができ、結果について合理的な説明が充分にできる。		得られたデータをまとめ、解析することができ、結果について合理的な説明ができる。		得られたデータをまとめ、解析することができず、結果について合理的な説明ができない。		
評価項目4	研究課題に関わる英語の文献を読むことが充分にできる。		研究課題に関わる英語の文献を読むことができる。		研究課題に関わる英語の文献を読むことができない。		
評価項目5	研究発表会などの場で、自分の研究内容およびその結果を、相手に分かりやすく話すことが充分にできる。		研究発表会などの場で、自分の研究内容およびその結果を、相手に分かりやすく話すことができる。		研究発表会などの場で、自分の研究内容およびその結果を、相手に分かりやすく話すことができない。		
評価項目6	報告書などの作成において、その構成や文章表現が、充分、適切にできる。		報告書などの作成において、その構成や文章表現が適切にできる。		報告書などの作成において、その構成や文章表現が適切にできない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目の総授業時間数は101.25時間である。建設工学、都市工学、衛生工学、物質工学、工業化学、材料工学、生物化学、化学、生物学など環境工学に関する特別研究である。						
授業の進め方・方法	正副担当教員の指導の下、上記の分野およびその関連分野に関わる研究課題を、実験的手法、解析的、数値的手法、あるいは、調査、討論などによって解明する。						
注意点	研究成果は年度末に行われる特別研究I発表会で報告しなければならない。なお、特別研究I発表会にあたっては、特別研究I発表会講演予稿集を作成することとなる。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	環境工学専攻 特別研究I 課題：担当教員／副担当教員の計画にしたがって、テーマごとに行なわれる。		研究成果は、年度末に行われる特別研究I発表会で報告する。特別研究I発表会にあたり、特別研究I発表会講演予稿集を作成する。また、担当教員（正・副）の指導のもと、随時レポート等の報告を行う。		
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					

		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	10	0	0	0	90	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	10	0	0	0	90	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	ベクトル解析	
科目基礎情報							
科目番号	86			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	参考書：(1) ベクトル解析入門：小林亮，高橋大輔：東京大学出版会 (2)新訂 応用数学：高遠節夫，斎藤 他 4 名：大日本図書						
担当教員	高橋 徹						
到達目標							
□ベクトルの微分・積分について理解できる。 □ベクトル場，線積分・面積分などの概念について正確に理解できる。 □ベクトル解析を力学，電磁気学，流体力学などに正しく応用できる。 □工学を専攻する技術者の数学的な基盤を確固としたものにできる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	ベクトルの微分・積分について理解でき，応用的な計算を実行することができる。		ベクトルの微分・積分について理解でき，基本的な計算を実行することができる。		ベクトルの微分・積分についての理解・計算ができない。		
評価項目2	ベクトル場，線積分・面積分などの概念について正確に理解し，応用的な問題を解くことができる。		ベクトル場，線積分・面積分などの概念について正確に理解し，基本的な問題を解くことができる。		ベクトル場，線積分・面積分などの概念について理解・計算ができない。		
評価項目3	ガウスの定理・ストークスの定理を理解し，ベクトル解析を力学，電磁気学，流体力学などに正しく応用できる。		ガウスの定理・ストークスの定理を理解・適用することができる。		ガウスの定理・ストークスの定理を理解・適用できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この講義では，ベクトル解析の初歩について，基礎からできるだけ平易に詳しく解説を行っていく。ベクトルの内積・外積や微分・積分のような基礎的な事項から始まり，ベクトル場，ベクトルの発散や回転といった，物理学で必須の事項に話を進めていく。さらに，力学，電磁気学，流体力学などへの応用を通して，工学に役立つようなベクトル解析の素養を身につけることができるような講義を行ってきたい。						
授業の進め方・方法	座学						
注意点	ベクトル解析は，物理学の諸部門，例えば質点および剛体の力学，電磁気学，流体力学において広く用いられ，さらに電気通信工学の基礎理論を学ぶのに必要なものである。このような幅広い応用を持つベクトル解析の基礎を学んで欲しい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ベクトルの基礎(1)		ベクトルの内積・外積		
		2週	ベクトルの基礎(2)		ベクトルの微分		
		3週	ベクトルの基礎(3)		ベクトルの積分		
		4週	ベクトル場と微分(1)		スカラー場・ベクトル場の概念		
		5週	ベクトル場と微分(2)		スカラー場の勾配		
		6週	ベクトル場と微分(3)		ベクトル場の発散		
		7週	ベクトル場と微分(4)		ベクトル場の回転		
		8週	ベクトル場と積分(1)		スカラー場の線積分・面積分		
	2ndQ	9週	ベクトル場と微分(2)		ベクトル場の線積分		
		10週	ベクトル場と微分(3)		ベクトル場の面積分		
		11週	積分定理		ガウスの定理・ストークスの定理		
		12週	直交曲線座標(1)		直交曲線座標の導入		
		13週	直交曲線座標(2)		直交曲線座標における勾配		
		14週	直交曲線座標(3)		直交曲線座標における発散・回転		
		15週	テンソル解析・工学への応用		テンソルを用いた解析 工学への応用		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	10	70
専門的能力	20	0	0	0	0	10	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	応用解析学	
科目基礎情報							
科目番号	87		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	参考書：超関数・フーリエ変換入門：磯崎雄：培風館参考書：新訂 応用数学：碓氷久 ほか：大日本図書 洋：サイエンス社SGCライブラリ72 参考書：フーリエ解析：松下 泰						
担当教員	谷口 正						
到達目標							
フーリエ級数とフーリエ変換の定義を理解し、様々な例が計算できる。関数空間を超関数空間に拡張することによって通常の関数空間ではできなかったフーリエ変換が出来るようになる。またフーリエ級数とフーリエ変換を使って熱方程式、波動方程式、ラプラス方程式が解けるようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	フーリエ級数とフーリエ変換を十分に理解し、様々な例を計算できる。		フーリエ級数とフーリエ変換を理解し、様々な例を計算できる。		フーリエ級数とフーリエ変換を理解し、特別な例を計算できる。		
評価項目2	超関数の定義と例を理解し、様々なフーリエ変換を超関数で表現できる。		超関数の定義と例を理解し、特別な例に対してフーリエ変換を超関数で表現できる。		超関数の定義は理解できるが、フーリエ変換を超関数で表現できない。		
評価項目3	様々な偏微分方程式をフーリエ級数やフーリエ変換を使って解ける。		特別な偏微分方程式をフーリエ級数やフーリエ変換を使って解ける。		偏微分方程式をフーリエ級数やフーリエ変換を使って解けない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	フーリエ級数とフーリエ変換の定義を理解する。超関数の定義と例を理解する。超関数の例であるデルタ関数を使ってフーリエの積分定理を証明できる。超関数の微分を理解し、通常の微分との違いを理解する。偏微分方程式の例である、熱方程式、波動方程式、ラプラス方程式をフーリエ級数とフーリエ変換を使って解ける。						
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	フーリエ級数とフーリエ変換		関数空間を定義し、フーリエ級数とフーリエ変換を定義する。その例と性質を学ぶ。		
		2週	フーリエ級数とフーリエ変換		関数空間を定義し、フーリエ級数とフーリエ変換を定義する。その例と性質を学ぶ。		
		3週	フーリエ級数とフーリエ変換		関数空間を定義し、フーリエ級数とフーリエ変換を定義する。その例と性質を学ぶ。		
		4週	超関数		超関数を定義する。超関数の例であるデルタ関数を詳しく学ぶ。超関数の極限と微分を学ぶ。		
		5週	超関数		超関数を定義する。超関数の例であるデルタ関数を詳しく学ぶ。超関数の極限と微分を学ぶ。		
		6週	超関数		超関数を定義する。超関数の例であるデルタ関数を詳しく学ぶ。超関数の極限と微分を学ぶ。		
		7週	超関数		超関数を定義する。超関数の例であるデルタ関数を詳しく学ぶ。超関数の極限と微分を学ぶ。		
		8週	超関数		超関数を定義する。超関数の例であるデルタ関数を詳しく学ぶ。超関数の極限と微分を学ぶ。		
	4thQ	9週	超関数		超関数を定義する。超関数の例であるデルタ関数を詳しく学ぶ。超関数の極限と微分を学ぶ。		
		10週	偏微分方程式		熱方程式、波動方程式、ラプラス方程式などをフーリエ解析と超関数を使って解くことを学ぶ。		
		11週	偏微分方程式		熱方程式、波動方程式、ラプラス方程式などをフーリエ解析と超関数を使って解くことを学ぶ。		
		12週	偏微分方程式		熱方程式、波動方程式、ラプラス方程式などをフーリエ解析と超関数を使って解くことを学ぶ。		
		13週	偏微分方程式		熱方程式、波動方程式、ラプラス方程式などをフーリエ解析と超関数を使って解くことを学ぶ。		
		14週	偏微分方程式		熱方程式、波動方程式、ラプラス方程式などをフーリエ解析と超関数を使って解くことを学ぶ。		
		15週	偏微分方程式		熱方程式、波動方程式、ラプラス方程式などをフーリエ解析と超関数を使って解くことを学ぶ。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	複素解析
科目基礎情報						
科目番号	88			科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材	教科書：複素関数概説：今吉洋一：サイエンス社					
担当教員	北田 健策					
到達目標						
本講義は、複素関数（変数と値が複素数である関数）の微分積分の基礎とその応用を扱う。 □複素数の四則演算を用いて、複素平面上の図形の回転や平行移動などの操作ができる。 □種々の複素関数の定義の意味を理解し、図形の像を図示できる。 □コーシー・リーマンの方程式を用いて、微分可能性を確かめ、微分を計算したりできる。 □複素積分の定義を理解し、曲線のパラメーター表示を用いて、複素積分の計算ができる。 □正則複素関数の積分の種々の性質や公式を理解し、複素積分の計算に利用できる。 □正則複素関数の孤立特異点の種類をローラン展開を用いて判定でき、その留数を求めることができる。 □留数定理を用いて、複素周回積分が計算できる。 □複素周回積分を実積分の計算へ応用できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	通常の平面上の対象を複素平面上の四則演算を自在に用いることで、回転や平行移動等の操作へ充分に応用できる。		通常の平面上の対象と複素平面上の対象とを同一視でき、四則演算を用いて回転や平行移動等の操作ができる。		複素数の四則演算の幾何的意味が理解できず、回転や平行移動等の操作への応用ができまい。	
評価項目2	コーシーリーマンの方程式、コーシーの積分公式に関する性質を証明に至るまで充分に理解し、種々の計算に自在に適用することができる。		コーシー・リーマンの方程式、コーシーの積分公式に関する性質を理解し、種々の計算に適用することができる。		コーシーリーマンの方程式、コーシーの積分公式に関する性質を理解できず、種々の計算に適用することができない。	
評価項目3	ローラン展開の仕組みを証明を含めて理解し、正則関数の孤立特異点の種類をローラン展開を用いて計算でき、その留数を求めることができる。		正則関数の孤立特異点の種類をローラン展開を用いて計算でき、その留数を求めることができる。		孤立特異点におけるローラン展開を計算できず、その留数を求めることができない。	
評価項目4	留数定理を用いて、複素周回積分が計算でき、それを様々な実積分の計算へ自律的に応用できる。		留数定理を用いて、複素周回積分が計算でき、それを実積分の計算へ応用できる。		留数定理を用いて、複素周回積分が計算できないため、実積分の計算へ応用することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1. 複素数と四則演算 2. 複素関数とその視覚化 3. 複素微分とコーシー・リーマンの方程式 4. 複素積分とコーシーの積分定理 5. テーラー展開とローラン展開 6. 留数定理とその応用					
授業の進め方・方法	座学による。毎週授業内容の確認のためのレポートを課します。					
注意点	本科2年・3年次に学んだ微積分が必須になります。適宜復習しながら取り組んでください。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	複素数と複素平面		複素数を平面上で考えることができる。複素共役や複素数の絶対値などの定義の意味を理解できる。	
		2週	複素数の四則演算の幾何的意味		平面上の平行移動や回転の操作を複素数の四則演算に置き換えて考えることができる。	
		3週	複素関数（1）		オイラーの公式、複素指数関数の定義の幾何的意味を理解し、図形の像を求めることができる。	
		4週	複素関数（2）		複素三角関数、複素対数関数の定義の意味を理解し、簡単な計算問題を解くことができる。	
		5週	複素微分（1）		複素関数の連続性、複素微分の定義の意味を理解し、定義に従って微分を計算できる。	
		6週	複素微分（2）		コーシー・リーマンの方程式を用いて、微分可能性を判定できる。また、偏微分を用いて複素微分を計算できる。	
		7週	複素積分（1）		複素積分の定義の意味を理解できる。また、曲線のパラメータ表示を用いて、複素積分を計算することができる。	
		8週	複素積分（2）		複素平面内の開集合・連結の概念を理解し、具体的な図形が領域であることを証明することができる。	
	2ndQ	9週	複素積分（3）		コーシーの積分定理の意味を理解し、積分路をうまく変更して複素積分を計算することができる。	
		10週	複素積分（4）		コーシーの積分公式を用いて、複素周回積分を計算できる。また、リュービルの定理を証明できる。	
		11週	複素級数展開（1）		簡単な複素級数の和を計算できる。また、収束半径を公式を用いて計算できる。	
		12週	複素級数展開（2）		テイラー展開・ローラン展開の意味を理解し、計算できる。	

		13週	留数定理（1）	孤立特異点の種類をローラン展開を求めて判定でき、その留数を求めることができる。
		14週	留数定理（2）	留数定理を用いて、複素周回積分を計算することができる。また、極の留数を公式を用いて計算できる。
		15週	留数定理（3）	留数定理を利用して、実積分の計算ができる。
		16週	定期試験	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	40	0	0	0	0	60	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	60	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	特殊関数
科目基礎情報					
科目番号	89		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	環境工学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書は使わない。以下の本は参考になるだろう。参考書：物理のための応用数学, 小野寺嘉孝, 裳華房；特殊関数, 金子尚武・松本道夫, 培風館；特殊函数, 犬井鉄郎, 岩波書店；自然科学者のための数学概論, 寺沢寛一, 岩波書店；数学公式Ⅲ, 森口・宇田川・一松, 岩波書店				
担当教員	神長 保仁				
到達目標					
ガンマ関数、ルジャンドル関数、ベッセル関数について学習し、次のことをできるようにする。					
○ガンマ関数					
□オイラーの第2種積分、ガウスの無限乗積表示、ワイエルシュトラスの無限乗積表示を理解できる。					
□相反公式、スターリングの公式が理解できる。					
□ベータ関数との関係が理解でき、定積分への応用ができる。					
○ルジャンドル関数					
□ルジャンドル多項式、ロドリグ公式、ルジャンドル微分方程式の関係が理解できる。					
□ルジャンドル多項式の母関数と漸化式が使いこなせる。					
□ルジャンドル多項式の直交性と完全性が理解できる。					
□具体的な関数をルジャンドル展開できる。					
□第1種および第2種ルジャンドル関数およびそれらと超幾何関数の関係が理解できる。					
○ベッセル関数					
□第1種ベッセル関数の定義と母関数が理解できる。					
□円筒関数の定義と漸化式が理解できる。					
□ベッセルの微分方程式、積分表示が理解できる。					
□ノイマン関数の定義が理解できる。					
□整数次のノイマン関数が理解できる。					
□ハンケル関数、ロンメル公式が理解できる。					
□ベッセル微分方程式の一般解をベッセル関数を用いて表せる。					
□ロンメル積分定理を理解できる。					
□ベッセル関数の直交性、フーリエ・ベッセル展開、ハンケル変換が理解できる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		ガンマ関数の定義と諸公式を理解し応用できる。	ガンマ関数の定義と諸公式を理解できる。	ガンマ関数の定義と諸公式を理解できない。	
評価項目2		ルジャンドル関数の定義と諸公式を理解し応用できる。	ルジャンドル関数の定義と諸公式を理解できる。	ルジャンドル関数の定義と諸公式を理解できない。	
評価項目3		ベッセル関数の定義と諸公式を理解し応用できる。	ベッセル関数の定義と諸公式を理解できる。	ベッセル関数の定義と諸公式を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	応用上重要な特殊関数であるガンマ関数、ルジャンドル関数、ベッセル関数の概念を理解する。				
授業の進め方・方法	期末試験：70%,レポート：30%,レポートを平常点として評価する。成績評価の対象となるのは, 定期試験の成績および平常点である。				
注意点	隔年開講科目(令和奇数年度開講、令和偶数年度未開講)				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガンマ関数(1)	・ Euler の第2種積分 ・ Gauss の無限乗積表示	
		2週	ガンマ関数(2)	・ Weierstrass の無限乗積表示 ・ 相反公式 ・ Stirling の公式	
		3週	ガンマ関数(3)	・ ベータ関数との関係 ・ 倍数公式 ・ 定積分への応用	
		4週	ルジャンドル関数(1)	・ Legendre 多項式 ・ Rodrigues の公式	
		5週	ルジャンドル関数(2)	・ Legendre 多項式の母関数 ・ 漸化式	
		6週	ルジャンドル関数(3)	・ Legendre 微分方程式 ・ Legendre 多項式の直交性 ・ 完全性	
		7週	ルジャンドル関数(4)	・ Legendre 展開の例 ・ 超幾何関数	
		8週	ルジャンドル関数(5)	・ 第1種および第2種 Legendre 関数	
	2ndQ	9週	ベッセル関数(1)	・ 第1種 Bessel 関数 ・ 母関数	
		10週	ベッセル関数(2)	・ 円筒関数と漸化式 ・ Bessel の微分方程式	
		11週	ベッセル関数(3)	・ 積分表示 ・ Neumann 関数 ・ 整数次の Neumann 関数	
		12週	ベッセル関数(4)	・ Hankel 関数 ・ Wronski 行列式	
		13週	ベッセル関数(5)	・ Lommel の公式 ・ Bessel 微分方程式の一般解	

		14週	ベッセル関数(6)		・ Lommel の積分定理 ・ 直交性		
		15週	ベッセル関数(7)		・ Fourier-Bessel 展開 ・ Hankel 変換		
		16週	定期試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	シミュレーション工学	
科目基礎情報							
科目番号	90			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	シミュレーション：佐藤文明他：共立出版						
担当教員	大墳 聡						
到達目標							
☐ シミュレーションの基本概念を理解できる ☐ モデリングが理解できる ☐ 自然現象、工学の分野での基本的なモデルの説明ができる ☐ Scilab を使用し、基本的モデルのシミュレーションができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	シミュレーションの基本概念を十分に理解できる			シミュレーションの基本概念を理解できる		シミュレーションの基本概念を理解できない	
評価項目2	モデリングが十分理解できる			モデリングが理解できる		モデリングが理解できない	
評価項目3	自然現象、工学の分野での基本的なモデルの説明が十分にできる			自然現象、工学の分野での基本的なモデルの説明ができる		自然現象、工学の分野での基本的なモデルの説明ができない	
評価項目4	Scilab を使用し、基本的モデルのシミュレーションが確実にできる			Scilab を使用し、基本的モデルのシミュレーションができる		Scilab を使用し、基本的モデルのシミュレーションができない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	現代社会では、社会、産業、経済すべてが複雑かつ大規模化し、これらに関する種々の問題を理解・予測をしていくことは容易ではない。また、気象や地震の予測の難しさをみればわかるように自然現象においても同様である。こうした複雑・大規模なシステムの解析・予測に適した手法として、コンピュータ・シミュレーションはある。この授業では、Scilab（サイラボ）という数値計算、可視化、プログラミングが容易に行える科学技術計算用汎用ソフトを用い、「モデルの立て方」と「シミュレーション方法」について学ぶ。シミュレーションの題材は、各専攻の学生にとって興味を持てる簡単な例題を用い、シミュレーションを実際に行いながら理解を深める。						
授業の進め方・方法	Scilab を用いることで、プログラミング経験のないあるいはプログラミングが不得手な人にも興味を持ってシミュレーション技術を学ぶことができると思います。また、環境工学専攻の学生にも配慮した内容にする予定です。なお、プログラム保存のため、USB メモリを用意しておいてください。						
注意点	http://www.gunma-ct.ac.jp/staff/ohtsuka/kougi/comp-simu/ を確認してください。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シミュレーション工学とは			シミュレーションの概要・歴史・目的	
		2週	Scilabの使用方法			Scilabの基本操作実習	
		3週	Scilabによる数学表現1			線形代数、微分積分の問題のScilabによる表現と解法	
		4週	Scilabによる数学表現2			応用数学の問題のScilabによる表現と解法	
		5週	自然科学モデル1			物理現象のシミュレーション	
		6週	自然科学モデル2			うわさの拡散モデル、伝染病の流行	
		7週	自然科学モデル3			捕食・被食種モデル、人口モデル	
		8週	確率モデル1			ランダムウォーク、経済モデル	
	2ndQ	9週	確率モデル2			線形計画法、モンテカルロ法	
		10週	フラクタルとカオス1			フラクタル図形の描画、フラクタル次元	
		11週	総合実習1			自由課題選定とプレゼンテーション準備	
		12週	総合実習2			自由課題の発表1	
		13週	総合実習3			自由課題の発表2	
		14週	期末試験				
		15週	フラクタルとカオス2			カオスシミュレーション	
		16週	まとめ			課題の提出	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	遺伝子工学特論	
科目基礎情報							
科目番号	91			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	遺伝子工学―基礎から応用まで―：野島 博：東京化学同人：4-8079-0804-2						
担当教員	大和田 恭子						
到達目標							
☐ 遺伝子工学について、その概念と基礎を理解できる。 ☐ 遺伝子の発現機構とその調節について説明できる。 ☐ 遺伝子組換え技術の原理について理解できる。 ☐ 遺伝子組換え作物や医薬品、遺伝子治療について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	遺伝子の発現機構とその調節について説明できる			遺伝子の発現機構とその調節について理解できる		遺伝子の発現機構とその調節について説明できない	
評価項目2	遺伝子組換え技術の原理について説明できる			遺伝子組換え技術の原理について理解できる		遺伝子組換え技術の原理について説明できない	
評価項目3	遺伝子組換え作物や医薬品、遺伝子治療について説明できる			遺伝子組換え作物や医薬品、遺伝子治療について理解できる		遺伝子組換え作物や医薬品、遺伝子治療について説明できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	遺伝子工学について、その概念と基礎を理解し、遺伝子組換え技術の原理について学習する。 遺伝子組換え作物、医薬品、遺伝子治療について理解するとともに、バイオテクノロジーにおける遺伝子工学の正しい知識を定着させる。						
授業の進め方・方法	講義および演習						
注意点	・ 授業を休まないこと ・ ノートをしっかりとること ・ 疑問点はその場で質問すること						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	遺伝子工学の歴史		遺伝子の概念が理解できる。遺伝物質の化学的性質が理解できる。		
		2週	遺伝子工学の歴史		形質転換物質としてのDNA、核酸の基本構造がわかる。		
		3週	セントラルドグマ		アダプター仮説とtRNAの発見、mRNAの発見とセントラルドグマを理解できる。		
		4週	遺伝子組換え技術の誕生		遺伝子組換え法の原理が理解できる。		
		5週	DNAを細工する酵素群		制限酵素、制限と修飾、DNAメチラーゼがわかる。		
		6週	ヌクレアーゼとリガーゼ		各種ヌクレアーゼの特徴、DNAリガーゼによるDNAの連結についてわかる。		
		7週	DNAポリメラーゼ		DNAポリメラーゼの種類とDNA合成反応についてわかる。クレノウフラグメントがわかる。		
		8週	RNAポリメラーゼ		RNAポリメラーゼの種類と触媒するRNA合成反応がわかる。		
	2ndQ	9週	逆転写酵素、末端核酸付加酵素、リン酸化・脱リン酸化酵素		逆転写酵素とその反応、cDNA、TdT、BAP、CIPについてそれらの反応とともに理解している。		
		10週	プラスミドとファージ（1）		プラスミド、ファージがわかる。プラスミドベクターの基本構造がわかる。プラスミドベクターの種類がわかる。		
		11週	プラスミドとファージ（2）		α相補の原理がわかる。遺伝子組換えにおけるλファージベクターの利用についてわかる。		
		12週	プラスミドとファージ（3）		混成ベクターとして、コスミドベクター、ファージミドベクターがわかる。出芽酵母を宿主としたベクター系がわかる。		
		13週	遺伝子操作における宿主の性質		宿主として持つべき性質を理解している。		
		14週	宿主の制限系と組換え系		大腸菌K-12株における代表的な制限系とそれを規定する遺伝子がわかる。組換えに関する遺伝子についてわかる。		
		15週	遺伝子型		遺伝子型の記述の原則がわかる。大腸菌K-12株の代表的な株の遺伝子型の基本的なものが読める。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	10	50
専門的能力	40	0	0	0	0	10	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	地盤工学特論	
科目基礎情報							
科目番号	92			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書 地盤工学第2版 澤孝平編著 森北出版 4-627-40662-9 参考書 土質力学第7版 河上房義 森北出版 4-627-46057-0						
担当教員	森田 年一						
到達目標							
☐ 土の基本的性質を理解し、地盤特性を表す物性値の計算を行うことにより、各種の設計へ活用できる。 ☐ 土の圧密のメカニズムを理解し、圧密沈下量の計算を行うことにより、各種の設計へ活用できる。 ☐ 土のせん断破壊のメカニズムを理解し、地盤内応力の計算を行うことにより、各種の設計へ活用できる。 ☐ 土圧論を理解し、各種の構造物に作用する土圧の計算を行うことにより、各種の設計へ活用できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	土の圧密のメカニズムを十分に理解し、圧密沈下量の計算を行うことにより、各種の設計へ十分に活用できる。			土の圧密のメカニズムを理解し、圧密沈下量の計算を行うことにより、各種の設計へ活用できる。		土の圧密のメカニズムを理解出来ず、圧密沈下量の計算を行えない。	
評価項目2	土のせん断破壊のメカニズムを十分に理解し、地盤内応力の計算を行うことにより、各種の設計へ十分に活用できる。			土のせん断破壊のメカニズムを理解し、地盤内応力の計算を行うことにより、各種の設計へ活用できる。		土のせん断破壊のメカニズムを理解出来ず、地盤内応力の計算を行えない。	
評価項目3	土圧論を十分に理解し、各種の構造物に作用する土圧の計算を行うことにより、各種の設計へ十分に活用できる。			土圧論を理解し、各種の構造物に作用する土圧の計算を行うことにより、各種の設計へ活用できる。		土圧論を理解出来ず、各種の構造物に作用する土圧の計算を行えない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	土の基本的性質、土の圧縮と圧密、土のせん断強さ、土圧について学習する。演習を数多く解くことにより、地盤特有の力学的問題に対する解決方法を習熟し、実務面でどのように活用されているかを理解することが大切である。						
授業の進め方・方法	実務との関連を強く意識して、授業を行う。授業内容により、プロジェクトを使用する場合がある。						
注意点	授業内容と実務で行われている設計・施工との関連を意識して授業に臨むこと。授業に臨むにあたり必要となる自学自習を充分に行うこと。本科目は隔年開講科目であり、西暦偶数年度は開講しない。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	土の基本的性質（1） 粒径加積曲線と粒度分布の指標		土の生成、基本的物理量、構造などについて説明できる。 土の基本的物理量や土の工学的分類について考察できる。 土の粒径・粒度分布を説明できる。 土の工学的分類について説明できる。		
		2週	土の基本的性質（2） 土のコンシステンシー		土のコンシステンシーを説明できる。		
		3週	土の基本的性質（3） 土の締固め		土の締固め特性について説明できる。		
		4週	土の圧縮と圧密（1） 有効応力の原理		有効応力と間隙水圧の関係を理解している。 圧密について理解し、標準圧密試験を説明できる。 地盤内応力や有効応力の原理を説明できる。		
		5週	土の圧縮と圧密（2） 圧密による最終沈下量の算定		圧密沈下量や圧密沈下時間について説明でき、一次元圧密計算ができる。		
		6週	土の圧縮と圧密（3） 圧密時間の算定と圧密沈下曲線		圧密沈下量や圧密沈下時間について説明でき、一次元圧密計算ができる。		
		7週	土の圧縮と圧密（4） 圧密の促進方法		地盤改良や二次圧密について理解している。 地盤改良について説明できる。		
		8週	土のせん断強さ（1） せん断強さの概念		土のせん断試験について説明できる。 土のせん断試験について考察できる。 土の異方性について説明できる。		
	2ndQ	9週	土のせん断強さ（2） モールの応力円		土の破壊基準を理解している。 土の破壊基準について考察できる。		
		10週	土のせん断強さ（3） クーロンの破壊線		土の破壊基準を理解している。 土の破壊基準について考察できる。		
		11週	土のせん断強さ（4） 砂質土・粘性土のせん断特性		砂質土と粘性土のせん断特性を説明できる。 砂質土・粘性土のせん断特性について考察できる。		
		12週	土圧（1） 土圧の種類		構造物に作用する土圧や地震時の土圧について説明できる。		
		13週	土圧（2） 主働状態、受働状態		構造物に作用する土圧や地震時の土圧について説明できる。		
		14週	土圧（3） クーロンの土圧論		ランキン土圧やクーロン土圧を理解している。		
		15週	土圧（4） ランキンの土圧論		ランキン土圧やクーロン土圧を理解している。		
		16週	前期定期試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	80	0	0	0	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	応用力学特論	
科目基礎情報							
科目番号	93			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書：異方性材料の男性論、中曽根祐司編著、コロナ社 参考書：連続体力学入門 第2版、Y.C.Fung、培風館						
担当教員	木村 清和						
到達目標							
本科で学習した構造力学をより一般的にした連続体力学を取り扱う。連続体力学を学ぶことにより弾性論、流体力学、破壊力学など関連分野を統一的に把握することができる。さらに高等数学を用いて力学を理解することを目標とする。 授業の到達目標は以下となる。(評価の割合) □応力とその種類、ひずみとその種類、応力と歪の関係（フックの法則、弾性係数、ポアソン比）について説明でき、それらを活用できる 20% □平面応力状態と平面歪状態の違いを理解し、垂直応力、せん断応力について説明できる 20% □主応力と主軸について説明できる □モールの応力円ひずみ円を利用して構造物内部の応力状態、ひずみ状態を説明できる 20% □弾性・塑性の概念について説明できる 20% (上記の各目標の成績は試験80%レポート20%で評価します)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	応力・ひずみ、さらに構成式について理解し説明できる			応力・ひずみ、さらに構成式について理解し活用できる		応力・ひずみ、さらに構成式について説明できない	
評価項目2	主応力と主軸について理解し説明できる			主応力と主軸について理解し活用できる		主応力と主軸について理解し説明できない	
評価項目3	モールの応力円ひずみ円を利用して構造物内部の応力状態、ひずみ状態を理解し説明できる			モールの応力円ひずみ円を理解し活用できる		モールの応力円ひずみ円を理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	弾性論、塑性論、粘弾性論は種々の材料を種々の条件で取り扱う必要性から独自の分野で発展してきたが、外力を受ける物体の変形応答として統一的に取り扱うべきものであるという視点で、固体の力学として集大成された。本授業ではその入門として連続体力学を取り上げ以下に上げる内容について授業を行う。 1. 弾性理論に用いる数学（ベクトルとテンソル） 2. 応力テンソル 3. 主応力と主軸 4. 変形と解析（ひずみテンソル） 5. 構成式 6. 線形弾性理論						
授業の進め方・方法	輪講形式で担当を決めて授業を行う。 担当学生は担当個所を予習し、質問内容などを明らかにしておくこと。授業では担当個所の説明・解説をしてもらいます。 説明不足な点等は教員より適宜、補足説明をおこないます。						
注意点	本科で学習した構造力学が線の力学に対し、この科目では面の力学に発展した内容を学修することになります。 構造力学で学習した内容をよく復習し、新しく学ぶ内容との違いをよく理解しながら担当個所の予習をしてください。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	弾性論概論		弾性論・塑性論の理解		
		2週	弾性論に用いる数学 ベクトル、ベクトル方程式、総和規約レポート 座標の並進と回転、一般の座標変換		弾性論に用いる数学の理解		
		3週	弾性論に用いる数学 スカラー・ベクトル・テンソルの直交座標系における解析的な定義、テンソル方程式、偏導関数		弾性論に用いる数学の理解		
		4週	つり合い方程式		2次元弾性論の基礎式の理解		
		5週	つり合い方程式		2次元弾性論の基礎式の理解		
		6週	構成式		2次元弾性論の基礎式の理解		
		7週	構成式		2次元弾性論の基礎式の理解		
		8週	応力とは 応力の考え方、応力成分記号		応力テンソルの理解		
	4thQ	9週	応力とは 運動法則、自由物体線図		応力テンソルの理解		
		10週	応力とは Cauchy の公式		応力テンソルの理解		
		11週	応力とは 座標変換による応力成分の変化、直交曲線座標系における応力成分		応力テンソルの理解		
		12週	モールの応力円 主応力、最大せん断応力、平面の極、法線の極		モールの応力円の理解		
		13週	モールの応力円 任意に傾斜した面の応力状態 3次元応力状態におけるMohrの応力円		モールの応力円の活用		
		14週	モールのひずみ円 主ひずみ、最大せん断ひずみ、極		モールのひずみ円の理解		
		15週	モールのひずみ円 ひずみゲージの測定結果からひずみ円を描く方法		モールのひずみ円の活用		

		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	構造設計特論	
科目基礎情報							
科目番号	94			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	参考書土木構造物の設計：原 隆史：オーム社：978-4-272-21589-6						
担当教員	先村 律雄						
到達目標							
土木構造物の構造設計をおこなう上で必要な基礎知識の修得と実際の設計への応用方法を習得するため以下を目標とする。 ・土木構造物の設計法を理解できる ・限界状態設計法(使用性、安全性)が理解できる ・橋脚の設計ができる ・設計図を書くことができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	限界状態設計法(使用限界と終局限界)について十分に理解できる			限界状態設計法(使用限界と終局限界)について理解できる		限界状態設計法(使用限界と終局限界)について理解できない	
評価項目2	構造物に作用する荷重条件を十分に理解できる			構造物に作用する荷重条件を理解できる		構造物に作用する荷重条件を理解できない	
評価項目3	設計結果を基に簡単な設計図を十分に作成できる			設計結果を基に簡単な設計図を作成できる		設計結果を基に簡単な設計図を作成できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	土木構造物の構造設計法は、限界状態設計法が中心であり、近年はこれを基本とした性能照査型の設計法が提案されている。そこで、限界状態設計法の概要・特徴等について学習し、具体的な構造物を設計し、設計図を書くことによって実設計の基本を理解する。本講義では、鉄筋コンクリート関連で実務経験を有する教員が、その経験を活かし構造設計の授業をおこなう。						
授業の進め方・方法	座学およびCAD実習						
注意点	本科目を受講するための準備学習として、環境都市工学設計製図、コンクリート構造学を履修しておくこと。特に設計製図は、その基本事項を理解しておくこと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	設計とは		設計の基本概念・知識について		
		2週	土木構造物とは		代表的な土木構造物の種類		
		3週	荷重条件		種々の荷重条件を整理できる		
		4週	性能照査		構造物に要求される性能(使用性、修復性)、および地震時の安全性を説明できる		
		5週	大規模地震に対する設計		大規模地震を想定した耐震設計例を挙げて概説したことを理解する		
		6週	設計図		設計図の構成、設計図の内容について概略説明できる		
		7週	設計法		限界状態設計法・性能照査型設計法について、概要・特徴・問題を理解できる		
		8週	限界状態設計法の基本原理		限界状態設計法の基本原理を理解できる		
	4thQ	9週	限界状態設計法による設計その1		鉄筋コンクリート構造物を例にとり限界状態設計法（使用限界状態）を理解		
		10週	限界状態設計法による設計その2		鉄筋コンクリート構造物を例にとり限界状態設計法（終局限界状態：性能Ⅰ）を理解		
		11週	橋脚の設計その1		橋脚の設計（終局限界：性能Ⅰ）をおこない設計図書作成		
		12週	橋脚の設計その2		橋脚の設計（終局限界：性能Ⅰ）をおこない設計図書作成		
		13週	橋脚の設計その3		橋脚CAD作図		
		14週	橋脚の設計その4		橋脚CAD作図		
		15週	定期試験				
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	0	0	0	0	60	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	30	50
専門的能力	20	0	0	0	0	30	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	有機化学特論Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	95		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	ブルース 有機化学（下）, 第7版 : Paula Y. Bruice 著 大船泰史・香月昴・西郷和彦・富岡清 監訳 : 化学同人						
担当教員	友坂 秀之						
到達目標							
☐ 生体分子の有機化合物について、そのものや生体中での役割を理解することができる。 ☐ 生体分子の有機化合物について、生体中における反応、すなわち代謝を理解することができる。 ☐ 脂肪の異化や同化を説明することができる。 ☐ 炭水化物の異化や同化を説明することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	具体例を挙げ、代謝とエネルギー変換を説明できる。		代謝とエネルギー変換を理解できる。		左記に達していない。		
評価項目2	具代的な構造を示し、脂肪の異化（β酸化）と同化を説明できる。		脂肪の異化（β酸化）と同化を説明できる。		左記に達していない。		
評価項目3	具代的な構造を示し、炭水化物の異化（解糖）と同化（糖新生）を説明できる。		炭水化物の異化（解糖）と同化（糖新生）を説明できる。		左記に達していない。		
評価項目4	具代的な構造を示し、ピルビン酸のアセチルC o A への変換、クエン酸回路、タンパク質の異化（アミノ基転移）、およびアミノ酸の生合成を説明できる。		ピルビン酸のアセチルC o A への変換、クエン酸回路、タンパク質の異化（アミノ基転移）、およびアミノ酸の生合成を理解できる。		左記に達していない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目の総授業時間数は22.5時間である。 これまでに、有機化学では、おもに有機化合物の性質、合成、および反応などについて学んでいる。また、水を除く多くの生体分子は有機化合物である。生体中での有機化合物そのものやその役割について学ぶことは、有機化学の中で重要である。これまでに学んでいる生体分子の有機化合物について、生体中における反応、すなわち代謝の基礎的な知識を得るとともに理解を深める。						
授業の進め方・方法	授業計画を参照のこと。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	有機化学および生化学の基礎（復習）	有機化学および生化学の基礎について説明できる。			
		2週	代謝とエネルギー変換	代謝とエネルギー変換を理解できる。			
		3週	脂肪の異化（β酸化）	脂肪の異化（β酸化）の前半部分を理解できる。			
		4週	脂肪の異化（β酸化）	脂肪の異化（β酸化）の後半部分を理解できる。			
		5週	炭水化物の異化（解糖）	炭水化物の異化（解糖）の前半部分を理解できる。			
		6週	炭水化物の異化（解糖）	炭水化物の異化（解糖）の後半部分を理解できる。			
		7週	ピルビン酸のアセチルC o A への変換	ピルビン酸のアセチルC o A への変換を理解できる。			
		8週	クエン酸回路	クエン酸回路の前半部分を理解できる。			
	4thQ	9週	クエン酸回路	クエン酸回路の後半部分を理解できる。			
		10週	タンパク質の異化（アミノ基転移）	タンパク質の異化（アミノ基転移）を理解できる。			
		11週	脂肪酸の同化	脂肪酸の同化の前半部分を理解できる。			
		12週	脂肪酸の同化	脂肪酸の同化の後半部分を理解できる。			
		13週	炭水化物の同化（糖新生）	炭水化物の同化（糖新生）の前半部分を理解できる。			
		14週	炭水化物の同化（糖新生）	炭水化物の同化（糖新生）の後半部分を理解できる。			
		15週	アミノ酸の生合成 まとめ	アミノ酸の生合成を理解できる。 課題問題の解答を作成できる。			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	環境工学特論	
科目基礎情報							
科目番号	96			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	堀尾 明宏						
到達目標							
地球規模環境問題の背景と現状を理解することができる。 環境浄化・改善に寄与する微生物の働きと役割をりかいすることができる。 公害時代に遡り、当時の問題をビデオ等の視聴から理解することができる 国際的な環境管理システム(ISO14001)を各環境報告書より学習し、理解することができる。 各環境問題について各自でテーマを選択し、プレゼンテーション後の議論を通じ、知識と考え方を身に付けることができる。 環境関連企業を見学し、高度な知識を深めることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	環境工学の幅広い知識と問題解決能力を十分に身につけている。		環境工学の幅広い知識と問題解決能力を身につけている。		環境工学の幅広い知識と問題解決能力を身につけていない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	環境問題(公害問題)、環境分析、マネジメントと環境分野に必要な基礎知識を修得する。また、水の浄化の基本を微生物反応を通じ理解するとともに、そのメカニズムを習得する。 地球規模の環境問題は、大枠の環境問題の基本を学習するとともに、各自でテーマを選択し、予備学習と説明資料の作成、プレゼンテーションにより知識を深める。 本授業は環境計量、排水処理、ISOに関する資格、実務経験のある教員が、その経験を活かし、実践に繋がる内容について講義形式で授業を行うものである。						
授業の進め方・方法	前半は、準備した資料をもとに、講義を進める。 後半は、環境問題やISO関連の授業では各自の選択テーマについて発表者がプレゼンテーションを行う。 見学は、県内の環境関連企業や研究所を予定している。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	概論 世界の水問題		講義の範囲と進め方、地球の誕生からの現代までの時代の移り変わりと特質を理解する。世界の水問題の概要を理解する。		
		2週	地球規模環境問題		地球規模の環境問題を抽出し、現象や問題点を正しく理解する。		
		3週	微生物概論		微生物の定義と日常生活の関わり、生物の分類と機能、微生物界での食物連鎖、食中毒の原因菌を理解する。		
		4週	水質概論		水質項目の意義と意味、定量について理解する。		
		5週	公害概論		公害時代に遡り、具体的な事例について理解する。 ビデオを用いて、技術者倫理を考える。		
		6週	環境マネジメント概論(1)		ISO9000、14000の役割と流れ、環境報告書をもと企業の取り組み方、考えたかを理解する。		
		7週	環境マネジメント概論(2)		企業の環境への取組について、各自で環境報告書を読み取り、発表する。		
		8週	生活排水処理技術概論		国内外の排水処理技術の動向を理解する。		
	4thQ	9週	大気汚染の防止		各担当の学生がレジュメに基づいて説明し、補足と議論の形式で講義を進める。		
		10週	水質汚濁問題		各担当の学生がレジュメに基づいて説明し、補足と議論の形式で講義を進める。		
		11週	土壌汚染問題		各担当の学生がレジュメに基づいて説明し、補足と議論の形式で講義を進める。		
		12週	地球温暖化問題		各担当の学生がレジュメに基づいて説明し、補足と議論の形式で講義を進める。		
		13週	バイオマス活用		各担当の学生がレジュメに基づいて説明し、補足と議論の形式で講義を進める。		
		14週	施設見学		施設先の業務、使用設備を理解する		
		15週	施設見学		施設先の内容について、みんなで議論する		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	環境微生物	
科目基礎情報							
科目番号	97			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	環境微生物学--地球環境を守る微生物の役割と応用、久保幹・森崎久雄・久保田謙三・今中忠行、化学同人978-4-7598-1462-0						
担当教員	谷村 嘉恵						
到達目標							
・微生物の分類・代謝、多様性について学ぶことができる。 ・自然の浄化における微生物による有機汚濁の除去、窒素・リンの除去について学ぶことができる。 ・重金属や石油や有機塩素化合物等の念分解性物質の微生物分解特性を理解することができる。 ・環境問題の解決に微生物がどのように働くか、どのように利用しているかについて理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	微生物の基礎が十分に理解できる。			微生物の基礎が理解できる。		微生物の基礎が理解できない。	
評価項目2	種々環境汚染物質に対して微生物の分解メカニズムを十分に理解できる。			種々環境汚染物質に対して微生物の分解メカニズムを理解できる。		種々環境汚染物質に対して微生物の分解メカニズムを理解できない。	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	微生物の分類・代謝特性を概説したうえで、自然界の元素循環・自然の浄化における微生物の関わりについて学習する。さらに、微生物による環境汚染物質の分解や資源・エネルギー問題の対策における微生物の利用などを学ぶ。						
授業の進め方・方法	講義						
注意点	2021年度開講（隔年開講）						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 環境微生物とは			ガイダンス 微生物の分類・分布・生育 環境変化と環境微生物	
		2週	環境微生物の役割と特徴①			炭素の循環と微生物	
		3週	環境微生物の役割と特徴②			窒素の循環と環境微生物	
		4週	環境微生物の役割と特徴③			リンの循環と環境微生物 硫黄の循環と環境微生物	
		5週	極限環境微生物			温度・pH・塩分・圧力に関する極限環境微生物	
		6週	微生物による有害物質除去・分解①			微生物による廃水処理	
		7週	微生物による有害物質除去・分解②			微生物による脱臭	
		8週	微生物による有害物質除去・分解③			微生物による重金属汚染の浄化	
	2ndQ	9週	微生物による有害物質除去・分解④			微生物による石油の分解	
		10週	微生物による有害物質除去・分解⑤			微生物による有機塩素化合物の分解	
		11週	微生物による環境浄化・改善・修復①			水圏・気圏	
		12週	微生物による環境浄化・改善・修復②			土壌①	
		13週	微生物による環境浄化・改善・修復③			土壌②	
		14週	バイオエネルギーと微生物			エタノール、バイオディーゼル、水素	
		15週	総まとめ				
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	40	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	生命科学特論	
科目基礎情報							
科目番号	98			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	宮越 俊一						
到達目標							
近年急速に進歩している生命科学について、社会生活や産業、食糧・環境問題との関連のなかで理解し、各自の視点で評価できる。生命の生い立ちからその分子レベルの成り立ち、さらに社会や地球環境とのかかわりまで、広範に理解を深める。遺伝子とその発現、おもな代謝経路など、生命の機能を応用した技術について、産業や社会とのかかわりも含めて理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	分子生物学とくに遺伝子の複製や発現、その調節について、その応用技術も含めて説明できる。			分子生物学とくに遺伝子の複製や発現、その調節について、その応用技術も含めて理解できる。		分子生物学とくに遺伝子の複製や発現、その調節について、その応用技術も含めて理解できない。	
評価項目2	生命の代謝とエネルギー、細胞の構造の機能について説明できる。			生命の代謝とエネルギー、細胞の構造の機能について理解できる。		生命の代謝とエネルギー、細胞の構造の機能について理解できない。	
評価項目3	生体の調節や応答の仕組みについて説明できる。			生体の調節や応答の仕組みについて理解できる。		生体の調節や応答の仕組みについて理解できない。	
評価項目4	地球環境と生物多様性、人類との関わりについて説明できる。			地球環境と生物多様性、人類との関わりについて理解できる。		地球環境と生物多様性、人類との関わりについて理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	分子・細胞生物学とその応用技術について、基礎的な内容から新しいトピックスまで交えて学ぶ。オリジナルの教材を軸に授業を進めるだけでなく、学生自身も調べて発表することや問題演習により自発的に学ぶ。						
授業の進め方・方法	オリジナルの教材（プリントなど）と板書を軸に授業を進める。必要に応じ、スライドや動画などの視聴覚教材や演習用の問題集等も活用する。時おり演習も行いながら理解の定着を図るとともに、時には自ら調べ、仲間に教えあうことでさらに理解を深める。						
注意点	担当教員は製薬企業での研究開発の経験を有し、その経験を活かして学生に学習の意義や企業等で専門を活かして働くことを理解できるキャリア教育も重視している。						
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	地球の歴史と生命の進化（1）地球の成り立ち～生命の誕生と進化（プリント教材ほか）				
		2週	地球の歴史と生命の進化（2）生命の進化・多様性と人類の生い立ち（プリント教材ほか）				
		3週	遺伝子とその発現（1）遺伝情報物質とその複製（プリント教材ほか）				
		4週	遺伝子とその発現（2）遺伝子の発現とタンパク質合成（プリント教材ほか）				
		5週	遺伝子とその発現（3）ゲノムと遺伝子発現の調節（プリント教材、グループ学習）				
		6週	遺伝子・細胞の応用技術（1）遺伝子組換え技術（プリント教材ほか）				
		7週	遺伝子・細胞の応用技術（2）ゲノム編集・細胞工学（プリント教材ほか）				
	2ndQ	8週	分子細胞生物学演習（プリント、問題集ほかによる演習）				
		9週	細胞の構造と機能（1）生体膜・細胞内小器官など（プリント教材ほか）				
		10週	細胞の構造と機能（2）細胞骨格・細胞周期など（プリント教材ほか）				
		11週	代謝と生体エネルギー（1）ATPと呼吸、ミトコンドリア（プリント教材ほか）				
		12週	代謝と生体エネルギー（2）呼吸（続き）、光合成、その他の代謝（プリント教材ほか）				
		13週	刺激の受容と応答・細胞内シグナル伝達（1）（プリント教材ほか）				
		14週	刺激の受容と応答・細胞内シグナル伝達（2）（プリント教材、問題演習ほか）				
		15週	生体防御のしくみ・免疫（プリント教材ほか）				
16週	定期試験						
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	都市計画特論	
科目基礎情報							
科目番号	99			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	プリント						
担当教員	鈴木 一史						
到達目標							
☐ 計画の目的論と目標設定を理解している。 ☐ 現実の都市問題に対し、分析仮説を設定するとともに、そのための分析方法を選定できる。 ☐ 特定の都市問題に関連する適切な資料・調査データを収集・整理できる。 ☐ 基礎的な確率統計と統計的処理を用いて地域の問題を分析できる。 ☐ 分析した結果をレポートとして作成し、それをわかりやすくプレゼンテーションできる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	計画の目的論と目標設定を十分に理解している		計画の目的論と目標設定を理解している		計画の目的論と目標設定を理解できていない		
評価項目2	現実の都市問題に対し、分析仮説を設定するとともに、そのための分析方法を自ら選定できる		現実の都市問題に対し、分析仮説を設定することができる		現実の都市問題に対し、分析仮説を設定することができず、分析方法も自ら選定できない		
評価項目3	発展的な確率統計と統計的処理を用いて地域の問題を分析できる。		基礎的な確率統計と統計的処理を用いて地域の問題を分析できる。		基礎的な確率統計と統計的処理を用いて地域の問題を分析できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	近年の都市計画には、地球環境や地域・地区の環境への配慮、高齢者のモビリティの確保、さらには計画策定プロセスにおける市民参加など様々な計画課題が存在する。本講義では、「都市計画」で講じた内容を理解していることを前提に、現実の地域の都市・交通問題について、分析仮説を設定し、そのための分析方法を検討する。そして、資料・調査データを収集・整理し、客観的・定量的な分析を行い、仮説を検証する一連の流れを体得する。以上をもって科学的な研究の流れを学修することを目的とする。実際の地域を対象に、ゼミ、グループ作業・ワークショップ形式で分析作業を行う。本講義では、都市交通分野における調査・計画の実務経験を有する教員がその経験を活かし、都市計画及び交通計画について授業を行う。						
授業の進め方・方法	授業形式はゼミ、グループ作業・ワークショップ形式で行う。本科「都市計画」「計画数理」で学んだ内容を復習しておくことが望ましい。						
注意点	本科目の履修を希望するものは、環境都市工学科「都市計画」「計画数理」を履修していることが望ましい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		本講義の目的、進め方		
		2週	対象地域・分析テーマ設定		ディスカッションによるテーマ設定		
		3週	分析方法の検討(1)		使用データ、分析の流れの検討		
		4週	分析方法の検討(2)		分析手法、分析結果の整理方法の検討		
		5週	資料・データの収集・整理(1)		エディティング、コーディング		
		6週	資料・データの収集・整理(2)		データ入力		
		7週	資料・データの収集・整理(3)		データチェック、マスターデータ作成		
		8週	資料・データの分析(1)		統計的分析		
	2ndQ	9週	資料・データの分析(2)		統計的分析		
		10週	資料・データの分析(3)		統計的分析		
		11週	資料・データの分析(4)		統計的分析		
		12週	課題のとりまとめ(1)		レポート作成		
		13週	課題のとりまとめ(2)		レポート作成		
		14週	課題のとりまとめ(3)		レポート作成		
		15週	課題発表		課題発表・全体討議、レポート提出		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	日本文化論		
科目基礎情報								
科目番号	75		科目区分		一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2			
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専2			
開設期	前期		週時間数		2			
教科書/教材	毎回自作プリントを配布する。							
担当教員	田貝 和子							
到達目標								
☐ 日本語の歴史を通時的に学ぶことで、自己の表現活動に役立てることができる。 ☐ 文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。 ☐ 論理的かつ多角的な理解力、柔軟な思考・発想力を含む主体的な表現意欲を培うことができる。 ☐ 社会で 사용되는ことをばを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	日本語の歴史を通時的に学ぶことで、自己の表現活動に役立てることができる。		日本語の歴史を通時的に学ぶことで、自己の表現活動に役立てることができる。		日本語の歴史を通時的に学ぶことで、自己の表現活動に役立てることができない。			
評価項目2	文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。		文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。		文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができない。			
評価項目3	論理的かつ多角的な理解力、柔軟な思考・発想力を含む主体的な表現意欲を培うことができる。		論理的かつ多角的な理解力、柔軟な思考・発想力を含む主体的な表現意欲を培うことができる。		論理的かつ多角的な理解力、柔軟な思考・発想力を含む主体的な表現意欲を培うことができない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	日本語の歴史を学習し、また、日本語を実際に分析し、日本語を理解する。また、資料収集の作業を元に、自分の研究テーマに関する事項に対して、日本における歴史的変遷を探り、自分の研究テーマに対して、日本文化史の視点から発展可能な事項を見出す。							
授業の進め方・方法	前半は、日本語の歴史について講義を行い、また、日本語の分析を行う。 後半は、各自のテーマについて、日本における歴史的変遷を調査する。その後、発表及びレポートとしてまとめる。							
注意点	歴史を知することは、現代を知ることです。ことばが変化してきた様子について、思いを馳せてみてください。 また、現代科学の参考となる事項を掘り起こし、日本の風土に適合した開発を考える第一歩になればと思います。							
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	授業概要			授業の概要を述べ、意義と目的について説明する。 日本語史の全体像について理解する。		
		2週	日本語分析 1			日本語を分析する方法について理解する。		
		3週	上代の日本語／日本語分析 2			上代（奈良時代）の日本語の特色について学ぶ。		
		4週	中古の日本語／日本語分析 3			中古（平安時代）の日本語の特色について学ぶ。		
		5週	中世の日本語／日本語分析 4			中世（鎌倉室町時代）の日本語の特色について学ぶ。		
		6週	近世・近代の日本語／日本語分析 5			近世（江戸時代）以降の日本語の特色について学ぶ。		
		7週	日本語分析発表			分析した日本語の文章について発表する。		
	8週	日本語史のまとめ（試験）			日本語史についての筆記試験。			
	2ndQ	9週	テーマ設定			自己の研究に関連するテーマを設定する。		
		10週	資料収集方法			辞書や索引などを使って、資料収集を行う。		
		11週	レポート作成 1			資料をもとにレポートを作成する。		
		12週	レポート発表準備			レポートの内容についての発表準備をする。		
		13週	レポート発表			レポートの内容について発表する。		
		14週	レポート作成 2			レポートの内容を修正する。		
		15週	総括			授業の総括を行う。		
		16週						
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	20	10	10	0	0	60	100	
基礎的能力	20	10	10	0	0	60	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	身体動作学	
科目基礎情報							
科目番号	76			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	佐藤 孝之						
到達目標							
☐ 身体の主な骨、筋肉の名称とその構造・機能を理解できる。 ☐ 身体を活動させるエネルギー供給機構について理解できる。 ☐ 身体重心について、測定の方法・写真での合成の仕方を理解できる。 ☐ 「歩く」「走る」「跳ぶ」「投げる」といった動作がどの様に行われているかを理解できる。 ☐ 身体の主な骨、筋肉の名称とその構造・機能を理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
	身体の主な骨、筋肉の名称とその構造・機能を理解し、説明できる。			身体の主な骨、筋肉の名称とその構造・機能はわかっているが説明はできない。		わからないし、理解できていない。	
	身体を活動させるエネルギー供給機構を理解し、説明できる。			身体を活動させるエネルギー供給機構を理解しているが説明はできない。		わからないし、理解できていない。	
	身体重心について、測定の方法・写真での合成の仕方を理解し、説明できる。			身体重心について、測定の方法・写真での合成の仕方を理解しているが説明はできない。		わからないし、理解できていない。	
	ヒトの基本動作を理解し、説明できる。			ヒトの基本動作を理解しているが説明はできない。		わからないし、理解できていない。	
						わからないし、理解できていない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	自分自身の身体を思い通りに動かすということは、案外難しいことである。一つの単純な動きにしても、身体の中では色々な変化が起き、動かした部分は、他の部分に影響を及ぼしているものである。 この授業では、主に「動作」がどの様に作り出されるかを身体の構造、機能という面から理解し、よりよい「動作」をするためにはどうすれば良いかを考える。また、自分自身の身体を鍛えるトレーニングの方法についても理解する。						
授業の進め方・方法	ビデオカメラとパソコンを用い動作解析を行い、他人との動きを比較する。学習の進捗状況により、授業の順序や内容が変更されることがある。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	人体の構造と機能		人間の骨格の構造、骨や筋肉の名称など、これから使う基本的な用語について理解することができる。		
		2週	筋肉の種類とその構造		人間の筋肉の色々な種類やその働き・構造・性質について理解することができる。		
		3週	エネルギー供給機構		筋肉を動かすエネルギー源となるATPは、どの様に作られ、どの様に使われているかを理解することができる。		
		4週	エンジンとしての筋肉の働き		骨格筋の働き、骨と筋肉によって「動作」とはどの様に作られていくのかを理解することができる。		
		5週	呼吸循環機能の働き①		呼吸する意味や、血液の役割などを理解することができる。		
		6週	呼吸循環機能の働き②		漸増負荷試験を行い自分の体力を理解することができる。		
		7週	身体重心①		人間の重心を求める方法を理解することができる。		
		8週	身体重心②		人間の重心を求める方法を理解することができる。		
	4thQ	9週	身体組成		体脂肪率の求め方やダイエットについて正しい知識を得ることができる。		
		10週	動作解析の手法①		運動動作の解析方法を理解することができる。		
		11週	動作解析の手法②		自身の運動動作を撮影、解析し、友達と比較することができる。		
		12週	走・跳・投動作の解説		人間の動きの中でも基本的な「歩く」「走る」「跳ぶ」「投げる」といった動作がどの様に行われているかを理解することができる。		
		13週	近年のトレーニング方法を各自が調べ、その内容を発表する		近年のトレーニング方法について説明することができる。		
		14週	スポーツにおける空気抵抗の利用①		スポーツにおける空気抵抗の役割を理解することができる。		
		15週	スポーツにおける空気抵抗の利用②		スポーツにおける空気抵抗の役割を理解することができる。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	レポート	授業態度	ポートフォリオ	合計	

綜合評價割合	40	20	20	10	10	100
基礎的能力	20	10	10	5	5	50
専門的能力	20	10	10	5	5	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	科学英語A	
科目基礎情報							
科目番号	77		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専2		
開設期	前期		週時間数		1		
教科書/教材	英語モードが身につくライティング						
担当教員	伊藤 文彦						
到達目標							
英文法を理解できる。 科学に関する英文を読み、内容を理解することができる。 英語表現力を身につけることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
grammar	英文法をよく理解している		英文法をある程度理解している		英文法を理解することができない		
reading	科学に関する英文を十分に理解することができる		科学に関する英文をある程度理解することができる		科学に関する英文を理解することができない		
writing	自己の考えをよく表現できる		自己の考えをある程度表現できる		自己の考えを表現することができない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	grammar---英文法の重要事項を確認する。 reading---単語・熟語・英文法の知識を有機的に結び付けて英文を読む訓練を行う。 writing---表現力を培う。(この一環でspeakingの練習も行う)						
授業の進め方・方法	授業では教科書およびプリント教材を使用する。主に、科学に関連した読み物を読む。特別研究と継続的な連携を計りながら取り組む。 特別研究で実施している工学系学術論文（英語論文）の輪読にあわせて、課題提出や英文と日本語表現との違いなどを講義して研究を遂行できる資質を育成する。						
注意点	英語力が伸びるか否かは、教員の情熱・テキストの良さ・学生の主体性で決まる。まず学生は主体性を持って学習してほしい。英和・和英辞典を持参すること(スマートフォン不可)。授業進度によっては英文を執筆する訓練も行う。本科目は学修単位なので、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が授業の前後に必要となります。具体的な学修内容は毎回の授業における予習と復習です。 High English proficiency will be yours by virtue of daily continious practice.						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	introduction, 英文法小テスト, speaking practice		icebreak. 基本的な英文法の理解する, want to do-pattern		
		2週					
		3週	chemical elemennts, speaking practice		learn chemical elements, want +person+ to do-pattern		
		4週	fast writing practice		improve writing skills		
		5週	solar calendar, speaking practice		comprehend reading material , think that-pattern		
		6週	lunar calendar, speaking practice		comprehend material, gerund-pattern		
		7週	その他(電子機器開発者の英文記事、医学、地学、化学など)		comprehend reading material		
		8週	その他(電子機器開発者の英文記事、医学、地学、化学など)		comprehend reading material		
	2ndQ	9週	simple sentence				
		10週	comound sentence				
		11週	review. 日本語と英語の違い, speaking practice		今までの復習など, past participle modifying noun clause-pattern		
		12週	essay practice, 1 or 2 paragraph essay.		improve writing skills. 行きたい場所を英語で表現する		
		13週	essay practice, 1 or 2 paragraph essay. speaking practice		improve writing skills.行きたい場所を英語で表現する, relative pronoun-pattern (who)		
		14週	essay practice, 1 or 2 paragraph essay , speaking practice		improve writing skills. 研究内容をを英語で表現する, relative pronoun-pattern (which)		
		15週	final exam		既習の学習事項の確認		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	科学英語B	
科目基礎情報							
科目番号	78			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	1		
教科書/教材	英語モードが身につくライティング						
担当教員	伊藤 文彦						
到達目標							
英文法を理解できる。 科学に関する英文を読み、内容を理解することができる。 英文を執筆することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
grammar	英文法をよく理解している			英文法をある程度理解している		英文法を理解することができない	
reading	科学に関する英文を十分に理解することができる			科学に関する英文をある程度理解することができる		科学に関する英文を理解することができない	
writing	自己の考えをよく表現できる			自己の考えをある程度表現できる		自己の考えを表現できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	grammar---英文法の重要事項を確認する。 reading---単語・熟語・英文法の知識を有機的に結び付けて英文を読む訓練を行う。 writing---表現力を培う。(この一環でspeakingの練習も行う)						
授業の進め方・方法	授業では教科書およびプリント教材を使用する。 主に、科学的内容を扱った英文を読む。 特別研究と継続的な連携を計りながら取り組む。 特別研究で実施している工学系学術論文（英語論文）の輪読にあわせて、課題提出や英文と日本語表現との違いなどを講義して研究を遂行できる資質を育成する。						
注意点	英語力が伸びるか否かは、教員の情熱・テキストの良さ・学生の主体性で決まる。まず学生は主体性を持って学習してほしい。英和・和英辞典を持参すること(スマートフォン不可)。授業進度によっては英文を執筆する訓練も行う。本科目は学修単位なので、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が授業の前後に必要となります。具体的な学修内容は毎回の授業における予習と復習です。 High English proficiency will be yours by virtue of daily continious practice.						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	introduction, fast writing practice, listening practice		icebreak. improve writing skills		
		2週	voc size test, science English		語彙調査。研究内容を英語で表現する		
		3週	science English, speaking practice		研究内容を英語で表現する; want to do-pattern, want 人 to do-pattern		
		4週	Kepler's Laws		comprehend reading material		
		5週	Kepler's Laws, speaking practice		comprehend reading material, think that-pattern		
		6週	その他(数学、医学、文学、社会問題など)		comprehend reading material		
		7週	その他(数学、医学、文学、社会問題など), speaking practice		comprehend reading material, gerund-pattern		
		8週	review. 日本語と英語の違い, speaking practice		今までの復習など, many/few/so that;/ past participle modifying noun clause-pattern		
	4thQ	9週	1-2 paragraph essay		improve writing skills		
		10週	1-2 paragraph essay		improve writing skills		
		11週	vaccination, speaking practice		comprehend reading material, relative pronoun (who)		
		12週	vaccination		comprehend reading material		
		13週	earthquake, speaking practice		comprehend reading material, relative pronoun (which)		
		14週	earthquake		comprehend reading material		
		15週	final exam		既習の学習事項の確認		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	近代西洋社会論
科目基礎情報					
科目番号	81		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	環境工学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	授業中に資料を配布します。				
担当教員	宮川 剛				
到達目標					
☐ 近世・近代ヨーロッパの社会や歴史に様々な角度から光をあてて、世界史におけるヨーロッパの役割、他の地域・文明に与えた影響などを理解することができる。 ☐ 現代世界形成に大きな役割を果たしたヨーロッパの歴史的背景について理解を深めることで、グローバル化の時代 ににふさわしい教養・認識を身につけることができる。 ☐ 現代の日本とは異なる過去の社会や人々の生活を学ぶことにより、物事について多様な角度からアプローチするた めの訓練を積むことができる。 ☐ 歴史における人類の偉業ならびに愚行について考察することにより、これからの世界を形作るうえで必要な教訓を 得ることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	世界史におけるヨーロッパの役割、他の地域・文明に与えた影響などを理解し、読書などを通じて、さらに理解を深めることができる。		世界史におけるヨーロッパの役割、他の地域・文明に与えた影響などを理解することができる。		世界史におけるヨーロッパの役割、他の地域・文明に与えた影響などを理解することができない。
評価項目2	現代の日本とは異なる過去の社会や人々の生活を学ぶことにより、物事について多様な角度からアプローチするための訓練を積み、さらに読書などを通じて、自分なりの問題関心に基づいて、研究することができる。		現代の日本とは異なる過去の社会や人々の生活を学ぶことにより、物事について多様な角度からアプローチするための訓練を積むことができる。		現代の日本とは異なる過去の社会や人々の生活を学ぶことの重要性を理解できず、物事について多様な角度からアプローチすることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	・本科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。 ・近世・近代ヨーロッパの政治、文化、宗教など、毎回テーマを設定し、講義や資料（英語文献含む）の講読を通じて、基本的な知識を提供する。 ・講義の内容に関係する資料や参考図書を読み込むことで、現代世界の諸問題の歴史的背景を理解する。 ・レポートの作成などを通じて、自らの考えを論理的に表現する訓練をおこなう。				
授業の進め方・方法	講義形式で行う。講義の内容や文献・資料の講読にもとづいたグループでの議論や小論文の作成なども実施する。				
注意点	1年次の「歴史」、4年次の「比較社会史」で学習した内容を前提に授業を進めます。 中央公論新社『世界の歴史』シリーズや山川出版社『世界史リブレット』シリーズ（いずれも図書館に所蔵）のヨーロッパを扱った巻を読んでおくことが望ましい。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	イントロダクション	西洋近代史概説	
		2週	歴史学の手法	史料をいかに読むのか。歴史学の対象は何か。	
		3週	キリスト教世界 （1）	中世から近代にかけて、ヨーロッパ・キリスト教世界はどのような展開を示したか。教会は社会にどのように影響を与えたか。	
		4週	キリスト教世界 （2）	中世から近代にかけて、ヨーロッパ・キリスト教世界はどのような展開を示したか。教会は社会にどのように影響を与えたか。	
		5週	キリスト教世界 （3）	中世から近代にかけて、ヨーロッパ・キリスト教世界はどのような展開を示したか。教会は社会にどのように影響を与えたか。	
		6週	ヨーロッパの都市と市民 （1）	ヨーロッパの都市の特質は何か。市民意識成立の背景は何か。	
		7週	ヨーロッパの都市と市民 （2）	ヨーロッパの都市の特質は何か。市民意識成立の背景は何か。	
		8週	近世・近代ヨーロッパの家族史	ヨーロッパにおける家族や世帯構造の特徴。社会や経済との関わり	
	4thQ	9週	歴史における「衰退」 （1）	ローマ帝国、大英帝国など、過去の大国はいかに衰退していったか。その社会はどのような変容を遂げたのか。日本にとってどのような教訓を提供してくれるのか。	
		10週	歴史における「衰退」 （2）	ローマ帝国、大英帝国など、過去の大国はいかに衰退していったか。その社会はどのような変容を遂げたのか。日本にとってどのような教訓を提供してくれるのか。	
		11週	歴史における「衰退」 （3）	ローマ帝国、大英帝国など、過去の大国はいかに衰退していったか。その社会はどのような変容を遂げたのか。日本にとってどのような教訓を提供してくれるのか。	
		12週	近代ヨーロッパにおける政治と 宗教	フランス革命以後の時代において、政治と宗教はいか宗教 なる関係にあったか。フランスにおける「ライシテ（脱宗教性）」の原則の確立などを取り上げ、21世紀の 多文化社会における政教関係についても考察したい。	

		13週	近代ヨーロッパにおける政治と 宗教	フランス革命以後の時代において、政治と宗教はいか 宗教 なる関係にあったか。フランスにおける「ライシ テ（脱宗教性）」の原則の確立などを取り上げ、21世 紀の 多文化社会における政教関係についても考察した い。
		14週	近代ヨーロッパにおける政治と 宗教	フランス革命以後の時代において、政治と宗教はいか 宗教 なる関係にあったか。フランスにおける「ライシ テ（脱宗教性）」の原則の確立などを取り上げ、21世 紀の 多文化社会における政教関係についても考察した い。
		15週	総括	全体のまとめ
		16週	期末試験	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	遺伝子工学特論	
科目基礎情報							
科目番号	129			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	遺伝子工学―基礎から応用まで―：野島 博：東京化学同人：4-8079-0804-2						
担当教員	大和田 恭子						
到達目標							
☐ 遺伝子工学について、その概念と基礎を理解できる。 ☐ 遺伝子の発現機構とその調節について説明できる。 ☐ 遺伝子組換え技術の原理について理解できる。 ☐ 遺伝子組換え作物や医薬品、遺伝子治療について説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		遺伝子の発現機構とその調節について説明できる		遺伝子の発現機構とその調節について理解できる		遺伝子の発現機構とその調節について説明できない	
評価項目2		遺伝子組換え技術の原理について説明できる		遺伝子組換え技術の原理について理解できる		遺伝子組換え技術の原理について説明できない	
評価項目3		遺伝子組換え作物や医薬品、遺伝子治療について説明できる		遺伝子組換え作物や医薬品、遺伝子治療について理解できる		遺伝子組換え作物や医薬品、遺伝子治療について説明できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	遺伝子工学について、その概念と基礎を理解し、遺伝子組換え技術の原理について学習する。 遺伝子組換え作物、医薬品、遺伝子治療について理解するとともに、バイオテクノロジーにおける遺伝子工学の正しい知識を定着させる。						
授業の進め方・方法	講義および演習						
注意点	・ 授業を休まないこと ・ ノートをしっかりとること ・ 疑問点はその場で質問すること						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	遺伝子工学の歴史		遺伝子の概念が理解できる。遺伝物質の化学的性質が理解できる。		
		2週	遺伝子工学の歴史		形質転換物質としてのDNA、核酸の基本構造がわかる。		
		3週	セントラルドグマ		アダプター仮説とtRNAの発見、mRNAの発見とセントラルドグマを理解できる。		
		4週	遺伝子組換え技術の誕生		遺伝子組換え法の原理が理解できる。		
		5週	DNAを細工する酵素群		制限酵素、制限と修飾、DNAメチラーゼがわかる。		
		6週	ヌクレアーゼとリガーゼ		各種ヌクレアーゼの特徴、DNAリガーゼによるDNAの連結についてわかる。		
		7週	DNAポリメラーゼ		DNAポリメラーゼの種類とDNA合成反応についてわかる。クレノウフラグメントがわかる。		
		8週	RNAポリメラーゼ		RNAポリメラーゼの種類と触媒するRNA合成反応がわかる。		
	2ndQ	9週	逆転写酵素、末端核酸付加酵素、リン酸化・脱リン酸化酵素		逆転写酵素とその反応、cDNA、TdT、BAP、CIPについてそれらの反応とともに理解している。		
		10週	プラスミドとファージ（1）		プラスミド、ファージがわかる。プラスミドベクターの基本構造がわかる。プラスミドベクターの種類がわかる。		
		11週	プラスミドとファージ（2）		α相補の原理がわかる。遺伝子組換えにおけるλファージベクターの利用についてわかる。		
		12週	プラスミドとファージ（3）		混成ベクターとして、コスミドベクター、ファージミドベクターがわかる。出芽酵母を宿主としたベクター系がわかる。		
		13週	遺伝子操作における宿主の性質		宿主として持つべき性質を理解している。		
		14週	宿主の制限系と組換え系		大腸菌K-12株における代表的な制限系とそれを規定する遺伝子がわかる。組換えに関する遺伝子についてわかる。		
		15週	遺伝子型		遺伝子型の記述の原則がわかる。大腸菌K-12株の代表的な株の遺伝子型の基本的なものが読める。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	10	50
専門的能力	40	0	0	0	0	10	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	数値解析特論	
科目基礎情報							
科目番号	131		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	数値計算法第2版新装版 三井田 淳郎, 須田 宇宙 著: 森北出版、参考書: C&FORTRANによる数値解析の基礎: 川崎 晴久: 共立出版						
担当教員	雑賀 洋平						
到達目標							
☐ 丸め誤差, 打ち切り誤差, 桁落ちについて理解できる。 ☐ 数値解析アルゴリズムについて理解できる。 ☐ 得意とする言語をもちいてプログラムが書けて実行できる。 具体的には, 2分法, ニュートン法による非線形方程式の数値解法, ガウスの消去法, ガウスジョルダン法, LU分解による連立一次方程式の数値解法, 台形則, シンプソン則による数値積分法, オイラー法, ルンゲ・クッタ法による微分方程式の数値解法) ☐ 簡単な情報処理の問題に対して, 上記の数値解析アルゴリズムを組み合わせることで問題解決ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	丸め誤差, 打ち切り誤差, 桁落ちについて理解でき、利用できる。		☐ 丸め誤差, 打ち切り誤差, 桁落ちについて理解できる。		☐ 丸め誤差, 打ち切り誤差, 桁落ちについて理解できない。		
評価項目2	数値解析アルゴリズムについて理解でき、得意とする言語をもちいてプログラムが書けて実行できる。		数値解析アルゴリズムについて理解できる。		数値解析アルゴリズムについて理解できない。		
評価項目3	簡単な情報処理の問題に対して、上記の数値解析アルゴリズムを組み合わせることで問題解決ができる。		簡単な情報処理の問題に対して、上記の数値解析アルゴリズムを組み合わせることで利用できる。		簡単な情報処理の問題に対して、上記の数値解析アルゴリズムを組み合わせることで利用できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	☐ 丸め誤差, 打ち切り誤差, 桁落ちについて理解できる。 ☐ 数値解析アルゴリズムについて理解できる。 ☐ 得意とする言語をもちいてプログラムが書けて実行できる。 具体的には, 2分法, ニュートン法による非線形方程式の数値解法, ガウスの消去法, ガウスジョルダン法, LU分解による連立一次方程式の数値解法, 台形則, シンプソン則による数値積分法, オイラー法, ルンゲ・クッタ法による微分方程式の数値解法) ☐ 簡単な情報処理の問題に対して, 上記の数値解析アルゴリズムを組み合わせることで問題解決ができる。						
授業の進め方・方法	座学、実習						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		概要説明、コンピュータのスキルについての調査		
		2週	非線形方程式の数値解法 1		二分法、ニュートン法の説明と実習		
		3週	連立方程式の数値解法 1		ガウスの消去法、ガウス・ジョルダン法、LU分解を利用した連立方程式の解法の説明		
		4週	連立方程式の数値解法 2		実習 1、ガウスの消去法、ガウス・ジョルダン法		
		5週	連立方程式の数値解法 3		実習 2: LU分解による連立方程式の解法		
		6週	最小二乗法と補間 1		最小二乗法の説明と実習		
		7週	最小二乗法と補間 2		ラグランジュ補間の説明と実習		
		8週	数値積分 1		台形法、ニュートン・コーツの数値積分法の説明		
	4thQ	9週	数値積分 2		実習		
		10週	微分方程式の数値解法 1		オイラー法、ルンゲ・クッタ法の説明		
		11週	微分方程式の数値解法 2		実習		
		12週	総合演習 1		グループ分け、課題設定		
		13週	総合演習 2		課題遂行 1		
		14週	総合演習 3		課題遂行 2		
		15週	総合演習 4		課題遂行 3、報告書作成、発表		
		16週	試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	0	0	0	0	30	80
分野横断的能力	0	0	0	0	0	20	20

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	解析力学
科目基礎情報						
科目番号	151		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻		対象学年	専2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書は特に指定しない。自作の問題集をウェブサイトから配布する。					
担当教員	宇治野 秀晃					
到達目標						
☐ Euler-Lagrange方程式を用いて、古典力学の典型的な問題を解くことができる。 ☐ 正準形式の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。 ☐ Hamilton-Jacobi方程式を用いて、基本的な問題を解くことができる。 ☐ 古典力学と量子力学の対応関係を理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
Euler-Lagrange方程式を用いて、古典力学の典型的な問題を解くことができる。	Euler-Lagrange方程式を用いて、古典力学の典型的な問題を解くことができる。		Euler-Lagrange方程式を用いて、それほど難しくはない古典力学の典型的な問題を解くことができる。		Euler-Lagrange方程式を用いて、古典力学のそれほど難しくはない典型的な問題を解くことができない。	
正準形式の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。	正準形式の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。		正準形式の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができる。		正準形式の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができない。	
Hamilton-Jacobi方程式を用いて、基本的な問題を解くことができる。	Hamilton-Jacobi方程式を用いて、基本的な問題を解くことができる。		Hamilton-Jacobi方程式を用いて、それほど難しくはない基本的な問題を解くことができる。		Hamilton-Jacobi方程式を用いて、それほど難しくはない基本的な問題を解くことができる。	
古典力学と量子力学の対応関係を理解できる。	古典力学と量子力学の対応関係を、複数の観点から十分に理解できる。		古典力学と量子力学の対応関係を理解できる。		古典力学と量子力学の対応関係を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本科目の総授業時間数は22.5時間である。古典力学の基礎方程式である質点に対するNewtonの運動方程式は、選んだ座標に応じて運動方程式の形が変わるため、大変に煩わしい。その煩雑さを解消し、万能で一般的な処方箋を提供するLagrange形式をまず解説し、Machが「思考の経済」と絶賛したその実用上の利点を様々な例題を通じて実感させる。続いてLagrange形式よりもさらに大きな変数変換の自由度を与えるHamilton形式について解説し、運動方程式の表現の一つであるHamilton-Jacobi方程式を導く。量子力学の基礎方程式であるSchroedinger方程式が、古典極限でHamilton-Jacobi方程式に帰着することを見ることで、量子力学が古典力学の拡張理論であることを理解する。					
授業の進め方・方法	座学					
注意点	【事前に行う準備学習】微積分を用いる基礎的な力学(例えば本校学科3年応用物理Iでカバーされるような)、多変数関数に対するものも含む微積分(偏微分、重積分)、線形代数(特に行列の対角化、2次形式の標準化)、簡単な微分方程式の解法に関する知識を前提としますから、事前に復習をしておくことと良いでしょう。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	最小作用の原理とLagrangian		・一般化座標とLagrangian 解析力学問題集 ・ Euler-Lagrange方程式 (自作教材) 1 ・ 点変換とEuler-Lagrange方程式の不変性	
		2週	最小作用の原理とLagrangian		・ 自由粒子とLagrangian ・ 自由粒子と平面極座標	
		3週	L=K-U型のLagrangianを持つ系		・ 保存力とEuler-Lagrange方程式 解析力学問題集 ・ 2重振り子	
		4週	L=K-U型のLagrangianを持つ系		・ フーコーの振り子 ・ 電磁場中の荷電粒子のLagrangian	
		5週	保存量と対称性		・ 循環座標 ・ 拘束条件とLagrange未定乗数法 ・ Lagrangianの不定性 ・ ネーターの定理 ・ 空間の一様性と運動量の保存	
		6週	正準形式		・ 正準方程式 解析力学問題集 ・ 最小作用の原理と正準方程式	
		7週	正準形式		・ 正準変換と母関数	
		8週	Lagrange形式の総復習		・ 第5週までの内容についてのテストゼミ (模擬試験 + 問題解説)	
	2ndQ	9週	正準形式		・ 調和振動子の正準形式による扱い 解析力学問題集 ・ エネルギーに共役な正準変数としての時間	
		10週	Hamilton-Jacobi方程式		・ 時間発展と正準変換 解析力学問題集 ・ Hamilton-Jacobi方程式	
		11週	Hamilton-Jacobi方程式		・ Hamilton-Jacobi方程式の完全解と正準方程式の一般解	
		12週	Hamilton-Jacobi方程式		・ 簡単な例題	
		13週	量子力学の古典極限		・ Schroedinger方程式の古典極限	
		14週	量子力学の古典極限		・ 量子力学における最小作用の原理	
		15週	正準形式以降の総復習		・ 第6週以降の内容についてのテストゼミ (模擬試験 + 問題解説)	
		16週	定期試験			

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	環境防災特論		
科目基礎情報								
科目番号	153			科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2			
開設期	前期			週時間数	2			
教科書/教材	教科書 防災工学第2版 石井一郎編著 森北出版 4-627-45172-8							
担当教員	森田 年一							
到達目標								
☐ 地震・火山噴火等の地殻活動について、そのメカニズムを説明できる。 ☐ 津波・風水害・雪害の発生メカニズムと被害概要について説明できる。 ☐ 各種の地盤災害について、発生メカニズムと対策方法について説明できる。 ☐ 放射能汚染等の環境災害が住民生活に及ぼす影響とそれらの対策について説明できる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	地震・火山噴火等の地殻活動について、そのメカニズムを十分に説明できる。		地震・火山噴火等の地殻活動について、そのメカニズムを説明できる。		地震・火山噴火等の地殻活動について、そのメカニズムを説明できない。			
評価項目2	津波・風水害・雪害の発生メカニズムと被害概要について十分に説明できる。		津波・風水害・雪害の発生メカニズムと被害概要について説明できる。		津波・風水害・雪害の発生メカニズムと被害概要について説明できない。			
評価項目3	各種の地盤災害について、発生メカニズムと対策方法について十分に説明できる。		各種の地盤災害について、発生メカニズムと対策方法について説明できる。		各種の地盤災害について、発生メカニズムと対策方法について説明できない。			
評価項目4	放射能汚染等の環境災害が住民生活に及ぼす影響とそれらの対策について十分に説明できる。		放射能汚染等の環境災害が住民生活に及ぼす影響とそれらの対策について説明できる。		放射能汚染等の環境災害が住民生活に及ぼす影響とそれらの対策について説明できない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	地震、火山噴火、津波、気象災害、地盤災害、環境災害について学習する。実際に発生している各種の災害を意識して学習に取り組むことが大切である。本授業科目は、行政機関において防災工学に関する実務経験を有している教員が、その実務経験を活かし、地震動、気象災害、地盤災害等について講義形式で授業を行うものである。							
授業の進め方・方法	実際に発生している各種の災害を強く意識して授業を行う。授業内容により、プロジェクトを使用する場合がある。							
注意点	授業内容と実際に発生している各種の災害との関連を意識して授業に臨むこと。授業に臨むにあたり必要となる自学自習を充分に行うこと。本科目は隔年開講科目であり、西暦奇数年度は開講しない。							
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	総論（1） 災害の発生要因			災害の発生要因について説明できる。		
		2週	総論（2） 管理瑕疵責任			管理瑕疵責任について説明できる。		
		3週	地震（1） 地震波			地震波について説明できる。		
		4週	地震（2） プレートによる地震			プレートによる地震について説明できる。		
		5週	火山噴火（1） 火山噴火のメカニズム			火山噴火のメカニズムについて説明できる。		
		6週	火山噴火（2） 火山噴火の予知			火山噴火の予知について説明できる。		
		7週	津波 津波の発生メカニズム			津波の発生メカニズムについて説明できる。		
	2ndQ	8週	気象災害 風害・水害・雪害			風害・水害・雪害について説明できる。		
		9週	地盤災害（1） 地殻の構成と地質			地殻の構成と地質について説明できる。		
		10週	地盤災害（2） 斜面崩壊			斜面崩壊について説明できる。		
		11週	地盤災害（3） 侵食			侵食について説明できる。		
		12週	地盤災害（4） 地盤沈下			地盤沈下について説明できる。		
		13週	環境災害（1） 酸性雨			酸性雨について説明できる。		
		14週	環境災害（2） 地球の温暖化			地球の温暖化について説明できる。		
		15週	環境災害（3） 放射能汚染			放射能汚染について説明できる。		
16週	前期定期試験							
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	80	0	0	0	0	20	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	Fundamental Mechanics	
科目基礎情報							
科目番号	155			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	参考書 : An Introduction to Modern Cosmology : Andrew Liddle : Wiley : 978-1118502143						
担当教員	渡邊 悠貴						
到達目標							
☐ 英語による宇宙論 (大学3、4年レベル) の講義を聞き取ることができる。 ☐ フリードマン方程式の解法を英語で説明できる。 ☐ 簡単な宇宙モデルを英語で説明できる。 ☐ 英語を用いて宇宙論に関する質問や受け答えができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	宇宙論の基礎的な概念や簡単な宇宙モデルを、英語を通じた教育により理解でき、自分の言葉で正しく表現できる。			宇宙論の基礎的な概念や簡単な宇宙モデルを、英語を通じた教育により理解できる。		宇宙論の基礎的な概念や簡単な宇宙モデルを、英語を通じた教育により全く理解できない。	
評価項目2	宇宙論の基礎的な問題を解く際に、英語を用いて正しく表現できる。			宇宙論の基礎的な問題を解く際に、英語を用いてある程度表現できる。		宇宙論の基礎的な問題を解くことができない。また、英語を用いて全く表現できない。	
評価項目3	英語を用いて質問したり、適切に受け答えすることができる。			英語を用いて質問したり、受け答えすることがある程度できる。		英語を用いて質問したり、受け答えすることが全くできない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	宇宙空間の膨張や宇宙の構成物質である星、銀河、可視光、電波、宇宙線、ダークマター、ダークエネルギーなど現代宇宙論の基礎的な事項を、観測データと物理法則に基づいて講義する。						
授業の進め方・方法	スライドと板書により講義を進める。理解度・定着度を測るため、毎回確認テストを行う。各人の研究内容や物理学についての英語によるプレゼンテーションも課すことがある。						
注意点	当たり前のことですが、英語を使ってみなければ英語力は上達しません。講義中は積極的に英語で質問し、「人前で英語を話すこと」に対する抵抗感を減らす努力をしましょう。AEの学生の受講も推奨します。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	Observational Overview				
		2週	Newtonian Gravity, Friedmann Equation				
		3週	Geometry of the Universe				
		4週	Simple Cosmological Models				
		5週	Observational Parameters				
		6週	Cosmological Constant, Dark Energy				
		7週	Age of the Universe				
		8週	Density of the Universe, Dark Matter				
	4thQ	9週	Cosmic Microwave Background				
		10週	Early Universe				
		11週	Big Bang Nucleosynthesis				
		12週	Inflationary Universe				
		13週	Cosmic Structures				
		14週	General Relativistic Cosmology				
		15週	Summary				
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	0	0	80	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	30	30
専門的能力	0	20	0	0	0	30	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	20	20

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	特殊関数
科目基礎情報					
科目番号	59		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	環境工学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書は使わない。以下の本は参考になるだろう。参考書：物理のための応用数学, 小野寺嘉孝, 裳華房；特殊関数, 金子尚武・松本道夫, 培風館；特殊函数, 犬井鉄郎, 岩波書店；自然科学者のための数学概論, 寺沢寛一, 岩波書店；数学公式Ⅲ, 森口・宇田川・一松, 岩波書店				
担当教員	神長 保仁				
到達目標					
ガンマ関数、ルジャンドル関数、ベッセル関数について学習し、次のことをできるようにする。					
○ガンマ関数					
□オイラーの第2種積分、ガウスの無限乗積表示、ワイエルシュトラスの無限乗積表示を理解できる。					
□相反公式、スターリングの公式が理解できる。					
□ベータ関数との関係が理解でき、定積分への応用ができる。					
○ルジャンドル関数					
□ルジャンドル多項式、ロドリグ公式、ルジャンドル微分方程式の関係が理解できる。					
□ルジャンドル多項式の母関数と漸化式が使いこなせる。					
□ルジャンドル多項式の直交性と完全性が理解できる。					
□具体的な関数をルジャンドル展開できる。					
□第1種および第2種ルジャンドル関数およびそれらと超幾何関数の関係が理解できる。					
○ベッセル関数					
□第1種ベッセル関数の定義と母関数が理解できる。					
□円筒関数の定義と漸化式が理解できる。					
□ベッセルの微分方程式、積分表示が理解できる。					
□ノイマン関数の定義が理解できる。					
□整数次のノイマン関数が理解できる。					
□ハンケル関数、ロンメル公式が理解できる。					
□ベッセル微分方程式の一般解をベッセル関数を用いて表せる。					
□ロンメル積分定理を理解できる。					
□ベッセル関数の直交性、フーリエ・ベッセル展開、ハンケル変換が理解できる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		ガンマ関数の定義と諸公式を理解し応用できる。	ガンマ関数の定義と諸公式を理解できる。	ガンマ関数の定義と諸公式を理解できない。	
評価項目2		ルジャンドル関数の定義と諸公式を理解し応用できる。	ルジャンドル関数の定義と諸公式を理解できる。	ルジャンドル関数の定義と諸公式を理解できない。	
評価項目3		ベッセル関数の定義と諸公式を理解し応用できる。	ベッセル関数の定義と諸公式を理解できる。	ベッセル関数の定義と諸公式を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	応用上重要な特殊関数であるガンマ関数、ルジャンドル関数、ベッセル関数の概念を理解する。				
授業の進め方・方法	期末試験：70%,レポート：30%,レポートを平常点として評価する。成績評価の対象となるのは, 定期試験の成績および平常点である。				
注意点	隔年開講科目(令和奇数年度開講、令和偶数年度未開講)				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガンマ関数(1)	・ Euler の第2種積分 ・ Gauss の無限乗積表示	
		2週	ガンマ関数(2)	・ Weierstrass の無限乗積表示 ・ 相反公式 ・ Stirling の公式	
		3週	ガンマ関数(3)	・ ベータ関数との関係 ・ 倍数公式 ・ 定積分への応用	
		4週	ルジャンドル関数(1)	・ Legendre 多項式 ・ Rodrigues の公式	
		5週	ルジャンドル関数(2)	・ Legendre 多項式の母関数 ・ 漸化式	
		6週	ルジャンドル関数(3)	・ Legendre 微分方程式 ・ Legendre 多項式の直交性 ・ 完全性	
		7週	ルジャンドル関数(4)	・ Legendre 展開の例 ・ 超幾何関数	
		8週	ルジャンドル関数(5)	・ 第1種および第2種 Legendre 関数	
	2ndQ	9週	ベッセル関数(1)	・ 第1種 Bessel 関数 ・ 母関数	
		10週	ベッセル関数(2)	・ 円筒関数と漸化式 ・ Bessel の微分方程式	
		11週	ベッセル関数(3)	・ 積分表示 ・ Neumann 関数 ・ 整数次の Neumann 関数	
		12週	ベッセル関数(4)	・ Hankel 関数 ・ Wronski 行列式	
		13週	ベッセル関数(5)	・ Lommel の公式 ・ Bessel 微分方程式の一般解	

		14週	ベッセル関数(6)		・ Lommel の積分定理 ・ 直交性		
		15週	ベッセル関数(7)		・ Fourier-Bessel 展開 ・ Hankel 変換		
		16週	定期試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	シミュレーション工学	
科目基礎情報							
科目番号	60			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	シミュレーション：佐藤文明他：共立出版						
担当教員	大墳 聡						
到達目標							
☐ シミュレーションの基本概念を理解できる ☐ モデリングが理解できる ☐ 自然現象、工学の分野での基本的なモデルの説明ができる ☐ Scilab を使用し、基本的モデルのシミュレーションができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	シミュレーションの基本概念を十分に理解できる		シミュレーションの基本概念を理解できる		シミュレーションの基本概念を理解できない		
評価項目2	モデリングが十分理解できる		モデリングが理解できる		モデリングが理解できない		
評価項目3	自然現象、工学の分野での基本的なモデルの説明が十分にできる		自然現象、工学の分野での基本的なモデルの説明ができる		自然現象、工学の分野での基本的なモデルの説明ができない		
評価項目4	Scilab を使用し、基本的モデルのシミュレーションが確実にできる		Scilab を使用し、基本的モデルのシミュレーションができる		Scilab を使用し、基本的モデルのシミュレーションができない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	現代社会では、社会、産業、経済すべてが複雑かつ大規模化し、これらに関する種々の問題を理解・予測をしていくことは容易ではない。また、気象や地震の予測の難しさをみればわかるように自然現象においても同様である。こうした複雑・大規模なシステムの解析・予測に適した手法として、コンピュータ・シミュレーションはある。この授業では、Scilab（サイラボ）という数値計算、可視化、プログラミングが容易に行える科学技術計算用汎用ソフトを用い、「モデルの立て方」と「シミュレーション方法」について学ぶ。シミュレーションの題材は、各専攻の学生にとって興味を持てる簡単な例題を用い、シミュレーションを実際に行いながら理解を深める。						
授業の進め方・方法	Scilab を用いることで、プログラミング経験のないあるいはプログラミングが不得手な人にも興味を持ってシミュレーション技術を学ぶことができると思います。また、環境工学専攻の学生にも配慮した内容にする予定です。なお、プログラム保存のため、USB メモリを用意しておいてください。						
注意点	http://www.gunma-ct.ac.jp/staff/ohtsuka/kougi/comp-simu/ を確認してください。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シミュレーション工学とは		シミュレーションの概要・歴史・目的		
		2週	Scilabの使用方法		Scilabの基本操作実習		
		3週	Scilabによる数学表現1		線形代数、微分積分の問題のScilabによる表現と解法		
		4週	Scilabによる数学表現2		応用数学の問題のScilabによる表現と解法		
		5週	自然科学モデル1		物理現象のシミュレーション		
		6週	自然科学モデル2		うわさの拡散モデル、伝染病の流行		
		7週	自然科学モデル3		捕食・被食種モデル、人口モデル		
		8週	確率モデル1		ランダムウォーク、経済モデル		
	2ndQ	9週	確率モデル2		線形計画法、モンテカルロ法		
		10週	フラクタルとカオス1		フラクタル図形の描画、フラクタル次元		
		11週	総合実習1		自由課題選定とプレゼンテーション準備		
		12週	総合実習2		自由課題の発表1		
		13週	総合実習3		自由課題の発表2		
		14週	期末試験				
		15週	フラクタルとカオス2		カオスシミュレーション		
		16週	まとめ		課題の提出		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	統計力学
科目基礎情報					
科目番号	61		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	環境工学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書は特に指定しない。この講義に合わせた自作問題集をウェブサイトから配布する。				
担当教員	宇治野 秀晃				
到達目標					
☐熱力学の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。 ☐小正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。 ☐正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。 ☐量子統計力学の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。 ☐イジング模型に関する解析の容易な例題を取り扱うことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
熱力学の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。	熱力学の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。		熱力学の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができない。		熱力学の基本的な枠組みを理解し、熱力学の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことが出来る。基本的な問題を取り扱うことができない。
小正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。	小正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。		小正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができる。		小正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができない。
正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。	正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。		正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができる。		正準集団の理論の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができない。
量子統計力学の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。	量子統計力学の基本的な枠組みを理解し、基本的な問題を取り扱うことができる。		量子統計力学の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができる。		量子統計力学の基本的な枠組みを理解し、それほど難しくはない基本的な問題を取り扱うことができる。
イジング模型に関する解析の容易な例題を取り扱うことができる。	イジング模型に関する解析の容易な例題を取り扱うことができる。		イジング模型に関する解析の容易な例題を取り扱うことがほほできる。		イジング模型に関する解析の容易な例題を取り扱うことができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	我々の身の回りにあるものは、非常に多数の原子や分子が集まってできている。これらの原子や分子の個々の運動を規定するミクロな情報から、我々の目に見える物体が示す、非常に多数の原子や分子の集団的な振る舞いを与えるマクロな情報を引き出す理論体系が統計力学である。本講義では、取り扱いが比較的容易な例題に親しみながら、平衡状態に対する統計力学の理論体系を概観する。				
授業の進め方・方法	座学				
注意点	統計力学は熱力学といっしょになってまとめた理論体系を形作っています。初回講義で熱力学の最小限の知識について、まとめて解説しますが、EJ出身の皆さんは共通専門科目の応用物理II、MK出身の皆さんは専門科目の熱力学、物理化学で学んだ熱力学について、事前によく復習しておくとういでしょう。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	熱力学ミニマム	・内部エネルギーとエントロピー 統計力学問題集 ・自由エネルギー（自作教材） ・マクスウェルの関係式 ・ゴムひもの熱力学	
		2週	古典統計力学	・等重率の原理 統計力学問題集 ・小正準集団（自作教材） ・理想気体	
		3週	古典統計力学	・2準位系 ・ゴム弾性 ・正準集団	
		4週	古典統計力学	・分配関数 ・ギブスのパラドックス ・理想気体	
		5週	古典統計力学	・2準位系 ・大正準集団	
		6週	古典統計力学	・理想気体 ・Langmuirの等温吸着式	
		7週	量子統計力学	・黒体輻射	
		8週	古典統計力学の総復習	・第6週までの内容のテストゼミ（模擬試験＋問題解説）	
	2ndQ	9週	量子統計力学	・ボース統計 ・フェルミ統計	
		10週	量子統計力学	・理想ボース気体 ・理想フェルミ気体	
		11週	量子統計力学	・格子比熱	
		12週	量子統計力学	・電子比熱	
		13週	強相関係の統計力学－イジング模型	・1次元イジング模型の厳密解	

	14週	強相関系の統計力学－イジング模型	・ イジング模型の平均場近似 ・ 相転移 ・ 臨界指数				
	15週	量子統計力学とイジング模型の総復習	・ 第7週以降の内容のテストゼミ（模擬試験＋問題解説）				
	16週	定期試験					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	地盤工学特論	
科目基礎情報							
科目番号	62			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書 地盤工学第2版 澤孝平編著 森北出版 4-627-40662-9 参考書 土質力学第7版 河上房義 森北出版 4-627-46057-0						
担当教員	森田 年一						
到達目標							
☐ 土の基本的性質を理解し、地盤特性を表す物性値の計算を行うことにより、各種の設計へ活用できる。 ☐ 土の圧密のメカニズムを理解し、圧密沈下量の計算を行うことにより、各種の設計へ活用できる。 ☐ 土のせん断破壊のメカニズムを理解し、地盤内応力の計算を行うことにより、各種の設計へ活用できる。 ☐ 土圧論を理解し、各種の構造物に作用する土圧の計算を行うことにより、各種の設計へ活用できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	土の圧密のメカニズムを十分に理解し、圧密沈下量の計算を行うことにより、各種の設計へ十分に活用できる。		土の圧密のメカニズムを理解し、圧密沈下量の計算を行うことにより、各種の設計へ活用できる。		土の圧密のメカニズムを理解出来ず、圧密沈下量の計算を行えない。		
評価項目2	土のせん断破壊のメカニズムを十分に理解し、地盤内応力の計算を行うことにより、各種の設計へ十分に活用できる。		土のせん断破壊のメカニズムを理解し、地盤内応力の計算を行うことにより、各種の設計へ活用できる。		土のせん断破壊のメカニズムを理解出来ず、地盤内応力の計算を行えない。		
評価項目3	土圧論を十分に理解し、各種の構造物に作用する土圧の計算を行うことにより、各種の設計へ十分に活用できる。		土圧論を理解し、各種の構造物に作用する土圧の計算を行うことにより、各種の設計へ活用できる。		土圧論を理解出来ず、各種の構造物に作用する土圧の計算を行えない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	土の基本的性質、土の圧縮と圧密、土のせん断強さ、土圧について学習する。演習を数多く解くことにより、地盤特有の力学的問題に対する解決方法を習熟し、実務面でどのように活用されているかを理解することが大切である。						
授業の進め方・方法	実務との関連を強く意識して、授業を行う。授業内容により、プロジェクトを使用する場合がある。						
注意点	授業内容と実務で行われている設計・施工との関連を意識して授業に臨むこと。授業に臨むにあたり必要となる自学自習を充分に行うこと。本科目は隔年開講科目であり、西暦偶数年度は開講しない。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	土の基本的性質（1） 粒径加積曲線と粒度分布の指標		土の生成、基本的物理量、構造などについて説明できる。 土の基本的物理量や土の工学的分類について考察できる。 土の粒径・粒度分布を説明できる。 土の工学的分類について説明できる。		
		2週	土の基本的性質（2） 土のコンシステンシー		土のコンシステンシーを説明できる。		
		3週	土の基本的性質（3） 土の締固め		土の締固め特性について説明できる。		
		4週	土の圧縮と圧密（1） 有効応力の原理		有効応力と間隙水圧の関係を理解している。 圧密について理解し、標準圧密試験を説明できる。 地盤内応力や有効応力の原理を説明できる。		
		5週	土の圧縮と圧密（2） 圧密による最終沈下量の算定		圧密沈下量や圧密沈下時間について説明でき、一次元圧密計算ができる。		
		6週	土の圧縮と圧密（3） 圧密時間の算定と圧密沈下曲線		圧密沈下量や圧密沈下時間について説明でき、一次元圧密計算ができる。		
		7週	土の圧縮と圧密（4） 圧密の促進方法		地盤改良や二次圧密について理解している。 地盤改良について説明できる。		
		8週	土のせん断強さ（1） せん断強さの概念		土のせん断試験について説明できる。 土のせん断試験について考察できる。 土の異方性について説明できる。		
	2ndQ	9週	土のせん断強さ（2） モールの応力円		土の破壊基準を理解している。 土の破壊基準について考察できる。		
		10週	土のせん断強さ（3） クーロンの破壊線		土の破壊基準を理解している。 土の破壊基準について考察できる。		
		11週	土のせん断強さ（4） 砂質土・粘性土のせん断特性		砂質土と粘性土のせん断特性を説明できる。 砂質土・粘性土のせん断特性について考察できる。		
		12週	土圧（1） 土圧の種類		構造物に作用する土圧や地震時の土圧について説明できる。		
		13週	土圧（2） 主働状態、受働状態		構造物に作用する土圧や地震時の土圧について説明できる。		
		14週	土圧（3） クーロンの土圧論		ランキン土圧やクーロン土圧を理解している。		
		15週	土圧（4） ランキンの土圧論		ランキン土圧やクーロン土圧を理解している。		
		16週	前期定期試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	80	0	0	0	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	構造設計特論	
科目基礎情報							
科目番号	63			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	参考書土木構造物の設計：原 隆史：オーム社：978-4-272-21589-6						
担当教員	先村 律雄						
到達目標							
土木構造物の構造設計をおこなう上で必要な基礎知識の修得と実際の設計への応用方法を習得するため以下を目標とする。 ・土木構造物の設計法を理解できる ・限界状態設計法(使用性、安全性)が理解できる ・橋脚の設計ができる ・設計図を書くことができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	限界状態設計法(使用限界と終局限界)について十分に理解できる			限界状態設計法(使用限界と終局限界)について理解できる		限界状態設計法(使用限界と終局限界)について理解できない	
評価項目2	構造物に作用する荷重条件を十分に理解できる			構造物に作用する荷重条件を理解できる		構造物に作用する荷重条件を理解できない	
評価項目3	設計結果を基に簡単な設計図を十分に作成できる			設計結果を基に簡単な設計図を作成できる		設計結果を基に簡単な設計図を作成できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	土木構造物の構造設計法は、限界状態設計法が中心であり、近年はこれを基本とした性能照査型の設計法が提案されている。そこで、限界状態設計法の概要・特徴等について学習し、具体的な構造物を設計し、設計図を書くことによって実設計の基本を理解する。本講義では、鉄筋コンクリート関連で実務経験を有する教員が、その経験を活かし構造設計の授業をおこなう。						
授業の進め方・方法	座学およびCAD実習						
注意点	本科目を受講するための準備学習として、環境都市工学設計製図、コンクリート構造学を履修しておくこと。特に設計製図は、その基本事項を理解しておくこと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	設計とは		設計の基本概念・知識について		
		2週	土木構造物とは		代表的な土木構造物の種類		
		3週	荷重条件		種々の荷重条件を整理できる		
		4週	性能照査		構造物に要求される性能(使用性、修復性)、および地震時の安全性を説明できる		
		5週	大規模地震に対する設計		大規模地震を想定した耐震設計例を挙げて概説したことを理解する		
		6週	設計図		設計図の構成、設計図の内容について概略説明できる		
		7週	設計法		限界状態設計法・性能照査型設計法について、概要・特徴・問題を理解できる		
		8週	限界状態設計法の基本原理		限界状態設計法の基本原理を理解できる		
	4thQ	9週	限界状態設計法による設計その1		鉄筋コンクリート構造物を例にとり限界状態設計法（使用限界状態）を理解		
		10週	限界状態設計法による設計その2		鉄筋コンクリート構造物を例にとり限界状態設計法（終局限界状態：性能Ⅰ）を理解		
		11週	橋脚の設計その1		橋脚の設計（終局限界：性能Ⅰ）をおこない設計図書作成		
		12週	橋脚の設計その2		橋脚の設計（終局限界：性能Ⅰ）をおこない設計図書作成		
		13週	橋脚の設計その3		橋脚CAD作図		
		14週	橋脚の設計その4		橋脚CAD作図		
		15週	定期試験				
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	0	0	0	0	60	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	30	50
専門的能力	20	0	0	0	0	30	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	環境微生物	
科目基礎情報							
科目番号	64			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	環境微生物学--地球環境を守る微生物の役割と応用、久保幹・森崎久雄・久保田謙三・今中忠行、化学同人978-4-7598-1462-0						
担当教員	谷村 嘉恵						
到達目標							
・微生物の分類・代謝、多様性について学ぶことができる。 ・自然の浄化における微生物による有機汚濁の除去、窒素・リンの除去について学ぶことができる。 ・重金属や石油や有機塩素化合物等の念分解性物質の微生物分解特性を理解することができる。 ・環境問題の解決に微生物がどのように働くか、どのように利用しているかについて理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	微生物の基礎が十分に理解できる。			微生物の基礎が理解できる。		微生物の基礎が理解できない。	
評価項目2	種々環境汚染物質に対して微生物の分解メカニズムを十分に理解できる。			種々環境汚染物質に対して微生物の分解メカニズムを理解できる。		種々環境汚染物質に対して微生物の分解メカニズムを理解できない。	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	微生物の分類・代謝特性を概説したうえで、自然界の元素循環・自然の浄化における微生物の関わりについて学習する。さらに、微生物による環境汚染物質の分解や資源・エネルギー問題の対策における微生物の利用などを学ぶ。						
授業の進め方・方法	講義						
注意点	2021年度開講(隔年開講)						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 環境微生物とは		ガイダンス 微生物の分類・分布・生育 環境変化と環境微生物		
		2週	環境微生物の役割と特徴①		炭素の循環と微生物		
		3週	環境微生物の役割と特徴②		窒素の循環と環境微生物		
		4週	環境微生物の役割と特徴③		リンの循環と環境微生物 硫黄の循環と環境微生物		
		5週	極限環境微生物		温度・pH・塩分・圧力に関する極限環境微生物		
		6週	微生物による有害物質除去・分解①		微生物による廃水処理		
		7週	微生物による有害物質除去・分解②		微生物による脱臭		
		8週	微生物による有害物質除去・分解③		微生物による重金属汚染の浄化		
	2ndQ	9週	微生物による有害物質除去・分解④		微生物による石油の分解		
		10週	微生物による有害物質除去・分解⑤		微生物による有機塩素化合物の分解		
		11週	微生物による環境浄化・改善・修復①		水圏・気圏		
		12週	微生物による環境浄化・改善・修復②		土壌①		
		13週	微生物による環境浄化・改善・修復③		土壌②		
		14週	バイオエネルギーと微生物		エタノール、バイオディーゼル、水素		
		15週	総まとめ				
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	40	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	技術者倫理		
科目基礎情報								
科目番号	65			科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2			
開設期	後期			週時間数	2			
教科書/教材	はじめての工学倫理 (昭和堂)							
担当教員	田中 英紀,市村 智康,平社 信人							
到達目標								
技術が社会および自然に及ぼす影響を考慮し、技術者として社会および自然に対する責任を自覚する能力（技術者倫理）が要求される。グループ討議を通して自分の意見をわかりやすく説明し、他者の意見に対するコメント、同調等を涵養する。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	プラスとマイナス面を複数考え、技術者としての責任を負える。			プラス面とマイナス面を考えることができる。		複眼的な見方ができない。		
評価項目2	各人の特別研究を技術者倫理の観点から説明できる。			各人の特別研究をわかりやすく説明できる。		特別研究の意義や倫理的な側面を理解できない		
評価項目3	議事録やパワーポイントをわかりやすくまとめる。			議事録や書類をまとめることができる。		決められた書式に沿って報告書をまとめることができない。		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	オムニバス形式とし、3名の教員で各5回担当する。内容は、原因、責任の所在、社会への影響、自然への影響、考えられる未然処置等、学生が技術に関して多面的に考察できるように、次のテーマについて倫理基礎を学習する。テーマは、組織とエンジニア、企業の社会的責任、安全性と設計、事故調査、製造物責任、知的財産、施工管理、工程管理、維持管理、企業秘密、内部告発、専門的知識の研鑽、専門家の誇り、システム設計の難しさ等である。							
授業の進め方・方法	発表形式の授業で、学生を班分けし、班別に1テーマを担当する。各班は1回の講義を担当し、講義前までにテーマの調査、発表内容を相談し、発表要旨を作成して当日配布する。問題提起を含め担当学生がプレゼンを行い、その後質疑応答を受けて、複数のグループに分かれた学生同士で討議する。時間内に各グループごとのまとめを行って発表する。討議内容は各グループの書記がまとめる。							
注意点	主題に沿った事例があるので、事例を基に概要調査、背景、原因、責任所在、問題提起（討議すべき課題）を明確にして、プレゼン資料や発表要旨を作成すること。主題からずれた問題提起は行わないようにすること。							
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	1. ガイダンス			学習目標、講義の進め方、評価方法、技術者倫理の基礎を説明し、それぞれを理解する。		
		2週	2. 企業の社会的責任			フォードピント事件を題材に主題を理解する。		
		3週	3. 事故調査			日航機二アミス、または設楽高原鉄道事故を題材として主題を理解する。		
		4週	4. 製造物責任			三菱自動車リコール隠し、または六本木ヒルズ回転ドアを題材として主題を理解する。安全について小テストで内容を理解する。		
		5週	5. 安全性と設計			豊洲新市場土壌汚染を題材として主題を理解する。知的財産に関する小テストで内容を理解する。		
		6週	6. 維持管理			笹子トンネル事故を題材として主題を理解する。製造物責任に関する小テストで内容を理解する。		
		7週	7. 知的財産権			遺伝子スパイ事件、または青色発光ダイオード裁判を題材として主題を理解する。ビジネス倫理についての小テストで内容を理解する。		
	8週	8. 施工管理			原発コンクリート大量加水事件、または欠陥住宅を題材として主題を理科する。倫理要綱についての小テストで内容を理解する。			
	4thQ	9週	9. 工程管理			雪印乳業集団食中毒、またはJOC臨界事故を題材として主題を理解する。応用倫理についての小テストで内容を理解する。		
		10週	10. システム設計の難しさ			みずほのシステムトラブル、または小惑星探査機はやぶさを題材として主題を理解する。倫理概念についての小テストで内容を理解する。		
		11週	11. 組織とエンジニア			チャレンジャー号事件を題材として主題を理解する。工学の倫理概念についての小テストで内容を理解する。		
		12週	12. 企業秘密を守る			転職のモラル、新潟鐵工事件、またはIBMさん豪スパイを題材として主題を理解する。		
		13週	13. 内部告発			キルペイン・ゴールド、または日本における内部告発の事例を題材として主題を理解する。		
		14週	14. 専門的知識の研鑽			無駄な開発、または耐震偽造事件を題材として主題を理解する。		
		15週	15. 専門家の誇り			材料特性（鋼材強度）偽装問題を題材として主題を理解する。		
		16週						
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計	
総合評価割合	20	40	0	20	0	20	100	
基礎的能力	0	20	0	0	0	20	40	

專門的能力	20	10	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	10	0	20	0	0	30

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	総合工学
科目基礎情報						
科目番号	66		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻		対象学年	専2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材						
担当教員	櫻井 文仁					
到達目標						
異なる分野の幅広い工学基礎の知識と最も得意とする工学の知識を融合することにより、専門分野を広い視野でとらえることができ、将来、より高度な技術的課題にとりくむことのできる基礎となる能力を養う。具体的には、以下を授業目標としている。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、総合した形で企業等どのように活用・応用されているかの理解度【総合的視点の涵養】。	例を交えて説明できる		理解できる		理解できない	
企業人として活躍するためにはどのような能力が必要であるかを考えることができ、それを高めようと努力する姿勢をとることができるか【コミュニケーション等多用な能力の涵養】	しっかりとできる		できる		できない	
技術者は、社会に対し有益な価値を提供するために存在し、社会の期待に十分応えられてこそ、存在の価値のあることを理解できるか【社会への貢献に向けた課題設定能力】	しっかりとできる		できる		できない	
現役の企業技術者・研究者による授業を通じて、自らの今後のキャリア形成について自分なりに考えることができるか	しっかりとできる		できる		できない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	工学と社会との関わりにおいては、安全や環境に与える影響は重要な事項であり、工学的活動においてはこれらを常に考慮する必要がある。この授業では、環境を含む広義の「安全」をテーマとした事項を、14回にわたり各専門分野の立場から講ずる。各講師それぞれ2回分の講義（工場見学等も含む）が終了した段階で学生にレポートを課し、評価する。初回にガイダンスを行う。最後に期末試験では、講義を通じて学習した事項を参考に、テーマ「安全」に沿って関心を持つ課題を各自が設定し、それについて複数の分野の視点で（例えば機械工学の分野とその他の分野）、A4サイズ2枚程度の分量で論述する。論述内容については、課題設定の妥当性、論旨の明確さ、論述における複合・総合的視点等について評価する。					
授業の進め方・方法						
注意点						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	「総合工学」の科目のねらいと授業の進め方、学び方、総合報告書の書き方および成績評価の方法について説明する。（専任教員：櫻井 文仁）		
		2週	充電式電池による環境・安全への取り組み(その1)	乾電池のように気軽に使え、充電して繰り返し使える「充電式電池」の環境・安全・経済性メリットを紹介する。第1回では、電池のしくみ・分類・主な用途を紹介し、近年開発に成功した低自己放電タイプのニッケル水素電池の開発背景・技術内容・使用メリットを環境・安全側面から紹介する。（大畠 昇太）		
		3週	充電式電池による環境・安全への取り組み(その2)	乾電池のように気軽に使え、充電して繰り返し使える「充電式電池」の環境・安全・経済性メリットを紹介する。第2回目では、「製品のライフサイクルと安全」の観点から、ニッケル水素電池の優れた環境適合性（省資源・省エネ・リサイクル）と、製造工程における労働安全衛生管理、環境負荷低減およびクリーンな社会意識形成への当社の取り組み事例について紹介する。（田口 幸治）		
		4週	知的財産権から見た法的安全性	他社の権利を侵害しない安全（弁理士 下茂 力）		
		5週	知的財産権から見た法的安全性	知的財産権における発明者の安全（弁理士 下茂 力）		
		6週	車載電装品の信頼性（安全）保証(その1)	車は全世界で使われる事を想定しており電装品に対し厳しい環境下での動作保証が求められる。開発に於ける信頼性保証の考え方をP S D（Power Slide Door）を実例に交えて説明する。（大河内 進）		
		7週	車載電装品の信頼性（安全）保証(その2)	（株）ミツバ 新里工場の生産現場の見学を通して、電装品が実際に市場に出るまでの過程を1回目の説明と重ねながら体感して貰う。（大河内 進）		

4thQ	8週	「モノづくり」と「安全」 (その1)	新商品開発の各ステップの概要を説明し、特にその中の「モノづくり」と「安全」について、実際に開発時に使用したQFD (Quality Function Deployment)の資料等を交えてより実践的な講義を行い、学生にモノづくりの楽しさと厳しさを実感して貰いたい。1回目は、商品開発の実際とQFDの使い方及び事例紹介等の講義中心の授業を行う。(北爪三智男)
	9週	「モノづくり」と「安全」 (その2)	2回目は、サンデン(株)赤城事業所の工場見学を主体に研究開発～生産までの一連のステップを現場で体験する。(北爪三智男)
	10週	高速道路ネットワークの安全 (1)	ー地震国日本における耐震技術「生命・財産・経済・社会を守る」ー 日本における高速道路建設などの社会資本整備では、過去に経験した大規模地震による被災事例などを教訓とした改良や数多くの実験的・解析的検討により技術的知見等を積み重ね、今や世界をリードする耐震(免震、制震)技術立国となっている。本講義では、この世界が注目する日本の耐震技術に焦点をあて、具体的な事例中心に解説する。(姫野 岳彦)
	11週	高速道路ネットワークの安全 (2)	ー将来に向けての社会資本の維持管理「高度な道路交通網の安全利用」ー アメリカでの道路橋崩落事故などを受けてクローズアップされている道路ネットワークの安全利用に関しては、日本でも首都圏の高速道路などをはじめとして、老朽化等による損傷事例が多く認められるなど、維持管理・長寿命化技術の開発・確立は急務である。本講義では、これらの技術動向や最新のトピックスを中心に解説する。(姫野 岳彦)
	12週	化学物質の安全性確保について (その1)	化学物質は、私たちの生活と密接な関係があり、素材や製品として生活に多に役立っているが、反面、生態系の被害や地球環境の破壊などの原因にもなっている。化学物質の安全性確保のための法規制及び総合安全管理の現状について講義する。(小林 聖)
	13週	化学物質の安全性確保について (その2)	化学物質の安全性確保について (その1) 内容に続き、講義する。(小林 聖)
	14週	バイオ医薬品製造における「安全」を考える (その1)	多くの薬は、人々のQOLの改善に貢献している。本回では医薬品の開発プロセスを説明し、特に近年重要になっている「バイオ医薬品」の製造プロセスに関して概説する。(馬場 悟史)
	15週	バイオ医薬品製造における「安全」を考える (その2)	バイオテクノロジー応用医薬品の製造においては、組換え体生物を使用する場合がある。その特徴を説明し、組換え体生物の使用に際し遵守すべき法律「カルタヘナ法(遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律)」を概説する。(馬場 悟史)
	16週	試験	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	30	0	0	0	0	70	100
基礎的能力	10	0	0	0	0	20	30
専門的能力	10	0	0	0	0	30	40
分野横断的能力	10	0	0	0	0	20	30

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	環境工学特別研究II	
科目基礎情報							
科目番号	67			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	学修単位: 11		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	通年			週時間数	5.5		
教科書/教材	各担当教員の指示による。						
担当教員	森田 年一						
到達目標							
☐ 研究課題および、その基礎となっている背景を体系的に正しく理解できる。 ☐ 研究課題の遂行に必要な実験的手法、解析的手法、数値的手法、資料・文献調査などの方法を理解し運用できる。 ☐ 得られたデータをまとめ、解析することができ、結果について合理的な説明ができる。 ☐ 研究課題に関わる英語の文献を読むことができる。 ☐ 研究発表会などの場で、自分の研究内容およびその結果を、相手に分かりやすく話すことができる。 ☐ 報告書などの作成において、その構成や文章表現が適切にできる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	研究課題および、その基礎となっている背景を体系的に、十分に正しく理解できる。		研究課題および、その基礎となっている背景を体系的に正しく理解できる。		研究課題および、その基礎となっている背景を体系的に正しく理解できない。		
評価項目2	研究課題の遂行に必要な実験的手法、解析的手法、数値的手法、資料・文献調査などの方法を理解し、十分に運用できる。		研究課題の遂行に必要な実験的手法、解析的手法、数値的手法、資料・文献調査などの方法を理解し運用できる。		研究課題の遂行に必要な実験的手法、解析的手法、数値的手法、資料・文献調査などの方法を理解し運用できない。		
評価項目3	得られたデータをまとめ、解析することができ、結果について合理的な説明が充分にできる。		得られたデータをまとめ、解析することができ、結果について合理的な説明ができる。		得られたデータをまとめ、解析することができ、結果について合理的な説明ができない。		
評価項目4	研究課題に関わる英語の文献を読むことが充分にできる。		研究課題に関わる英語の文献を読むことができる。		研究課題に関わる英語の文献を読むことができない。		
評価項目5	研究発表会などの場で、自分の研究内容およびその結果を、相手に分かりやすく話すことが充分にできる。		研究発表会などの場で、自分の研究内容およびその結果を、相手に分かりやすく話すことができる。		研究発表会などの場で、自分の研究内容およびその結果を、相手に分かりやすく話すことができない。		
評価項目6	報告書などの作成において、その構成や文章表現が、充分、適切にできる。		報告書などの作成において、その構成や文章表現が適切にできる。		報告書などの作成において、その構成や文章表現が適切にできない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目の総授業時間数は371.25時間である。建設工学、都市工学、衛生工学、物質工学、工業化学、材料工学、生物化学、化学、生物学など環境工学に関する特別研究である。						
授業の進め方・方法	正副担当教員の指導の下、上記の分野およびその関連分野に関わる研究課題を、実験的手法、解析的、数値的手法、あるいは、調査、討論などによって解明する。						
注意点	研究成果は年度末に外部への公開で行われる特別研究II発表会で報告しなければならない。なお、特別研究II発表会では研究論文集を作成する。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	環境工学専攻 特別研究II 課題：担当教員／副担当教員 担当教員（正副）の計画にしたがって、テーマごとに行なわれる。		研究成果は年度末に外部への公開で行われる特別研究II発表会で報告する。なお、特別研究II発表会にあたり、特別研究論文集を作成する。また、担当教員（正副）の指導のもと、随時レポート等の報告を行う。		
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					

		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	10	0	0	0	90	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	10	0	0	0	90	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	物理化学特論Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	68			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	参考書：物理化学（上）：マッカーリ・サイモン；東京化学同人 参考書：基礎量子化学：小尾欣一、渋谷一彦；化学同人 参考書：分子の対称と群論：中崎昌雄；東京化学同人 参考書：現代物理化学：寺嶋正秀・馬場正昭・松本吉泰；化学同人						
担当教員	辻 和秀						
到達目標							
単純な系へ摂動法や変分法を適用できる 点群について理解でき、群論の数式が使える 群論を単純な分子の振動分光へ応用できる 群論を単純な分子の分子軌道法へ応用できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	単純な系へ摂動法や変分法を正しく適用できる			単純な系へ摂動法や変分法を適用できる		単純な系へ摂動法や変分法を適用できない	
評価項目2	点群について正しく理解でき、群論の数式が充分使える			点群について理解でき、群論の数式が使える		点群について理解できず、群論の数式が使えない	
評価項目3	群論を単純な分子の振動分光へ充分応用できる			群論を単純な分子の振動分光へ応用できる		群論を単純な分子の振動分光へ応用できない	
評価項目4	群論を単純な分子の分子軌道法へ充分応用できる			群論を単純な分子の分子軌道法へ応用できる		群論を単純な分子の分子軌道法へ応用できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	量子化学の基礎（変分法、摂動法、角運動量） 群論（群、点群、規約表現） 光吸収と摂動法、振動分光法への群論の応用 分子軌道法への群論の応用						
授業の進め方・方法	講義中心の授業であるが、演習を交えながら進める。						
注意点	授業内容の背景にある、量子化学の内容をしっかりと復習して望んでください。課題も多めですが、しっかりと取り組んでください。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	量子化学の基礎 1		シュレディンガー方程式や波動関数の性質について理解し、BO近似について理解する		
		2週	量子化学の基礎 2		角運動量について理解する		
		3週	量子化学の基礎 3		角運動量の合成と多電子原子の項記号について理解する		
		4週	量子化学の基礎 4		定常状態の摂動法および変分法について理解する		
		5週	量子化学の基礎 5		時間依存の摂動法について理解し、光の吸収放出の量子力学的取り扱いについて理解する		
		6週	群論入門 1		分子の点群について理解する。また、群論の数式について理解する		
		7週	群論入門 2		対称操作の表現について理解し、可約表現、既約表現について理解する		
		8週	群論入門 3		指標と指標表について理解し、可約表現の簡約について理解する		
	2ndQ	9週	群論の分光学への応用 1		二原子分子の振動について理解する		
		10週	群論の分光学への応用 2		多電子分子の基準振動について理解する		
		11週	群論の分光学への応用 3		赤外吸収およびラマン散乱の選択則について理解する		
		12週	群論の分子軌道法への応用 1		分子軌道法の特徴について理解する		
		13週	群論の分子軌道法への応用 2		Walsh Diagramについて理解する		
		14週	群論の分子軌道法への応用 3		分子軌道法への群論の応用について理解する		
		15週	群論の分子軌道法への応用 4		SALCについて理解する		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	生物工学特論	
科目基礎情報							
科目番号	69			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	参考書：生物化学工学：海野肇ほか著：講談社サイエンティフィック 参考書：酵素－科学と工学－：堀越弘毅ほか著：講談社サイエンティフィック 参考書：バイオプロセス工学：海野肇ほか著：講談社サイエンティフィック 参考書：バイオケミカルエンジニアリング：佐田栄三・砂本順三編：丸善 参考書：基礎から学ぶ生物化学工学演習：日本生物工学会編：コロナ社						
担当教員	大岡 久子						
到達目標							
☐ 生物が有する機能を有効に利用する手段，問題点などを説明できる。 ☐ バイオリアクターやバイオセパレーションについて説明できる。 ☐ 酵素や微生物の特性と工学的利用について説明できる。 ☐ 細胞培養技術や植物育種について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	生体触媒，固定化生体触媒について説明できる			生体触媒，固定化生体触媒について理解できる		生体触媒，固定化生体触媒について理解できない	
評価項目2	プロテインエンジニアリングについて説明できる			プロテインエンジニアリングについて理解できる		プロテインエンジニアリングについて理解できない	
評価項目3	微生物などの生物利用について説明できる			微生物などの生物利用について理解できる		微生物などの生物利用について理解できない	
評価項目4	反応器としてのバイオリアクターやバイオセパレーションの方法について説明できる			反応器としてのバイオリアクターやバイオセパレーションの方法について理解できる		反応器としてのバイオリアクターやバイオセパレーションの方法について理解できない	
評価項目5	細胞培養技術の利用や植物バイオテクノロジーについて説明できる			細胞培養技術の利用や植物バイオテクノロジーについて理解できる		細胞培養技術の利用や植物バイオテクノロジーについて理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目の総授業時間数は22.5時間である。 酵素，バイオリアクター，バイオセパレーション，生物プロセスの計測と制御などに関する理解を通じて，技術的課題に対応する能力を修得する。 酵素反応，微生物反応などの利用方法や問題点などを理解する。細胞工学の応用について理解する。						
授業の進め方・方法	講義，演習，解説						
注意点	分からないことは質問する						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	生物工学とは 化学工学の基礎 生物化学の基礎		化学工学と生物化学の基礎的内容が理解できる		
		2週	酵素の利用（1） 酵素の概要と特徴（反応性，特異性，反応速度，阻害剤など）		酵素反応の特徴を理解できる		
		3週	酵素の利用（2） 酵素の固定化（担体結合法，架橋法，包括法）		酵素の固定化について理解できる		
		4週	プロテインエンジニアリング（1） タンパク質の人工合成		タンパク質の人工合成について理解できる		
		5週	プロテインエンジニアリング（2） タンパク質のデザイン		タンパク質のデザインについて理解できる		
		6週	微生物などの利用（1） 微生物の特性 微生物における反応速度論		微生物の特性や反応速度論について理解できる		
		7週	微生物などの利用（2） 微生物の利用		微生物の工学的利用について理解できる		
		8週	確認テスト				
	2ndQ	9週	バイオリアクター（1）		バイオリアクターの概要について説明できる		
		10週	バイオリアクター（2）		反応器，培養槽としてのバイオリアクターについて説明できる		
		11週	バイオリアクター（3） バイオセパレーション（1）		バイオリアクターの設計について理解できる バイオセパレーションの概要について説明できる		
		12週	バイオセパレーション（2）		バイオセパレーションの単位操作について理解できる		
		13週	生物工学の応用（1）		生物工学の応用について説明できる		
		14週	生物工学の応用（2）		細胞培養技術の利用について説明できる		
		15週	生物工学の応用（3）		植物細胞工学と植物育種について理解できる		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	10	0	10	100
基礎的能力	30	0	0	5	0	5	40

專門的能力	50	0	0	5	0	5	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	土木工学演習 I	
科目基礎情報							
科目番号	70			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	1		
教科書/教材							
担当教員	堀尾 明宏,谷村 嘉恵,宮里 直樹						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	土木工学の幅広い知識と問題解決能力を十分に身に着けている。			土木工学の幅広い知識と問題解決能力を身に着けている。		土木工学の幅広い知識と問題解決能力を身に着けていない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	・ 自然環境における水域の水質について学習できる。 ・ 上水道・下水道に関する知識の復習ができる。 ・ 廃棄物処理に関する学習できる。 ・ 地球環境問題や環境生物について学ぶことができる。						
授業の進め方・方法	土木工学は対象が広範囲にわたっており、幅広い総合的な知識、問題解決能力が必要とされている。従来より土木基礎科目は構造系・水系・土系・計画系・材料系・環境系に分類され講義が行われている。土木工学演習 I では、水質、上水道、下水道、廃棄物処理、地球環境問題、環境生物等を対象分野とする。演習問題を解くことにより基礎知識を確実なものとし、さらに応用問題により問題解決能力を養成する。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	水質・上水道		水質・上水道 (1)		
		2週	水質・上水道		水質・上水道 (2)		
		3週	水質・上水道		水質・上水道 (3)		
		4週	水質・上水道		水質・上水道 (4)		
		5週	水質・上水道		水質・上水道 (5)		
		6週	下水道、廃棄物処理		下水道、廃棄物処理 (1)		
		7週	下水道、廃棄物処理		下水道、廃棄物処理 (2)		
		8週	下水道、廃棄物処理		下水道、廃棄物処理 (3)		
	2ndQ	9週	下水道、廃棄物処理		下水道、廃棄物処理 (4)		
		10週	下水道、廃棄物処理		下水道、廃棄物処理 (5)		
		11週	地球環境、環境微生物		地球環境、環境微生物 (1)		
		12週	地球環境、環境微生物		地球環境、環境微生物 (2)		
		13週	地球環境、環境微生物		地球環境、環境微生物 (3)		
		14週	地球環境、環境微生物		地球環境、環境微生物 (4)		
		15週	地球環境、環境微生物		地球環境、環境微生物 (5)		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他（課題）	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	100	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	土木工学演習Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	72			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	1		
教科書/教材							
担当教員	先村 律雄,鈴木 一史,永野 博之						
到達目標							
水理学に関する問題を理解し、活用できる 計画理論に関する問題を理解し、活用できる 土木施工に関する問題を理解し、活用できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	水理学に関する問題を十分に理解し活用できる			水理学に関する問題を理解し活用できる		水理学に関する問題を理解も活用もできない	
評価項目2	計画理論に関する問題を十分に理解し活用できる			計画理論に関する問題を理解し活用できる		計画理論に関する問題を理解も活用もできない	
評価項目3	土木施工論に関する問題を十分に理解し活用できる			土木施工に関する問題を理解し活用できる		土木施工に関する問題を理解も活用もできない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科で学習した環境都市工学に関する内容から、水理、計画および施工に関連した分野の応用的な部分について、基礎および応用面の両面に関する演習をおこなう。基礎では、次元と単位・流れの基礎理論・管水路流れの基礎理論・開水路流れの基礎理論、国土計画・交通計画・ICT施工の必要性等、応用面では、管水路流れの応用・開水路流れの応用・都市防災・国土交通製作・ICT施工に必要な空間データ等の演習を実施する						
授業の進め方・方法	基礎部分は講義形式、応用面は演習問題による課題提出 本講義では、i-Construction関連で実務経験を有する教員がその経験を活かし、土木工学についての授業をおこなう						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	担当：永野 水理学系の演習（1）		次元と単位・水の物理的性質・流体の分類・静水力学		
		2週	水理学系の演習（2）		流れの基礎理論（ベルヌーイの定理）とその応用		
		3週	水理学系の演習（3）		流れの基礎理論（運動量方程式）とその応用		
		4週	水理学系の演習（4）		管水路流れの基礎理論とその応用：水理学の総合レポート(1)		
		5週	水理学系の演習（5）		開水路流れの基礎理論とその応用：水理学の総合レポート(1)		
		6週	担当：鈴木（一） 計画系の演習（1）		国土計画・交通計画		
		7週	計画系の演習（2）		交通計画・交通工学		
		8週	計画系の演習（3）		公共計画・事業評価		
	2ndQ	9週	計画系の演習（4）		都市防災・国土交通政策		
		10週	計画系の演習（5）		まとめ		
		11週	担当：先村 土木施工系の演習（1）		ICT施工の必要性と現状		
		12週	土木施工系の演習（2）		ICT施工に必要なデバイス		
		13週	土木施工系の演習（3）		ICT施工に必要な空間データ		
		14週	土木施工系の演習（4）		ICT施工で流通するデータフロー		
		15週	土木施工系の演習（5）		まとめ：ICT施工に関するレポート		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	50
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	総合化学演習 I	
科目基礎情報							
科目番号	73			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	1		
教科書/教材							
担当教員	藤野 正家,辻 和秀						
到達目標							
解説と演習により物理化学の基本事項を復習し、学んだ知識を定着させる。 (1) 熱力学、相・化学・電離平衡を理解し、計算問題を解ける。 (例：気体の膨張にともなう仕事、熱、温度等。) (2) 気体分子運動論、化学反応論、量子化学の基本を理解し、計算問題を解ける。 (例：触媒反応の速度式等。)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	熱力学、相・化学・電離平衡を深く理解し、計算問題を的確に解ける。		熱力学、相・化学・電離平衡を理解し、計算問題を解ける。		熱力学、相・化学・電離平衡の計算問題を解けない。		
評価項目2	気体分子運動論、化学反応論、量子化学の基本を深く理解し、計算問題を的確に解ける。		気体分子運動論、化学反応論、量子化学の基本を理解し、計算問題を解ける。		気体分子運動論、化学反応論、量子化学の基本の計算問題を解けない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	物理化学の基本事項であるエネルギーと反応速度について、基礎的な重要項目に掛かる演習問題を解き、解き方を発表する。発表によりデザイン能力とプレゼンテーション力を育成する。必要に応じて解説を行い、復習を促す。この科目は、企業で機能性有機物質の研究開発に携わっていた教員が、その経験を活かし、物性化学について授業を行うものである。						
授業の進め方・方法	座学 演習問題を事前に配布し、授業でその解き方を発表させる。 必要に応じて解説を行う。 各分野の終了時に小テストを行う。						
注意点	物理化学特論 I、II、IIIで学んだ内容をよく復習しておくこと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンスと本科授業の復習		授業の進め方を理解する。 本科の授業を復習する。		
		2週	熱力学と平衡論		演習問題を解く。 レポートを提出する。		
		3週	熱力学と平衡論		演習問題を解く。 レポートを提出する。		
		4週	熱力学と平衡論		演習問題を解く。 レポートを提出する。		
		5週	熱力学と平衡論		演習問題を解く。 レポートを提出する。		
		6週	熱力学と平衡論		演習問題を解く。 レポートを提出する。		
		7週	熱力学と平衡論		演習問題を解く。 レポートを提出する。		
		8週	熱力学と平衡論		演習問題を解く。レポートを提出する。 小テスト。		
	2ndQ	9週	気体分子運動論と化学反応論、量子化学		演習問題を解く。 レポートを提出する。		
		10週	気体分子運動論と化学反応論、量子化学		演習問題を解く。 レポートを提出する。		
		11週	気体分子運動論と化学反応論、量子化学		演習問題を解く。 レポートを提出する。		
		12週	気体分子運動論と化学反応論、量子化学		演習問題を解く。 レポートを提出する。		
		13週	気体分子運動論と化学反応論、量子化学		演習問題を解く。 レポートを提出する。		
		14週	気体分子運動論と化学反応論、量子化学		演習問題を解く。 レポートを提出する。		
		15週	気体分子運動論と化学反応論、量子化学		演習問題を解く。レポートを提出する。 小テスト。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	0	0	0	0	40	100

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	総合化学演習Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	74			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	1		
教科書/教材	配布プリント						
担当教員	齋藤 雅和						
到達目標							
☐ 分析化学の演習を行い，応用力を身につけることができる。 ☐ 錯体化学の演習を行い，応用力を身につけることができる。 ☐ セラミックスの構造と物性に関する演習を行い，応用力を身につけることができる。 ☐ 無機材料化学に関する演習を行い，応用力を身につけることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 分析化学の演習を行い，応用力を身につけることができる。		達成目標を十分理解し，説明することができる。		達成目標をおおむね理解し，説明することができる。		達成目標の理解度が半分程度で，説明することができない。	
評価項目2 錯体化学の演習を行い，応用力を身につけることができる。		達成目標を十分理解し，説明することができる。		達成目標をおおむね理解し，説明することができる。		達成目標の理解度が半分程度で，説明することができない。	
評価項目3 セラミックスの構造と物性に関する演習を行い，応用力を身につけることができる。		達成目標を十分理解し，説明することができる。		達成目標をおおむね理解し，説明することができる。		達成目標の理解度が半分程度で，説明することができない。	
評価項目4 無機材料化学に関する演習を行い，応用力を身につけることができる。		達成目標を十分理解し，説明することができる。		達成目標をおおむね理解し，説明することができる。		達成目標の理解度が半分程度で，説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		* 分析化学 * 錯体化学 * 物質の構造 * セラミックスの構造と物性 * 無機材料化学					
授業の進め方・方法		演習形式					
注意点		自分の力で問題を解くことを心がけること。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	無機化学（1）		原子の電子構造に関する演習問題を解くことが出来る。		
		2週	無機化学（2）		化合物と物質の結晶構造に関する演習問題を解くことが出来る。		
		3週	無機化学（3）		s-ブロック元素に関する演習問題を解くことが出来る。		
		4週	無機化学（4）		p-ブロック元素に関する演習問題を解くことが出来る。		
		5週	無機化学（5）		d-ブロック元素に関する演習問題を解くことが出来る。		
		6週	セラミックス（1）		酸化物，窒化物，炭化物の製造と性質に関する演習問題を解くことが出来る。		
		7週	セラミックス（2）		不定比化合物と電気伝導性に関する演習問題を解くことが出来る。		
		8週	セラミックス（3）		複合材料に関する演習問題を解くことが出来る。		
	2ndQ	9週	分析化学（1）		化学平衡に関する演習問題を解くことが出来る。		
		10週	分析化学（2）		酸と塩基に関する演習問題を解くことが出来る。		
		11週	分析化学（3）		酸化還元に関する演習問題を解くことが出来る。		
		12週	無機化学（6）		溶液論に関する演習問題を解くことが出来る。		
		13週	無機化学（7）		電池反応に関する演習問題を解くことが出来る。		
		14週	無機化学（8）		錯体に関する演習問題を解くことが出来る。		
		15週	無機化学（9）		錯体の物性に関する演習問題を解くことが出来る。		
		16週	試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	30	30
専門的能力	0	0	0	0	0	40	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	30	30

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	建設材料特論	
科目基礎情報							
科目番号	79			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	コンクリート構造工学、弾塑性力学、コンクリート技術の要点						
担当教員	田中 英紀						
到達目標							
建設材料として主に利用されるコンクリートおよび鋼材の材料特性を理解し、両者を用いた鉄筋コンクリート部材の力学特性を設計手法と併せて習得する。さらに、鉄筋コンクリート部材の経時劣化を評価できる解析または、数学モデルを理解し、ライフサイクルコストを考慮した耐久性・耐荷性設計の基本を身に着ける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	コンクリートと鋼材の基本する気圧特性を理解する。			構成則を理解できる。		基本力学特性が理解できない。	
評価項目2	コンクリートの劣化原因とその解析モデルが理解できる、			塩害、中性化の予測する数学モデルが理解できる、		経時劣化を予測するモデルが理解できない。	
評価項目3	最新の補修・補強の定義が理解でき、主な施工方法が理解できる。			補修・補強の定義と施工方法が理解できる。		補修および補強の意図が理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	コンクリートと鋼材の基本力学特性を復習し、鉄筋コンクリート部材耐力、塩害、中性化、アルカリ骨材反応を中心とした経時劣化現象を概説し、その数学モデルを利用して劣化予測を理解する。さらに、これらの劣化に対する補修および補強工法を説明し、環境負荷低減技術と併せて実務の基礎を理解する。						
授業の進め方・方法	講義形式で、隔年開講する。						
注意点	評価は、定期末試験のみで行う。 コンクリート工学およびコンクリート構造学を履修していること。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 概要			講義の概要、建設材料の特性	
		2週	2. 材料特性 1			応力－ひずみ関係、ポアソン比、弾性係数等の復習を行う。	
		3週	3. 材料特性 2			公称応力－公称ひずみ、真応力－真ひずみ、一般化弾性テンソル、弾性と塑性、降伏関数	
		4週	4. ひび割れ			主応力とモールの応力円、曲げひび割れとせん断ひび割れ	
		5週	5. 部材に耐力			曲げ耐力とせん断耐力、軸力と曲げの相互作用	
		6週	6. 耐久性 1			水和熱による温度応力、ひび割れ指数、非定常熱伝導解析、ひび割れ低減技術	
		7週	7. 耐久性2			凍害と塩害、腐食のメカニズム、塩化物イオンの浸透予測解析、対策	
		8週	8. 耐久性 3			アルカリ骨材反応、硫化水素による劣化、対策	
	2ndQ	9週	9. 耐久性 4			コンクリートと鋼材の疲労、S－N曲線、線形累積損傷、損傷力学	
		10週	10. 劣化診断技術			非破壊試験、反発硬度法、コア採取、SEM、弾性法、電磁波レーダー法	
		11週	11. 補修と補強 1			補修と補強の定義、各種補修工法	
		12週	12. 補修と補強 2			各種補強工法、ライフサイクル	
		13週	13. 環境との調和 1			環境負荷低減技術その 1	
		14週	14. 環境との調和 2			環境負荷低減技術その 2	
		15週	15. 総まとめ			建設材料の特性総まとめ	
		16週	16. 定期試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	0	20
専門的能力	80	0	0	0	0	0	80
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0